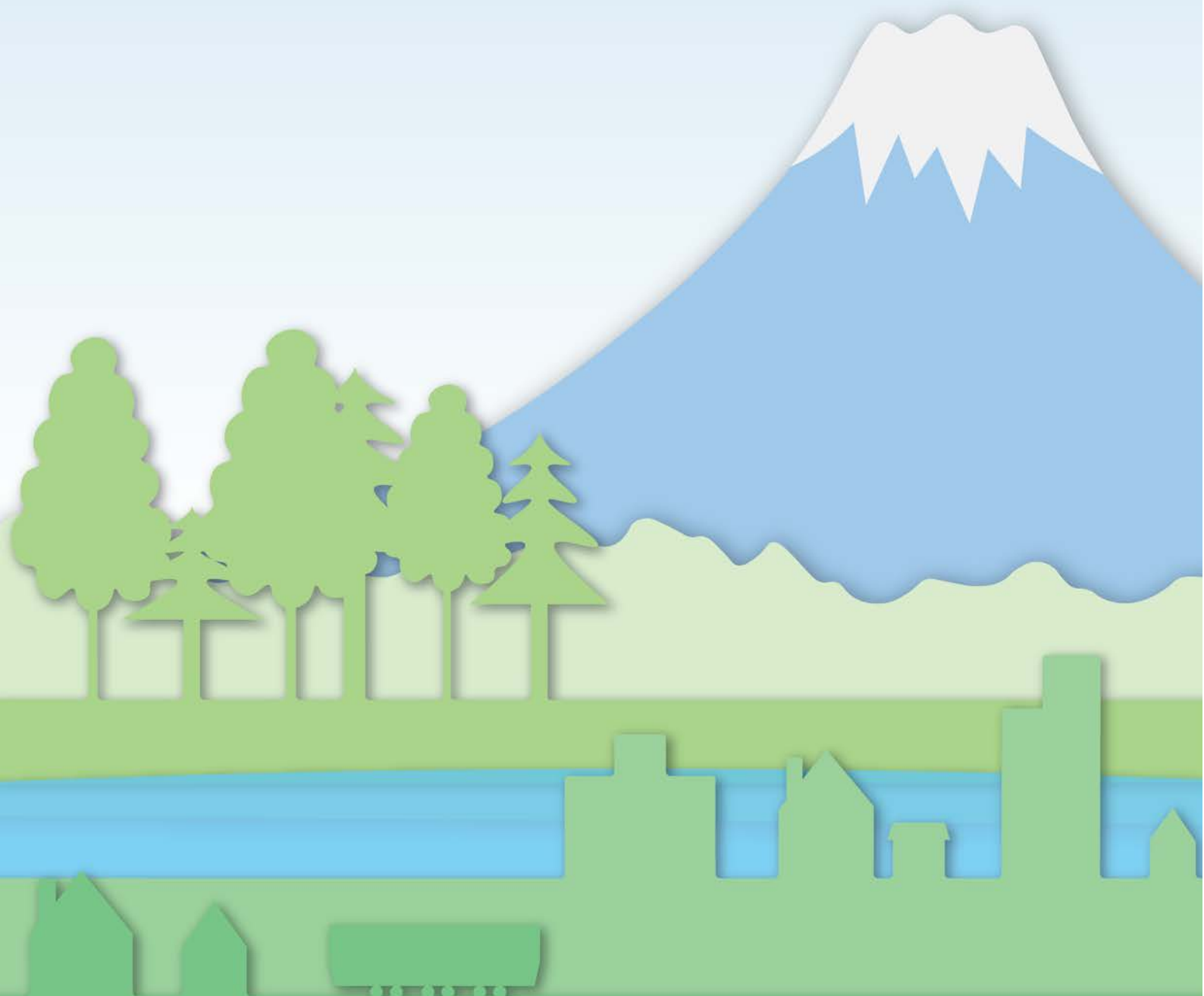


2020年 富士宮市 公共施設再編計画



富士宮市
FUJINOMIYA CITY

目次

第1章 計画策定の趣旨

1 計画策定の背景	1
2 計画の位置付け	2
3 目指すべき方向性	3

第2章 計画の基本的な考え方

1 再編を進める上での基本的な考え方	4
（1） 将来に向けた適正な資産配分	4
（2） 機能性や利便性を重視した施設の活用	4
（3） ニーズを的確に捉えた行政サービスへの見直し	5
（4） 地域における課題や特性に配慮した施設配置	5
（5） 地域コミュニティの維持、強化に向けた拠点づくり	6
2 再編における手法の整理	7

第3章 再編の効果及び留意点

1 再編により期待される効果	9
（1） 施設を連携することによる相乗効果	9
（2） コミュニティの拠点の形成	9
（3） 施設に掛かるコストの削減	9
（4） 施設整備に掛かる財源の創出	9
2 再編を進める上での留意点	10
（1） 地域との調整の必要性	10
（2） 施設利用への影響や効果の把握	10
（3） 再編における施設評価、優先順位の設定	10
（4） まちづくりの観点からの施設配置	10

第4章 施設分類別再編方針

1 施設分類別再編方針の概要	11
2 計画期間	12
3 対象施設	12
4 施設の更新時期の設定	13
（1） 施設の更新時期の設定	13
（2） 複数棟で構成される施設の更新時期の設定	13
5 再編圏域	14
（1） 再編圏域の定義	14
（2） 施設に応じた対象エリアの考え方	14
（3） 再編の考え方	16

6	施設評価	17
(1)	施設評価の概要	17
(2)	施設評価①	21
(3)	施設評価②	29
7	施設分類別再編方針の策定	32
(1)	大宮東地域	34
(2)	大宮中地域	43
(3)	大宮西地域	55
(4)	富丘地域	60
(5)	富士根南地域	69
(6)	富士根北地域	74
(7)	北山地域	82
(8)	上野地域	92
(9)	上井出地域	98
(10)	白糸地域	107
(11)	芝川地域	114

第5章 今後の取組方針

1	計画の取組体制	138
(1)	全庁的な取組体制	138
(2)	市民との連携	138
(3)	情報管理	139
(4)	個別施設計画の策定	139
2	フォローアップの実施	140
3	計画の定期的な見直し	140
4	事前協議制度の導入	140

資料編

資-1	施設評価①の結果	141
資-2	施設評価②の結果	167
資-3	公共施設に関する市民アンケート調査	178
資-4	市民ワークショップによる再編モデル案の提案	185
資-5	再編計画対象施設一覧	196

第1章 計画策定の趣旨

1 計画策定の背景

本市が保有する公共施設は、昭和50年代から平成初期にかけて整備されたものが多く、現在では、建築後30年以上経過した建物が公共施設全体の5割以上を占めています。このままでは、この期間に整備された施設の改修や建て替えが一時期に集中することが想定されます。

また、現在の本市の総人口は、人口増加のピークを過ぎ、緩やかな減少傾向にあります。年齢構成についても、少子高齢化の影響による生産年齢人口と年少人口の割合の低下がますます進行していくと想定されることから、公共施設の余剰スペースの増加や将来の公共施設の整備に対する財源不足が懸念されます。

本市が保有する公共施設を現状のまま全て維持するという前提の下、耐用年数を40年と仮定して中長期的に発生する更新費用を試算したところ、今後40年間で総額1,541.6億円、1年当たり38.5億円を要し、充当可能な財源見込額とした1年当たり18.7億円と比較して、1年当たり19.8億円の財源が不足する結果となりました。

このような状況に対応するために、本市では、平成27年度に富士宮市公共建築物長寿命化計画（以下「長寿命化計画」という。）を策定し、公共建築物の目標耐用年数を70年と定め、施設の点検診断に基づく劣化評価、優先順位付けを行った上で、公共建築物の長寿命化事業に取り組んでいるところですが、平成28年度に策定した富士宮市公共施設等総合管理計画（以下「総合管理計画」という。）では、この長寿命化への対応に加えて、公共施設の総量縮減等の目標数値を掲げ、施設類型ごとの管理に関する基本方針を定めています。

今後、本市の公共施設を適切に管理していくためには、施設管理の適正化により、公共施設の長寿命化を積極的に推進するとともに、時代のニーズや機能を重視した施設総量の適正化にも努め、財政負担の抑制及び平準化を実現する必要があります。

そこで、現在進めている公共施設の長寿命化と併せて、コスト削減とサービス水準の維持を目指した公共施設の再編を推進し、それを検討するための基本的な考え方と方針を示した富士宮市公共施設再編計画（以下「再編計画」という。）を策定し、市民の皆さんの御意見をお聴きしながら、より一層の公共施設の適正管理に努めていきます。

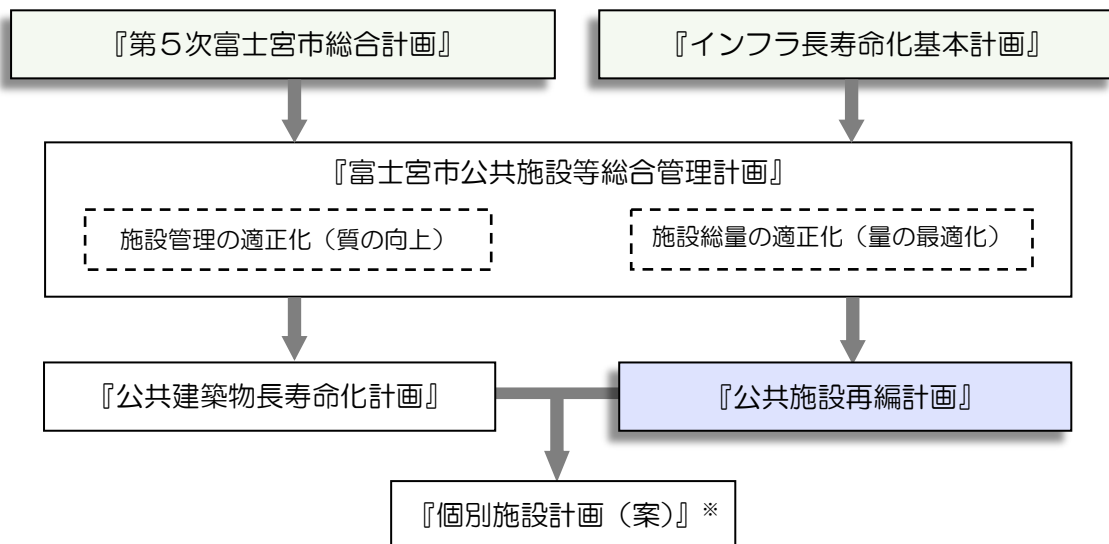
2 計画の位置付け

再編計画は、本市の最上位計画である第5次富士宮市総合計画と、国が定めたインフラ長寿命化基本計画の下位に位置する総合管理計画で定めた施設総量の適正化を図るための基本方針に基づいています。

また、再編計画は、国の各省庁から各施設所管部署に向けて策定が要請されている個別施設計画においても、その基本的な方針となるものです。

なお、個別施設計画の策定に当たっては、国から示されたガイドラインの中で、施設の状態、維持管理や更新等に係る対策の優先順位の考え方、対策の内容や実施時期を盛り込むことが明記されていますが、今後は、総合管理計画や長寿命化計画と併せて、個別施設計画策定に向けた支援を行っていきます。

図1 再編計画の位置付け



※ 更新・長寿命化等の実施計画

表1 各省庁から策定を求められている個別施設計画

＜個別施設計画策定のためのガイドライン＞（総務省ホームページ抜粋）	
学 校 施 設	設：学校施設の長寿命化計画策定に係る手引き（文部科学省）
ス ポ ー ツ 施 設	設：スポーツ施設のストック適正化ガイドライン（スポーツ庁）
社 会 教 育 施 設	設：学校施設及びスポーツ施設に係る手引きを参照（文部科学省）
庁 舎 施 設	設：保全マネジメントシステム（BIMMS）導入・活用事例集（国土交通省）
消 防 施 設	設：消防組合における個別施設計画の策定にあたっての留意事項（消防庁）
公 営 住 宅	設：個別施設計画策定マニュアル（国土交通省）
ご み 焼 却 施 設	設：廃棄物処理施設長寿命化総合計画作成の手引き ごみ焼却施設編（環境省）
し尿処理施設、汚泥再生処理センター	設：廃棄物処理施設長寿命化総合計画作成の手引き し尿処理施設、汚泥再生処理センター編（環境省）
自 然 公 園 等 施 設	設：自然公園等施設長寿命化計画策定指針（環境省）

3 目指すべき方向性

人口減少や年齢構成の変化に伴う厳しい財政状況が予想される中、これからは、公共施設の大規模修繕や建て替え等の時期を捉え、施設総量の適正化を図るための多機能化や集約化を検討することが必要となります。

しかしながら、時代のニーズや地域の在り方が変わっていく中でも、公共施設は、市民の要望に応えるため、将来にわたり地域まちづくりやコミュニティに貢献していかなければなりません。

そこで、公共施設の再編は、施設総量の適正化を前提とする一方で、時代のニーズに対応する施設への再生や地域のまちづくり、地域コミュニティの活性化等も併せて考えていくことが重要であることから、公共施設の再編における目指すべき方向性を次のように定めます。

【財政状況に見合ったコスト構造とするための施設総量の適正化の実現】

- ・人口減少社会や今後の財政状況を見据え、公共施設の更新の際には、多機能化、集約化又は民間等への移譲を検討し、将来コストに見合った施設総量の適正化を目指します。

【時代のニーズに対応できる公共施設への再生】

- ・機能を重視した公共施設への転換を図り、効率的で利便性の高い運営の下、時代のニーズに対応できる公共施設への再生を目指します。

【地域の核となる公共施設への整備の展開】

- ・地域ごとの異なる課題や特性に配慮し、施設の用途や規模等についても、既成概念に捉われず、全ての世代の方にとって利用しやすい地域コミュニティの活性化につながる公共施設の整備を目指します。

第2章 計画の基本的な考え方

1 再編を進める上での基本的な考え方

将来に向けた公共施設の在り方を検討するため、ここでは、その根幹となる5つの考え方を示すとともに、各施設の実状を考慮しながら再編を進めていきます。

なお、公共施設の在り方は、市民生活に大きな影響を与えることから、基本的な考え方の決定に当たり、アンケート等を活用して市民の皆さんの御意見を参考にしています。

(1) 将来に向けた適正な資産配分

ア 世代間の負担の公平性

公共施設を安全に引き継ぎ、将来世代において過度な負担とならないよう、今ある公共施設を適正に管理するとともに、最大限に活用します。

また、再編を検討する際には、施設を維持することができなくなるなど、将来の市民生活に大きな影響を与えることのないよう、総合管理計画における施設総量の適正化の目標を踏まえつつ、現世代と将来世代の負担の均衡を図ります。

イ 人口構造の変化を踏まえた偏りのない配置

利用者や地域が偏らないよう公共施設を配置するため、再編を検討する際には、将来の人口構造の変化等を踏まえ、可能な限り「偏りの少ない施設の配置」を考えます。

なお、施設の配置の検討に当たっては、現在の施設規模のみから考えるのではなく、地域における特性や将来のあるべき姿を考慮して、長期的な視点に立った検討を行うこととします。

ウ 時代の変化を踏まえた段階的な再編

再編を成功させるためには、将来における人口・施設・財政のリスクを予想し、施設の効率化や機能の在り方、再編モデルの検証等を行った上で実行していく必要があります。

よって、再編を検討する際には、時代の変化を踏まえ、定期的に進捗状況の検証を行うとともに、計画的かつ段階的に施設の再編を進めます。

(2) 機能性や利便性を重視した施設の活用

ア 類似又は重複する機能の集約

これまで、市民の需要に応える形で、様々な公共施設の整備を進めてきましたが、再編を検討する際には、利用者の利便性の向上、効率的な施設利用、集約による相乗効果等を念頭に、機能や使い方等の実態をより細かく調査し、整備費用を十分に意識する中で、類似又は重複する機能を持つ施設の集約を図ります。

イ ユニバーサルデザインや環境への配慮

公共施設を誰もが同じように利用できるようにするためには、プライバシーや安全・安心の確保に配慮しなければなりません。また、これからの公共施設は、環境負荷の低減と維持管理コストの削減を図る必要があります。

よって、再編を検討する際には、ユニバーサルデザインの視点を取り入れるとともに、省エネルギー設備の導入等を積極的に進めます。

ウ 余剰スペースの利活用による財源の創出

厳しい財政見通しの中、必要なサービスを持続的に提供していくためには、施設規模の適正化や財源創出の視点が欠かせません。

よって、再編を検討する際には、公共施設に生じた余剰スペースは未利用のまま保有せず、民間等への売却又は有償貸付けを検討するとともに、そこから生じた利益は、積立てや更新等の整備費用として活用します。

(3) ニーズを的確に捉えた行政サービスへの見直し

ア 多様な主体による行政サービスの提供

これまでは、人口の増加や市民のニーズに合わせてサービスの種類と量を拡大してきましたが、ニーズが多様化する中で、今後、行政だけでそれに的確に添えていくのは困難といえます。

現在、行政で提供しているサービスの中には、既に民間事業者により類似のサービスが提供されているものや市民が担い手となっているものもあることから、再編を検討する際には、行政の役割の一部を民間が担うことを推進するとの考えの下、多様な主体による行政サービスの提供を検討します。

イ 民間のノウハウの活用

時代が求めるニーズに対して公共施設の限られた延べ床面積で対応するには、行政しか担えない機能と民間でも担える機能を検証し、官民の役割分担を踏まえた機能再編を行う必要があります。

よって、再編を検討する際には、民間の持つノウハウを活用し、より良いサービスを提供できるものやサービス水準の向上につながるものを調査する中で、少ない床面積で機能を維持することができる方法を検討します。

(4) 地域における課題や特性に配慮した施設配置

ア 地域事情の的確な把握

公共施設は、これまで施策目的等を踏まえて、用途ごとに定められた基準により整備されてきましたが、人口減少や少子高齢化等の影響により、地域の課題やニーズは、今後、変化していくことが予想され、その変化に対してサービスや施設規模が合わなくなる場合も考えられます。

このことから、再編を検討する際には、将来にわたり、継続して地域に最適なサービスを提供できるよう検討します。

イ 交通の連携を意識した施設配置

公共施設は、その用途によりサービス提供の対象エリアが異なるとともに、人口減少や少子高齢化の進行に伴い、地域によっては施設の配置状況も大きく異なります。

そこで、再編を検討する際には、施設の機能や使い方等の実態を調査し、地域におけるサービスの低下を最小限に抑えるため、公共交通等を含む都市政策との連携を図りながら整備を進めます。

(5) 地域コミュニティの維持、強化に向けた拠点づくり

ア 世代間や異なる団体との交流促進

人口減少や少子高齢化の進行に伴い、地域コミュニティ維持への影響が懸念される一方で、人と人との触れ合いによる生きがいの創出や地域による見守り、共助による減災への取組等、地域コミュニティは、今後、更にその重要性を増していくと考えられます。

そこで、再編を検討する際には、地域コミュニティの維持・強化につながる整備を行い、多世代交流や分野の異なる地域団体との交流等を促す環境づくりを進めます。

イ 地域活性化を支える施設の創出

公共施設を単にサービスを提供する場としてではなく、地域活性化を支える施設へと変えていくためには、環境が変化してもそこに「通いたくなる」施設となるよう整備する必要があります。

そこで、再編を検討する際には、「人の集まりやすい施設」を念頭に、地域の交流拠点となる施設を目指すとともに、住民が地域の核となる施設としてイメージできるよう整備を進めます。

2 再編における手法の整理

類似するサービスを1つの施設に集める「集約化」や異なるサービスを1つの施設で提供する「多機能化」は、再編の有効な手法の1つであり、維持管理コストの削減や利便性の向上等の効果が期待されます。

総合管理計画では、公共施設の再編における手法として、適正な施設総量を実現させるための手段と取組イメージを示しましたが、ここでは、それらの手法を組み合わせた再編モデルを例示します（ここに示す再編モデルは、飽くまでイメージです。）。

再編モデルⅠ 学校施設を中心とした地域コミュニティの再生

児童生徒の減少が進む地域の小規模校を建て替える際は、地域コミュニティの拠点施設として活用できるよう、施設の一部に、子育て関連施設、高齢者福祉施設、集会施設等を多機能的に整備する。

【学校施設の多機能化によるメリット】

- ・単独で整備するよりも施設をより効果的に活用することができる。
- ・学校施設と社会教育施設を一体的に整備することにより、児童生徒の学びの場としてだけでなく、地域住民に対しても多様な学習の場を創出することができる。
- ・学校施設と福祉機能を持つ施設を一体的に整備することにより、地域住民が集い、交流する場として活用することができ、地域の活性化を図ることができる。

再編モデルⅡ 余剰スペースの圧縮

空き教室のある学校施設や利用頻度の少ないスペースを抱える会館等を建て替える際に、再編モデルⅠのような「多機能化」が困難な場合は、余剰スペースを圧縮し、コンパクトに建て替える。

【余剰スペースの圧縮によるメリット】

- ・建物の縮小により生み出される跡地（土地）の活用を図ることができる。
- ・建て替えに掛かる費用や維持管理コストの削減を図ることができる。

再編モデルⅢ 大規模施設への民間活力の導入

図書館や文化会館、体育館等の大規模な集客施設を建て替える際に、民間の資金やノウハウを活用し、市民が集まる新たな拠点施設として、商業施設等と多機能的に整備する。

【民間活力の導入によるメリット】

- ・民間の資金を活用することにより、建て替えに掛かる多額のコストを抑えることができる。
- ・民間のノウハウを活用することにより、利用者のニーズに対応した利便性の高いサービスの提供が見込まれる。
- ・民間へのスペースの貸出しにより、貸付収入や維持管理コストの負担軽減が見込まれる。

図2 適正な施設総量を実現させるための手段と取組イメージ

手段	取組イメージ
<p>① 多機能化</p> <p>複数の異なる機能（用途）を有する施設を1つの施設にまとめる。</p>	<p>異なる機能</p> <p>多機能化</p> <p>余剰</p>
<p>② 集約化</p> <p>複数の同一機能（用途）の施設を1つにまとめる。</p>	<p>同一機能</p> <p>集約化</p> <p>余剰</p>
<p>③ 民間等への移譲</p> <p>市が建物を保有せず、民間等へ施設や事業を移す。</p>	<p>移譲</p> <p>サービスの提供を民間等に任せる</p> <p>民間施設</p> <p>余剰</p>
<p>④ 用途変更</p> <p>余剰施設又は当初の機能（用途）を終えた既存の施設を改修し、別の機能を持った施設として活用する。</p>	<p>用途変更</p>
<p>⑤ 譲渡</p> <p>余剰施設又は当初の機能（用途）を終えた既存の施設を地域や民間等に譲渡する。</p>	<p>譲渡</p>
<p>⑥ 除却</p> <p>老朽化等により使用できない施設又は利活用が見込めない施設は取り壊す。</p>	<p>除却</p> <p>解体</p>

余剰施設は
④～⑥へ

第3章 再編の効果及び留意点

1 再編により期待される効果

公共施設の再編による様々な効果が想定されますが、ここでは、再編により期待される効果を示します。

(1) 施設を連携することによる相乗効果

公共施設が複数の機能を持つ拠点施設となることで、それまで別々の場所で行政サービスを受けていた利用者は、同じ場所でこれを受けることが可能となり、利用者の利便性の向上が期待できます。

(2) コミュニティの拠点の形成

公共施設が複数の機能を持つ拠点施設となることで、幅広い世代の利用者が同じ場所に集まる機会が増え、世代を超えた利用者間の交流が広がるなど、コミュニティ形成の拠点として位置付けられることが期待できます。

(3) 施設に掛かるコストの削減

類似する機能を持つ施設を集約してスペースを共用化することにより、公共施設の延べ床面積を削減し、将来の施設の更新や保全に掛かるコストの削減が期待できます。

あわせて、施設運営の連携を図ることにより、維持管理コストの削減効果も期待できます。

(4) 施設整備に掛かる財源の創出

公共施設の多機能化、集約化により不用となった土地や建物、余剰スペースを、民間等へ売却したり有償で貸し付けたりすることで、将来の施設整備に掛かる財源を創出することが期待できます。

2 再編を進める上での留意点

公共施設の再編により、様々な効果が期待できる一方で、施設の移転や行政サービスの提供方法の変化により、市民の日常生活や地域活動に影響が出る可能性もあります。

ここでは、再編を進めるに当たっての留意点を示します。

(1) 地域との調整の必要性

地域住民との対話の機会を設けるなど、地域住民との合意形成を図りながら、地域活性化や持続可能なまちづくりに向けた公共施設の再編となるよう留意します。

(2) 施設利用への影響や効果の把握

多機能化を進めるに当たり、施設内の用途のマッチングの適否や利用者間での新たな交流の効果を検証するとともに、公共交通等のアクセスや接道条件、周辺環境及び立地の変更による影響を把握し、地域特性に応じた公共施設の再編に留意します。

(3) 再編における施設評価、優先順位の設定

築年数の経過による公共施設の老朽化が進む中で、一時期に集中する更新費用や改修費用を捻出することは今後ますます困難となることが予想されることから、的確な施設評価の下、優先順位を決めた公共施設の再編に留意します。

(4) まちづくりの観点からの施設配置

市民全体に対し、可能な限り公平な施設配置とすることを前提に、地域のニーズ、人口構造の変化といった特性を考慮し、行政サービスの向上と効率化を最大限に引き出せるような公共施設の配置に留意します。

第4章 施設分類別再編方針

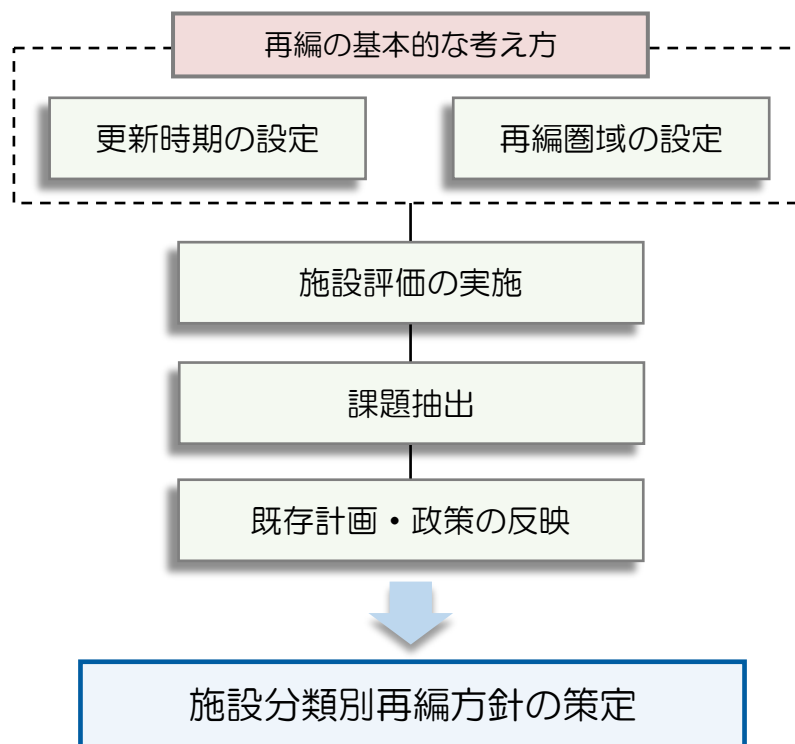
1 施設分類別再編方針の概要

公共施設の再編は、時代のニーズに対応する施設の規模及び機能、地域のまちづくり並びに地域コミュニティの活性化を考えていくことが重要です。再編方針の策定に当たっては、施設分類*ごとに、施設の状況分析及び課題の抽出を行い、再編の方向性及び手法等について、地域を単位とした再編圏域（P14 参照）ごとに方針を示します。

そのため、再編圏域ごとに必要な機能、配置の検討及び施設評価による分析・課題抽出を行い、既存計画や政策を反映することにより施設分類別再編方針を策定します。

※ 施設分類とは、総合管理計画における「表1-2：施設の分類及び整備状況」の中分類（以下「中分類」という。）

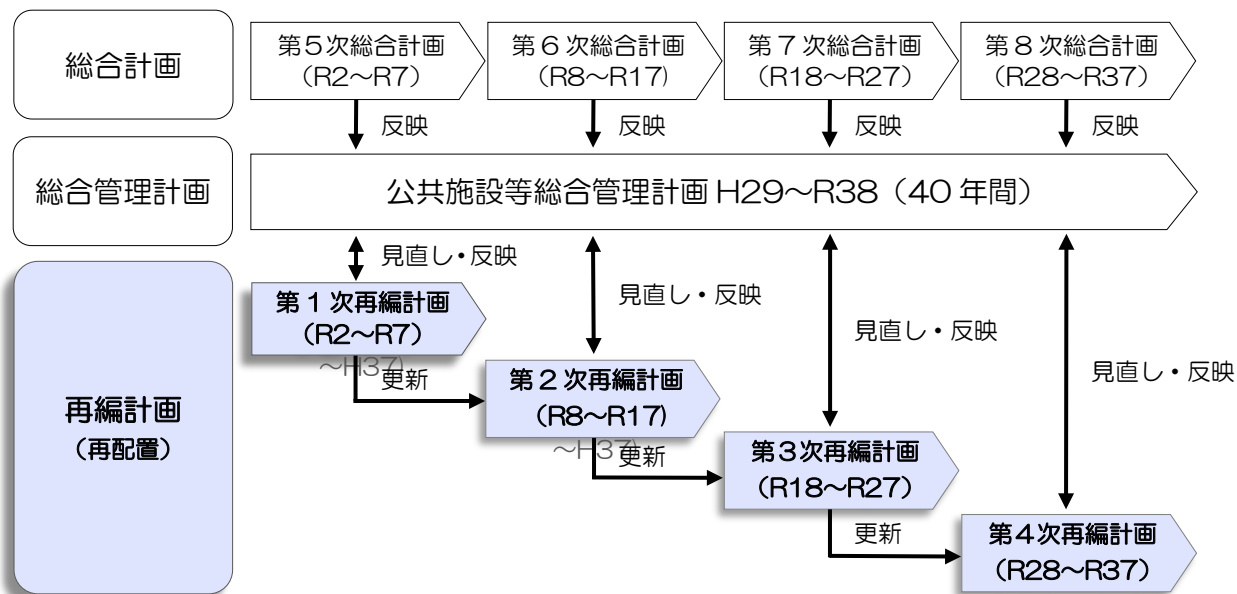
図3 施設分類別再編方針の策定フロー



2 計画期間

計画期間は、総合管理計画に基づき、令和2（2020）年度から令和7（2025）年度までの6年とし、以降は10年ごとに見直しを行います。

図4 計画期間と上位計画との関連性



3 対象施設

再編計画において対象となる施設は、総合管理計画における「公共建築物」に駅前交流センターを追加した166施設、332棟です。

なお、総合管理計画における「公共建築物」とは、延べ床面積が200㎡を超える建築物及び延べ床面積が200㎡以下で棟の用途が次に掲げる建築物です。

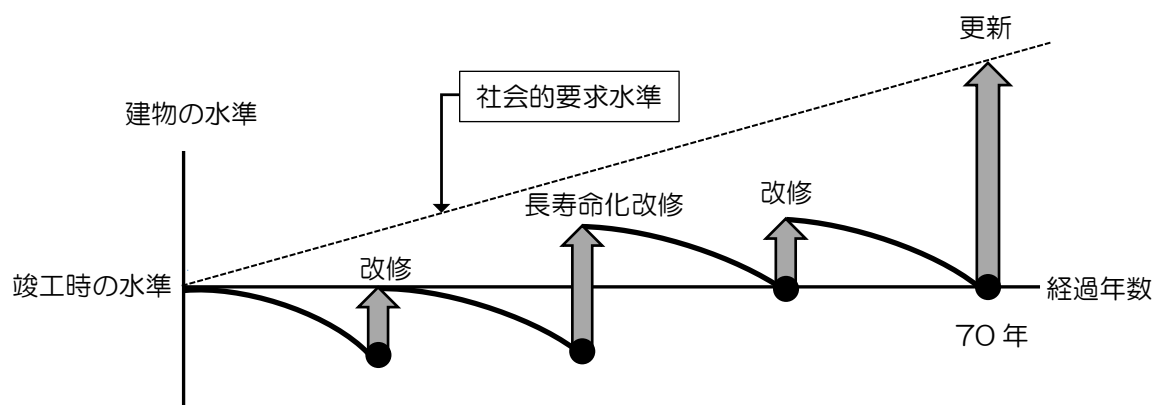
- ・災害時の拠点となる建築物（消防施設等）
- ・児童が使用する建築物（放課後児童クラブ等）
- ・市営住宅のうち、住宅の用途に供する建築物
- ・建築基準法第12条による点検が必要な建築物のうち、日常の維持管理を市が直接行っている建築物

4 施設の更新時期の設定

(1) 施設の更新時期の設定

施設の更新時期は、総合管理計画の目標耐用年数70年に合わせて、建築後70年を目安に更新することを原則とします。ただし、上記のとおり更新時期を設定した場合、第4次再編計画の期間中に更新時期の集中が想定されます。そのため、大規模修繕時期を超え施設の更新時期まで残り30年未満となっている施設は、財政負担の軽減・平準化を行うため、近隣の施設又は同じ再編圏域内の施設に併せて更新時期を検討します。

図5 改修周期パターン（イメージ）



(2) 複数棟で構成される施設の更新時期の設定

学校や市営住宅等、建築年度が異なる複数棟で構成される施設は、施設機能の集約化、多機能化及び規模縮小等を効率的・効果的に計画するためには、施設単位による更新が望ましいと考えます。

そのため、全棟同時に更新することを基本とし、建築年度の最も古い棟が建築後70年に近づく時点で施設全体の更新を検討します。しかし、築年数が浅い棟や長寿命化改修を実施した棟がある場合は、棟ごとに更新することも考えられることから、再編の進捗や利用需要等を考慮する中で、更新方法を検討します。また、倉庫や車庫等附帯的な建物については、必要性等を検討し、更新方法及び更新時期を設定します。

5 再編圏域

(1) 再編圏域の定義

公共施設の再編は、将来のまちづくりにも大きな影響を与えることから、施設ごとに検討するのではなく、全市的なまちづくりの視点から再編を検討するとともに、地域ごとに異なる特性及び課題に配慮した地域レベルのまちづくりの視点から再編を検討することも必要です。

そのため、施設を再編する圏域（以下「再編圏域」という。）を次のとおり設定し、各再編圏域内において必要な機能や配置等を検討することにより、施設の再編を図ります。

【再編圏域の定義】

- 再編圏域は、富士宮市都市計画マスタープランにより設定されている 11 地域とします。

(2) 施設に応じた対象エリアの考え方

ア 対象エリアの定義

施設の用途によりサービス提供の対象エリア（以下「対象エリア」という。）が異なることから、表2のとおり対象エリアを「広域エリア」、「全市エリア」、「地域エリア」、「コミュニティエリア」、「その他」の5つに分けて定義します。

表2 対象エリアの定義

区分	内容
広域エリア	・市民だけではなく、観光客等の広い範囲の人々にサービスを提供
全市エリア	・市内全域の市民にサービスを提供
地域エリア	・中学校区単位等比較的広い地域の住民にサービスを提供
コミュニティエリア	・小学校区単位等徒歩で通える距離にある身近な行政サービスを提供 ・地域エリアの施設を補完する。
その他	・上記の区分によらずにサービスを提供 ・特定の市民にサービスを提供 ・機能停止中（現在利用されていない。）

イ 施設分類別対象エリアの設定

表3のとおり施設の中分類ごとに対象エリアを設定します。なお、機能を停止している施設は、中分類「その他」に属する施設と分けています。

表3 施設分類別対象エリアの設定

区分	中分類	施設名
広域エリア	観光・産業施設	白系の滝観光案内所、道の駅朝霧高原、新稲子川温泉ユース・トリオ、富士山天母の湯
全市エリア	地域活性化施設	駅前交流センター
	社会教育施設	富士宮市立中央図書館、市民文化会館、埋蔵文化財センター、郷土資料館内房収蔵庫
	スポーツ施設	富士宮市民体育館、富士宮市民プール、B&G 海洋センター
	医療・保健・福祉施設	総合福祉会館、保健センター・救急医療センター
	庁舎施設	市役所
	市立病院	富士宮市立病院
	その他	富士山環境交流プラザ、白系自然公園
地域エリア	地域活性化施設	柚野の里活性化施設、大富士交流センター
	社会教育施設	各公民館、富士宮市立西富士図書館
	小・中学校	各中学校
	庁舎施設	各出張所
	消防施設	各消防署、芝川分署水防倉庫
コミュニティエリア	小・中学校	各小学校
	医療・保健・福祉施設	各児童クラブ
	保育園	各保育園
	消防施設	各分団詰所
その他	その他学校施設	市立学校給食センター
	医療・保健・福祉施設	療育支援センター、長生園、あすなる園
	市営住宅	各市営住宅
	環境・プラント施設	衛生プラント、清掃センター、鞍骨沢最終処分場、富士宮聖苑
	機能停止施設	(旧)中央公民館生涯学習ルーム、(旧)芝川中央公民館、(旧)芝川会館分室(旧庁舎)、田貴湖キャンプ場(湖畔荘)、(旧)白系老人憩の家

(3) 再編の考え方

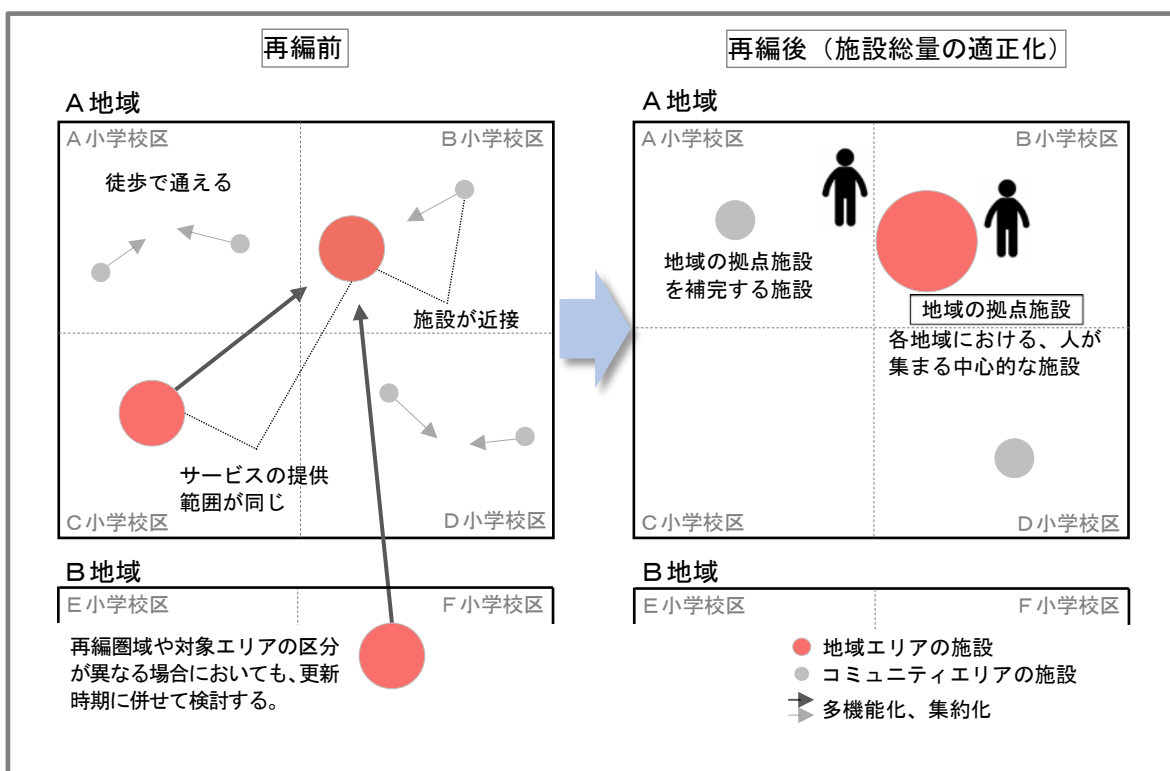
ア 再編圏域ごとの再編の考え方

再編圏域ごとの再編の基本的な考え方は次のとおりです。

- 地域の核となり得る「地域エリア」及び「コミュニティエリア」に区分される施設を中心に多機能化や集約化を図り、地域コミュニティの拠点施設を整備することにより、行政サービスのワンストップ化※、多世代の交流促進及び地域の活性化を図ります。
- 再編圏域では、対象エリアの区分において必要な機能、数量及び配置を検討し、施設総量の適正化を図ります。
- 再編圏域や対象エリアの区分が異なる場合においても、施設同士が近接している場合やサービスの提供範囲が重複する場合は多機能化・集約化を検討します。

※ ワンストップ化とは、複数の部署・庁舎・機関ごとに行われている手続やサービスを1か所で受けられるよう、窓口を一元化すること。

図6 再編による拠点の形成イメージ



イ 再編圏域に捉われない再編の考え方

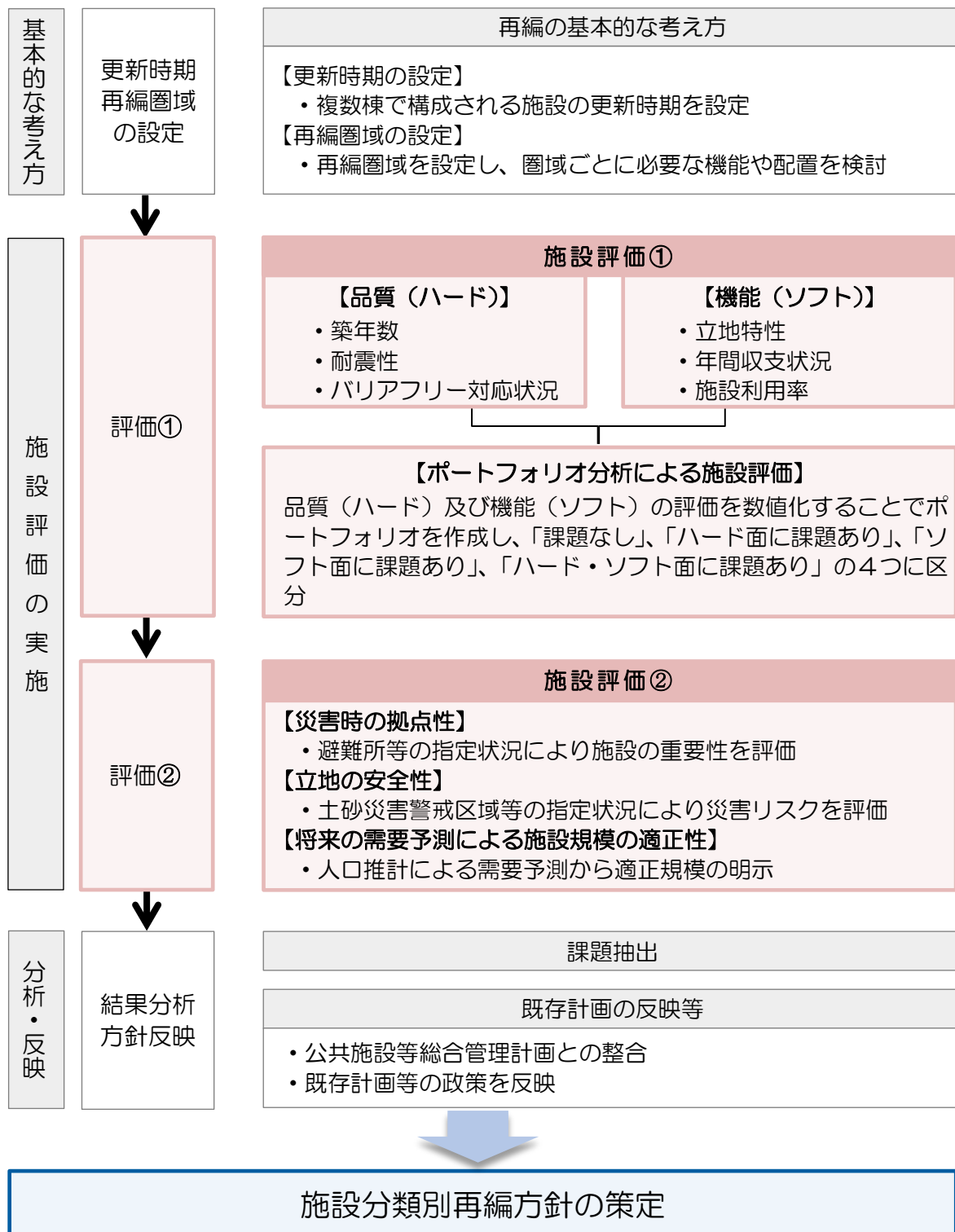
対象エリアが「広域エリア」、「全市エリア」、「その他」に区分される施設は、地域に必要な機能かどうかを検証しつつ、再編圏域に捉われない考え方により再編を検討する必要があります。

6 施設評価

(1) 施設評価の概要

施設評価は、公共施設の再編に向けた検討を行う中で、施設の在り方や再編手法の方向づけを行うための判断材料となるものです。

図7 施設分類別再編方針の策定フロー（詳細）



ア 施設評価①の概要

「品質（ハード）」及び「機能（ソフト）」の2つの評価指標を用いて、ポートフォリオ分析※による施設評価を行い、「課題なし」、「ハード面に課題あり」、「ソフト面に課題あり」、「ハード・ソフト面に課題あり」の4つに区分します。

※ ポートフォリオ分析とは、2つの異なる評価項目を縦軸と横軸にとり、2次元グラフ化することで、その配置状況から優先的改善項目を明らかにする分析手法です。
「施設評価①」では、グラフ内の区分ごとに「評価」を定義付けることで、当該施設の評価結果とします。

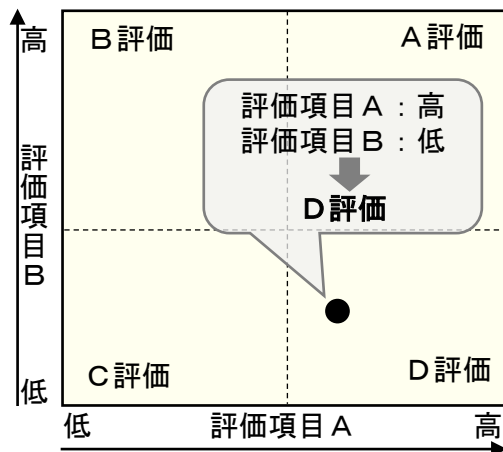
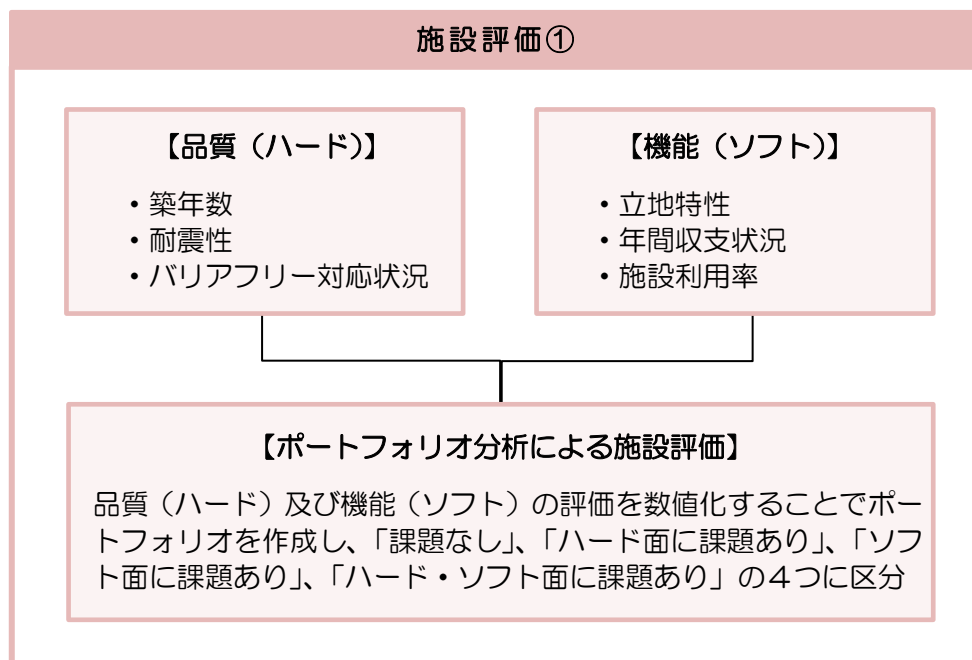


図 8 施設評価①の概要



イ 施設評価②の概要

施設評価①で行った「品質（ハード）」及び「機能（ソフト）」による評価では判断できない要素について、「災害時の拠点性」、「立地の安全性」及び「将来の需要予測による施設規模の適正性」の3つの項目を用いて、評価を行うものです。

「災害時の拠点性」では、災害時の避難所及び災害対策拠点の指定状況により、施設の重要性を評価します。

「立地の安全性」では、施設の敷地における「土砂災害警戒区域」又は「浸水想定区域」の指定状況により、災害リスクについて評価します。

「将来の需要予測による施設規模の適正性」では、将来の人口推計により施設の利用需要を予測し、現在の人口と比較することで、更新する施設の適正規模を示します。

なお、複数施設で再編を考える場合はこの限りではありません。

表4 施設評価②の概要

施設評価②
<p>【災害時の拠点性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難所等の指定状況により施設の重要性を評価
<p>【立地の安全性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土砂災害警戒区域等の指定状況により災害リスクを評価
<p>【将来の需要予測による施設規模の適正性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口推計による需要予測から目標とする適正規模の明示

ウ 評価対象施設について

評価対象施設は、161 施設、314 棟です。

なお、施設評価①に当たっては、表5のとおり中分類を細分化し、評価分類を設定します。

表5 評価対象施設

評価分類		施設名
地域活性化施設		駅前交流センター、柚野の里活性化施設、大富士交流センター
社会教育施設	公民館	公民館（8 施設）
	図書館	富士宮市立中央図書館、富士宮市立西富士図書館
	博物館等	市民文化会館、埋蔵文化財センター、郷土資料館内房収蔵庫
スポーツ施設		富士宮市民体育館、富士宮市民プール、B&G 海洋センター
観光・産業施設		白糸の滝観光案内所、道の駅朝霧高原、新稲子川温泉ユース・トリオ、富士山天母の湯
小・中学校	小学校	小学校（23 施設）
	中学校	中学校（13 施設）
その他学校施設		市立学校給食センター
医療・保健・福祉施設	①	療育支援センター、総合福祉会館、保健センター・救急医療センター
	②	長生園、あすなろ園
児童クラブ		児童クラブ（13 施設）
保育園		保育園（13 施設）
庁舎施設		市役所、出張所（3 施設）
消防施設		消防署（6 施設）、分団詰所（41 施設）、芝川分署水防倉庫
市営住宅		市営住宅（8 施設）
環境・プラント施設	①	衛生プラント、清掃センター、鞍骨沢最終処分場
	②	富士宮聖苑
市立病院		富士宮市立病院
その他	その他	富士山環境交流プラザ、白糸自然公園
	機能停止施設	（旧）中央公民館生涯学習ルーム、（旧）芝川中央公民館、（旧）芝川会館分室（旧庁舎）

表6に示す施設については、除却されるなどの理由から一部又は全部の評価を行いません。

表6 評価対象外施設

評価分類		施設名	評価対象外
観光・産業施設		田貫湖キャンプ場（湖畔荘）	施設評価①
庁舎施設		白糸出張所	施設評価①
消防施設		第18分団詰所（旧第18・19分団統合詰所）	施設評価①
市営住宅		万野住宅	施設評価①、②
その他	機能停止施設	（旧）白糸老人憩の家	施設評価①

(2) 施設評価①

ア 評価内容

(ア) 施設評価の考え方

施設評価は、施設ごとに「品質（ハード）」及び「機能（ソフト）」それぞれ3つの評価項目について行います。各評価指標の具体的な評価項目については、表7のとおりです。

また、施設評価に当たっては、表8のとおり評価項目ごとに評価点を設定し、点数化することにより評価を行います。

表7 評価項目及び評価方法

評価指標	評価項目	評価方法
品質 (ハード)	築年数	法定耐用年数に対する施設の築年数
	耐震性	施設ごとの耐震性能
	バリアフリー対応状況	施設ごとのバリアフリーの対応状況
機能 (ソフト)	立地特性	バス停・駅から施設へのアクセス性
	年間収支状況	施設における1㎡当たりの年間収支状況
	施設利用率	施設の利用率

表8 評価分類ごとの配点

評価分類	品質（ハード）の評価点			機能（ソフト）の評価点			満点	
	築年数 (40点)	耐震性 (30点)	バリアフリー 対応状況 (30点)	立地特性 (30点)	年間収支 状況 (35点)	施設利用率 (35点)	品質 (ハード)	機能 (ソフト)
地域活性化施設	○	○	○	○	○	○	100	100
公民館	○	○	○	○	○	○	100	100
図書館	○	○	○	○	○	○	100	100
博物館等	○	○	○	○	○	○	100	100
スポーツ施設	○	○	○	○	○	○	100	100
観光・産業施設	○	○	○	○	○	○	100	100
小学校	○	○	○	○	○	○	100	100
中学校	○	○	○	○	○	○	100	100
その他学校施設	○	○	○	-	○	-	100	35
医療・保健・福祉施設①	○	○	○	○	○	○	100	100
医療・保健・福祉施設②	○	○	○	○	○	○	100	100
児童クラブ	○	○	○	○	○	○	100	100
保育園	○	○	○	○	○	○	100	100
庁舎施設	○	○	○	○	○	-	100	65
消防施設	○	○	-	-	○	-	70	35
市営住宅	○	○	○	○	○	○	100	100
環境・プラント施設①	○	○	-	-	○	-	70	35
環境・プラント施設②	○	○	○	-	○	-	100	35
市立病院	○	○	○	○	○	-	100	65
その他	○	○	○	○	○	○	100	100
機能停止施設	○	○	○	○	○	○	100	100

(1) ポートフォリオによる施設評価

「品質（ハード）」及び「機能（ソフト）」の各点数によるポートフォリオによる施設評価を行います。図9に示すように「品質（ハード）」を横軸、「機能（ソフト）」を縦軸としたポートフォリオを4つに区分し、区分ごとに再編の方向性を示します。

評価方法は、各施設の指標の点数をグラフ化し、類型化した「評価判定」（表9参照）に基づき、各施設における取組の方向性を示します。なお、評価結果が線上にある場合は、上位側の評価とします。

ただし、その他学校施設（市立学校給食センター）、環境・プラント施設②（富士宮聖苑）及び市立病院（富士宮市立病院）については、評価分類別の施設が1施設しかいないため、「品質（ハード）」による評価に加え、静岡県下の他都市の類似施設と1平方メートル当たりの収支状況について比較し、ポートフォリオ分析による施設評価を行います。

なお、「機能（ソフト）」の評価点の算出に当たり、倉庫等の附属建物は評価の対象外とします。

図9 ポートフォリオ分析による施設評価のイメージ

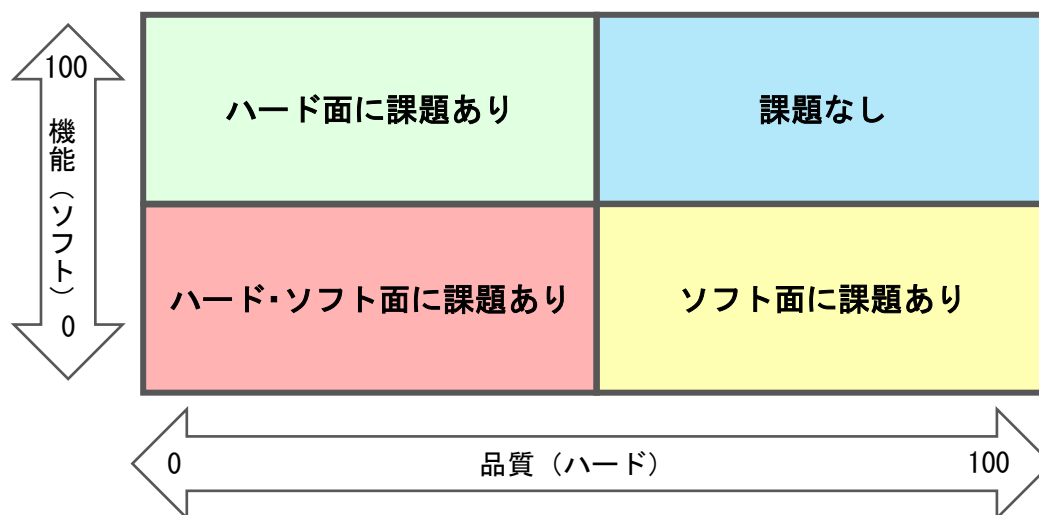


表9 再編の方向性

評価判定	方向性
課題なし	品質（ハード）及び機能（ソフト）ともに高評価のため、問題ありません。
ハード面に課題あり	機能（ソフト）は高評価ですが、品質（ハード）が低評価のため、施設の修繕・改修等による品質の改善、多機能化及び建て替えの検討が必要です。
ソフト面に課題あり	品質（ハード）は高評価ですが、機能（ソフト）が低評価のため、維持管理・運営の効率化、多機能化及び集約化による行政サービスの改善の検討が必要です。
ハード・ソフト面に課題あり	品質（ハード）及び機能（ソフト）ともに低評価のため、施設の廃止、建物の解体及び跡地の売却の検討が必要です。

イ 評価指標に対する評価点の算出方法

(7) 品質（ハード）に対する評価点の算出

a 築年数

施設を構成する棟の中で最も古い棟を評価対象として、法定耐用年数に対する築年数を基に評価を行います。

評価基準及び耐用年数は、表 10 及び表 11 のとおりです。

なお、法定耐用年数は、国税庁「耐用年数（建物／建物附属設備）」及び「減価償却資産の耐用年数等に関する省令（昭和 40 年大蔵省令第 15 号）」の年数を用いています。

表 10 築年数の評価基準

評価基準	点数
法定耐用年数に対して竣工後の経過年数が 50%未満	40 点
法定耐用年数に対して竣工後の経過年数が 50%以上	20 点
法定耐用年数を超えている。	0 点

表 11 各施設の耐用年数一覧

構造	施設名	耐用年数	構造	施設名	耐用年数	構造	施設名	耐用年数
SRC、RC	市役所	50	SRC、RC	富士見ヶ丘住宅	47	S	第12分団詰所（山本）	38
	（旧）中央公民館生涯学習ルーム			下万野住宅			第12分団詰所（小泉）	
	（旧）芝川中央公民館			粟倉住宅			第13分団詰所	
	（旧）芝川会館分室（旧庁舎）			東小学校			第14分団詰所（小泉）	
	北山出張所			黒田小学校			第14分団詰所（大岩）	
	上野出張所			大宮小学校			第15分団詰所（二又）	
	芝川出張所			貴船小学校			第15分団詰所（村山）	
	駅前交流センター			富丘小学校			第15分団詰所（神成）	
	衛生プラント			大富士小学校			第16分団詰所	
	富士山環境交流プラザ			富士根南小学校			第17分団詰所（上組）	
	富士宮聖苑			富士根北小学校			第18分団詰所（馬見塚）	
	清掃センター			富士根北小学校粟倉分校			旧第19分団詰所（精進川）	
	長生園			山宮小学校			第19分団詰所（妙蓮寺）	
	中央消防署			北山小学校			第19分団詰所	
	西消防署			上井出小学校			第20分団詰所（人穴）	
	中央消防署芝川分署			人穴小学校			第20分団詰所（上井出）	
	中央消防署東分署			井之頭小学校			第21分団詰所（猪之頭）	
	第10分団詰所（安居山）			白糸小学校			第22分団詰所（原）	
	西公民館			上野小学校			第23分団詰所	
	富丘公民館			富士見小学校			第24分団詰所	
	南部公民館			西小学校			第25分団詰所	
	富士根北公民館			富士宮第二中学校			第26分団詰所	
	富士根南公民館			富士宮第三中学校			第27分団詰所	
	芝川公民館			富士宮第四中学校			第28分団詰所	
	袖野公民館			北山中学校			郷土資料館内房収蔵庫	
	芝川公民館内房分館			富士根南中学校			富士宮市立西富士図書館	
	市民文化会館			井之頭中学校			芝川分署水防倉庫	
	埋蔵文化財センター			上野中学校			市立学校給食センター	
	富士宮市民体育館			西富士中学校			井之頭小学校根原分校	
	富士宮市民プール			大富士中学校			内房小学校	
	B&G海洋センター			芝富小学校			富士宮第一中学校	
	富士宮市立中央図書館			稲子小学校			富士根北中学校	
総合福祉会館	袖野小学校	大宮保育園						
保健センター・救急医療センター	袖野中学校	黒田第1児童クラブ						
大富士交流センター	芝川中学校	あすなろ園						
西消防署北分署	富士宮市立病院	黒田第2・第3児童クラブ						
白糸自然公園	大岩住宅	ひがし第1・第2児童クラブ						
富士根保育園	CB	道の駅朝霧高原	吉美第1・第2児童クラブ					
大岩明倫保育園		鞍骨沢最終処分場	W	袖野の里活性化施設				
大富士保育園		西消防署上野分署		白糸の滝観光案内所				
北山保育園		第1分団詰所		新稲子川温泉ユー・トリオ				
上井出保育園		第2分団詰所		富士山天母の湯				
白糸保育園		第3分団詰所		第11分団詰所（貫戸）				
山宮保育園		第4分団詰所		第21分団詰所（麓）				
井之頭保育園		第5分団詰所		なかよし西児童クラブ 室				
西保育園		第6分団詰所（青木）		北山児童クラブ				
粟倉保育園		第6分団詰所（外神）		上井出児童クラブ				
明星保育園		第6分団詰所（淀師）		たけの子児童クラブ				
袖野保育園	第7分団詰所	やまびこ児童クラブ						
療育支援センター	第8分団詰所	山宮児童クラブ						
白尾住宅	第9分団詰所	ゆのっ子児童クラブ						
月の輪住宅	第10分団詰所（沼久保）	白糸児童クラブ						
小泉住宅	第11分団詰所（黒田）	上野児童クラブ						
上小泉住宅	第11分団詰所（星山）							

凡例

SRC	鉄骨鉄筋コンクリート造
RC	鉄筋コンクリート造
CB	コンクリートブロック造

S	鉄骨造
W	木造

注

）混構造の場合は、主要な構造のみを記載

b 耐震性

施設を構成する棟の中で最も古い棟を評価対象として、富士宮市作成の市有建物耐震性能リストにおける耐震性能ランクを基に、表 12 のとおり評価を行います。

東海地震に対して耐震性能が確保されている建物は、耐震性能ランク I (I a 及び I b) となります。

なお、市営住宅、白糸の滝観光案内所、環境交流プラザ及び市立病院の医師住宅については、施設の性質上、求められる耐震性能ランクが I b であるため、最高点は 25 点となります。

表 12 耐震性の評価基準

耐震性能ランク		内容	点数
I	I a	耐震性能が優れている建物 軽微な被害にとどまり、地震後も建物を使用できる。	30 点
	I b	耐震性能が良い建物 倒壊する危険性はないが、ある程度の被害を受けることが想定される。	25 点
II		耐震性能がやや劣る建物 倒壊する危険性は低いが、かなりの被害を受けることも想定される。	10 点
III		耐震性能が劣る建物 倒壊する危険性があり、大きな被害を受けることが想定される。	0 点
未診断		耐震診断が行われていない建物	0 点

c バリアフリー対応状況

施設内の各棟のバリアフリーの対応状況について評価を行います。

表 13 に示す評価基準に従い、点数化するものとし、バリアフリー項目①に各棟のバリアフリー項目②～⑥の点数の合計を施設の棟数で除した数値を加えた合計点をバリアフリー点数とします。

ただし、棟の階層が平屋の場合、階段及びエレベーターのバリアフリー項目はそれぞれ5点の加点とします。

表 13 バリアフリーの評価項目

項目		判断基準	点数
①	駐車場	車いす利用者用の駐車スペースがある。	5点
②	アプローチ	外部から建物内へのアクセス経路上に段差がなく、又はスロープが設置されており、車いす利用者が円滑に移動できる幅（120cm以上）が確保されている。	5点
③	廊下	建物内の主要部分へのアクセス経路上にある廊下について、段差がなく、又はスロープが設置されており、車いす利用者が円滑に移動できる幅（120cm以上）が確保されている。	5点
④	階段	外部から建物内の主要部分へのアクセス経路上にある階段について、手すりが設置されている。	5点
⑤	エレベーター	車いす利用者が利用できるエレベーター※が設置されている。	5点
⑥	トイレ	車いす利用者が利用できるトイレが建物に1か所以上ある。	5点
計			30点

※ 車いす利用者が利用できるエレベーターとは、出入口の幅 80cm 以上、かごの奥行き 135cm 以上、かごの幅 140cm 以上（車いすの回転に支障がない幅）

(1) 機能（ソフト）に対する評価点の算出

a 立地特性

施設から最寄りの駅・バス停への距離や主要道路に対する配置状況を基に、表 14 に示す評価基準に従い、交通の利便性を点数化します。

表 14 立地特性の評価基準

評価基準	点数
鉄道最寄駅から 800m ^{※1} 以内に位置する。	10 点
バス停から 300m ^{※1} 以内に位置する。	10 点
国道・県道の沿道に面する。	10 点
計	30 点

※1 国土交通省「都市構造の評価に関するハンドブック（平成 26 年 8 月）」より、鉄道駅までの徒歩圏を 800m、バス停までの徒歩圏を 300m と設定

b 年間収支状況

施設カルテ^{※2}から、各施設の3か年（2015年～2017年）の延べ床面積1平方メートル当たりの年間収支額を算出し、評価を行います。なお、評価方法は、評価分類平均に対する相対評価とし、表 15 の評価基準に従い点数化します。ただし、工事請負費は除いて算出します。

※2 施設カルテとは、市の公共施設を対象とし、建物の基本情報、施設の収支状況及び利用状況等の情報を取りまとめたものです。施設カルテは毎年更新し、見直しをしていきます。

■ 施設基本情報										■ 収支状況 (千円)				■ 利用状況							
施設名称										2015年				2016年				2017年			
施設住所										委託料				年間利用人数(人)							
設置目的										手数料(保守点検費)				年間利用コマ数							
設置規模										修繕料				年間利用可能コマ数							
施設所管部										電気				利用率(%)							
施設所管課										ガス(都市orLP)				年間利用人数(人)							
運営方法										上下水道				年間開館日数(日)							
施設管理										使用料及び賃借料				年間開館日数(日)							
施設管理費										工事請負費				年間利用人数(人)							
指定管理料										その他経費				年間開館日数(日)							
施設管理費										人件費				年間開館日数(日)							
指定管理料										指定管理料				年間開館日数(日)							
指定管理料										支出計				年間開館日数(日)							
指定管理料										市負担金、使用料				年間開館日数(日)							
指定管理料										賃付料・目的外使用料				年間開館日数(日)							
指定管理料										その他収入				年間開館日数(日)							
指定管理料										収入計				年間開館日数(日)							

表 15 年間収支状況の評価基準

評価基準	点数
評価分類平均の 110%以上	35 点
評価分類平均の 90%～110%未満	20 点
評価分類平均の 90%未満	0 点

c 施設利用率

施設カルテから、各施設の3か年（2015年～2017年）の利用状況を基に評価を行います。施設の役割や性質を踏まえ、表16の評価項目を設定し、評価式により利用率を算出します。なお、評価方法は評価分類平均に対する相対評価とし、表17の評価基準に従い点数化します。ただし、医療・保健・福祉施設②及び市営住宅については、表18の評価基準に基づき点数化します。

表16 施設利用率の評価項目

評価分類	評価項目	評価式
地域活性化施設	利用率	年間利用コマ数/年間利用可能コマ
公民館	利用率	年間利用コマ数/年間利用可能コマ
図書館	1日当たりの利用人数	年間利用人数(人)/年間開館日数(日)
博物館等	1日当たりの利用人数	年間利用人数(人)/年間開館日数(日)
スポーツ施設	1日当たりの利用人数	年間利用人数(人)/年間開館日数(日)
観光・産業施設	1日当たりの利用人数	年間利用人数(人)/年間開館日数(日)
小学校	児童1人当たりの延べ床面積	延べ床面積(m ²)/児童数(人)
中学校	生徒1人当たりの延べ床面積	延べ床面積(m ²)/生徒数(人)
その他学校施設	-	-
医療・保健・福祉施設①	1日当たりの利用人数	年間利用人数(人)/年間開館日数(日)
医療・保健・福祉施設②	在所率	在所数(人)/定員(人)
児童クラブ	児童1人当たりの延べ床面積	延べ床面積(m ²)/児童数(人)
保育園	園児1人当たりの延べ床面積	延べ床面積(m ²)/園児数(人)
庁舎施設	-	-
消防施設	-	-
市営住宅	入居率	入居戸数(戸)/全戸数(戸)
環境・プラント施設①	-	-
環境・プラント施設②	-	-
市立病院	-	-
その他	1日当たりの利用人数	年間利用人数(人)/年間開館日数(日)
機能停止施設	利用率	年間利用コマ数/年間利用可能コマ

表17 施設利用率の評価基準

評価基準	点数
評価分類平均の130%以上	35点
評価分類平均の70%～130%未満	20点
評価分類平均の70%未満	0点

表18 施設利用率の評価基準（医療・保健・福祉施設②及び市営住宅）

評価分類	評価基準	点数
医療・保健・福祉施設② 市営住宅	在所（入居）率が90%以上	35点
	在所（入居）率が70%以上90%未満	20点
	在所（入居）率が70%未満	0点

(3) 施設評価②

ア 評価内容

「災害時の拠点性」、「立地の安全性」及び「将来の需要予測による施設規模の適正性」の3項目で評価を行います。

各評価項目における評価の考え方及び評価方法については、次のとおりです。

(ア) 災害時の拠点性

評価指標	評価の考え方・評価方法	留意点等
指定緊急避難場所、指定避難所としての指定状況	災害種別（地震、大規模な火事、洪水、土砂、火山現象）ごとに指定された「指定緊急避難場所」・「指定避難所」、並びに、避難所と災害対策本部（市役所）との連絡調整及び避難所の支援等を行う「地区本部」に指定されている施設については、必要性は高いと判断し、継続利用を基本とします（用語解説は評価結果の項を参照）。	当該施設の再編を検討する場合は、富士宮市地域防災計画と整合を図りつつ、地域に必要な避難所機能を確保する必要があります。

(イ) 立地の安全性

評価指標	評価の考え方・評価方法
土砂災害警戒区域等	土砂災害の危険性が高い地域に立地する施設については、安全対策の実施、移転、廃止等を含め、総合的な検討が必要となります。区域別の評価の考え方は、次のとおりです。 <土砂災害特別警戒区域 ^{※1} > 法律に基づき、建築物の構造の規制、移転等の勧告を行う地域であるため、施設の安全対策の実施、移転、廃止等を含め、総合的な検討が必要となります。 <土砂災害警戒区域 ^{※2} > 当該区域に立地する施設は、市民の安全を確保し、被害の防止及び低減を図るため、人の滞留がある施設については、危険の周知及び避難体制の整備等の防災対策が必要であり、必要に応じて移転を検討します。
浸水想定区域	河川の氾濫による浸水の危険性が高い地域（浸水想定区域 ^{※3} ）に立地する施設については、避難所及び避難経路の確保等安全対策の実施、移転、廃止等を含め、総合的な検討が必要となります。

※1 土砂災害特別警戒区域とは、急傾斜地の崩壊等が発生した場合に、建築物に損壊が生じ住民等の生命又は身体に著しい危害が生ずるおそれがあると認められる区域で、特定の開発行為に対する許可制、建築物の構造規制等が行われる。

※2 土砂災害警戒区域とは、急傾斜地の崩壊等が発生した場合に、住民等の生命又は身体に危害が生じるおそれがあると認められる区域であり、危険の周知、警戒避難体制の整備が行われる。

※3 浸水想定区域とは、水防法第14条第1項の規定により、富士川及び潤井川が想定最大規模降雨によって氾濫した場合、浸水が想定される区域のこと。

(ウ) 将来の需要予測による施設規模の適正性

評価指標	評価の考え方・評価方法	留意点等
<p>将来人口推計による需要予測※1</p>	<ul style="list-style-type: none"> 将来の人口規模及び構成の変化は、公共施設の需要及び内容に大きな影響を与えるため、将来人口を推計し、現在の人口との比較を行います。 総合管理計画の目標である「総延べ床面積の30%縮減」を達成するため、各施設の目標縮減率（参考値）を設定します。 <p><縮減目標の設定></p> <p>【推計対象外施設の目標削減率の設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「機能停止施設」は廃止（100%）、「消防施設」は継続利用（0%）とし、その他の施設は一律30%縮減とします。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>推計対象外施設 埋蔵文化財センター、郷土資料館内房収蔵庫、各観光・産業施設、各消防施設、各市営住宅、富士宮市立病院、各機能停止施設</p> </div> <p>【推計対象施設の縮減目標の設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> 推計対象施設の「①人口増減率」（2044年推計値/2019年現在値）により、各施設の目標延べ床面積を算出し、上記推計対象外施設と合わせて、対象施設全体の「②目標延べ床面積」を算出します。 現在の対象施設の総延べ床面積と「②目標延べ床面積」との比較により「③目標縮減率」を算出し、「③目標縮減率」が30%となるように、「①人口増減率」の <u>比率を変えずに値を下げる</u>※2ことで、縮減目標を設定します。 <p><5歳階級別の年齢階層と主な利用施設></p> <p>【0～4歳】各保育園、療育支援センター、あすなろ園</p> <p>【5～9歳】各小学校、各児童クラブ</p> <p>【5～14歳】学校給食センター</p> <p>【10～14歳】各中学校</p> <p>【65歳以上】長生園</p> <p>【全人口】各地域活性化施設、各公民館、各図書館、市民文化会館、各スポーツ施設、総合福祉会館、保健センター・救急医療センター、各庁舎施設、各環境・プラント施設、環境交流プラザ</p>	<p>保育園や学校等施設を利用する年齢階層とは異なりますが、下記のとおり設定します。</p> <p>また、施設の性質上、利用者が限定されない施設は推計対象外とします（下記参照）。</p>

※1 推計方法は、住民基本台帳の人口（令和元（2019）年5月31日時点）を基に、国立社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」という。）が公表している人口変動要因に関する仮定値※3を用いたコーホート要因法※4により目標年（2044年（令和26年））の推計を行う。

※2 「①人口増減率」に縮減係数として一律「0.951」倍

※3 人口変動要因に関する仮定値の設定

仮定値	備考
<ul style="list-style-type: none"> ・生残率 ・純移動率 ・子ども女性比 ・0～4 歳性比 	<ul style="list-style-type: none"> ・推計の際に必要な仮定値は、左記の4項目について、2020年～2045年まで5歳階級別に5年ごとに公表されています。 ・本計画では2019年を基準年としたため、2019年～2044年まで5年ごとに推計していますが、仮定値は公表されている類似年の値を採用しています。

※4 コーホート要因法とは、男女・年齢別のある年の人口を基準として、出生・死亡・移動に関する将来の仮定値を当てはめて将来人口を推計するため、人口推計で一般的に用いられる手法のこと。

令和元（2019）年住民基本台帳の人口（令和元（2019）年5月31日時点）における男女5歳階級別人口を基準とし、出生に関する仮定値として、子ども女性比^{※5}、0～4歳性比^{※6}、死亡に関する仮定値として生残率^{※7}、移動に関する仮定値として純移動率^{※8}を設定して将来人口推計を行った。

※5 15～49歳女性人口に対する0～4歳人口の比のこと。

※6 0～4歳の人口について、女性の数に対する男性の数の比を女性の数を100とした指数で表したものを。

※7 ある年齢x歳の人口が、5年後にx+5歳になるまで死亡しない確率のこと。

※8 ある地域人口に対する他地域間との転入超過数の割合を示したものを。

性別、階層別人口	2019年（基準年）	2024年	2029年	...
0-4歳	X ₁	Y ₁		
5-9歳	X ₂	X ₁₊₅		
10-14歳	X ₃	X ₂₊₅	X ₁₊₁₀	
15-19歳	X ₄	X ₃₊₅	X ₂₊₁₀	
20-24歳	X ₅	X ₄₊₅	X ₃₊₁₀	
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮

- ・基準年は2019年（住民基本台帳の人口（令和元（2019）年5月31日時点））
- ・男女5歳階級別に推計
- ・2019年の「0-4歳」は、2024年に「5-9歳」の層に移行するが、5年間における人口変動は、「死亡」及び「転入・転出」である。

$$X_{1+5} = X_1 \times \{(1 - \text{死亡率}) + (\text{転入率} - \text{転出率})\} = X_1 \times (\text{生残率} + \text{純移動率})$$

- ・2024年の「0-4歳」Y₁は、2019年「15-49歳女性人口」「子ども女性比」「0～4歳性比」によって算出

「施設評価①」及び「施設評価②」の結果については、資料編に掲載しています。

7 施設分類別再編方針の策定

「再編の基本的な考え方」や「施設評価」の結果から抽出した課題とともに、「既存計画等の反映」等を合わせた総合的な視点から、再編圏域ごとに施設分類別再編方針を策定します。

施設分類別再編方針は、再編圏域別に図 10 に示す様式で取りまとめます。

なお、再編方針の留意点は次のとおりです。

また、施設別再編計画ロードマップについては表 19～表 29 に示します。

この再編方針は、計画策定時に考えられる再編の可能性を目安として示したものであり、必ずしも方針どおりに再編を進めるものではありません。

また、方針で示していない他の再編手法を否定するものでもありません。

なお、更新時期として設定した 70 年は飽くまでも目安であり、施設の状況等に応じて先送り又は前倒しを図るものとします。

図 10 施設分類別再編方針の様式及び記載内容

<①〇〇施設>				※1	※2				※3							
番号	対象エリア	延べ床面積 (㎡)	運営	施設評価① 課題	施設評価②				再編の可能性							
					防災		土砂	浸水	目標縮減率	多機能化	集約化	民間移譲	用途変更	譲渡	除却	
	本部	避難														
①	全市エリア	21,547.89	直営	ソフト面	-	-	-	-	23.0%	○						

現状と課題	
<ul style="list-style-type: none"> ■ 施設評価結果 <ul style="list-style-type: none"> 【施設評価①】 施設評価①の結果を記載 【施設評価②】 施設評価②の結果を記載 ■ 現状 <ul style="list-style-type: none"> 築年数や改修工事実績等、施設の現状について記載 ■ 課題等 <ul style="list-style-type: none"> 評価結果等から抽出した課題を記載 	<p>施設評価の結果は、評価指標に基づく評価及び分析の結果ではあるが、その結果だけで再編方針が決定されるものではない。</p>
再編方針	
<ul style="list-style-type: none"> ■ 再編の可能性 <ul style="list-style-type: none"> ・実施可能な「再編手法」を記載 ・再編手法が「多機能化」の場合、多機能化が可能な分類（表5のとおり）を記載 ■ 再編内容 <ul style="list-style-type: none"> 【短期】 <ul style="list-style-type: none"> 計画期間（令和2（2020）年～令和7（2025）年）に実施予定の再編内容を記載 【中長期】 <ul style="list-style-type: none"> 計画期間※4（令和8（2026）年～令和37（2055）年）に実施予定の再編内容を記載（※） 	<p>「再編方針」は、評価結果から抽出した課題や、総合管理計画との整合性、既存計画等の政策から、総合的に判断して記載</p>

※1 施設評価①：評価結果から、「課題なし」「ハード面に課題あり」「ソフト面に課題あり」「ハード・ソフト面に課題あり」の4区分で記載

※2 施設評価②：

防 災	本部	地区本部（○）、未指定（―）
	避難	指定緊急避難場所・指定避難所（○）、未指定（―）
土 砂		土砂災害警戒区域（○）、未指定（―）
浸 水		浸水想定区域（○）、未指定（―）
目標縮減率		目標縮減率（％） ・「総延べ床面積の30％縮減」を達成するための目標縮減率（参考値）

※3 再編の可能性：実施可能な「再編手法」に（○）を記載

※4 計画期間について、以下に示す3区分に分類して記載

- ・2026年～2035年を「第2次再編計画」期間、2036年～2045年を「第3次再編計画」期間、2046年～2055年を「第4次再編計画」期間

(1) 大宮東地域

ア 庁舎施設

<①市役所>

番号	対象エリア	延べ床面積 (㎡)	運営	施設評価①	施設評価②					再編の可能性						
				課題	防災		土砂	浸水	目標 縮減 率	多機 能化	集約 化	民間 移譲	用途 変更	譲渡	除却	
					本部	避難										
①	全市エリア	21,547.89	直営	ソフト面	-	-	-	-	23.0%	○						

現状と課題

■ 施設評価結果

【施設評価①】ソフト面に課題あり

【施設評価②】－

■ 現状

- ・ 建築後 28 年が経過しています。
- ・ 平成 29 (2017) 年度から長寿命化改修を実施しています (令和 6 年度まで継続実施予定)。

■ 課題等

- ・ 品質 (ハード) は高評価ですが、機能 (ソフト) が低評価のため、維持管理・運営の効率化及び多機能化による行政サービスの改善の検討が必要です。

再編方針

■ 再編の可能性

- ・ 再編手法：多機能化

■ 再編内容

【短期】

- ・ 当面は、省エネ効果の高い設備改修等により維持管理費の縮減を図りつつ、目標耐用年数に向けて引き続き適切な維持管理を実施します。

【中長期】

- ・ 空きスペースが発生した場合は、必要に応じて適正な執務機能を精査し、多機能化を検討します。

イ 社会教育施設

<①南部公民館>

番号	対象エリア	延べ床面積 (㎡)	運営	施設評価①	施設評価②					再編の可能性						
				課題	防災		土砂	浸水	目標 縮減 率	多機 能化	集約 化	民間 移譲	用途 変更	譲渡	除却	
					本部	避難										
①	地域エリア	601.95	直営	課題なし	○	-	-	-	22.0%	○						

現状と課題

■ 施設評価結果

【施設評価①】課題なし

【施設評価②】災害時の地区本部に指定されていることから「継続利用」を基本とします。

■ 現状

- ・ 建築後 36 年が経過しています。
- ・ 施設は、地域住民のため、交流、文化活動及び健康の増進等に寄与することを目的としています。

■ 課題等

- ・ 品質（ハード）及び機能（ソフト）ともに高評価のため、問題ありません。
- ・ 災害時の地区本部に指定されていることから、施設の再編を検討する際には、地域に必要な地区本部機能の確保という点について考慮する必要があります。

再編方針

■ 再編の可能性

- ・ 再編手法：多機能化
- ・ 多機能化が可能な分類：地域活性化施設、図書館、小・中学校

■ 再編内容

【短期】

- ・ 令和 2（2020）年度に長寿命化改修を実施する予定です。
- ・ 当面は、目標耐用年数に向けて長寿命化計画に基づき適切な維持管理を実施します。

【中長期】

- ・ 第 4 次再編計画（2046～2055 年）期間中に更新時期を迎えます。地域の拠点性を高めるため、多世代が一か所に集える市民交流の拠点となる施設として多機能化を検討します。

ウ 小・中学校

<①東小学校、②黒田小学校、③富士見小学校、④富士宮第一中学校>

番号	対象エリア	延べ床面積 (㎡)	運営	施設評価①		施設評価②				再編の可能性						
				課題	防災		土砂	浸水	目標 縮減 率	多機 能化	集約 化	民間 移譲	用途 変更	譲渡	除却	
					本部	避難										
①	コミュニティエリア	4,801.52	直営	ハード面	-	○	-	-	32.5%	○	○					
②	コミュニティエリア	5,611.27	直営	ハード面	-	○	-	-	32.5%	○	○					
③	コミュニティエリア	4,633.46	直営	ハード面	-	○	-	-	32.5%	○	○					
④	地域エリア	6,084.94	直営	ハード面	○	○	-	-	32.5%	○	○					

現状と課題

■ 施設評価結果

【施設評価①】いずれの施設も、ハード面に課題あり

【施設評価②】いずれの施設も、災害時の指定緊急避難場所・指定避難所、また富士宮第一中学校については地区本部に指定されていることから「継続利用」を基本とします。

■ 現状

- ・東小学校は建築後37年～52年、黒田小学校は建築後38年～49年、富士見小学校は建築後40年～41年、富士宮第一中学校は建築後28年～43年が経過しています。
- ・東小学校の管理教室棟、黒田小学校、富士見小学校及び富士宮第一中学校の屋内運動場では耐震性能がやや劣る状況です。
- ・富士宮第一中学校の技術科室は令和元（2019）年度に長寿命化改修を実施しました。
- ・いずれの施設も、児童及び生徒数が年々減少傾向にあることから、余裕教室を特別活動室や多目的教室に変更するなど、多様な教育環境に対応するための活用が図られています。

■ 課題等

- ・いずれの施設も、機能（ソフト）は高評価ですが、品質（ハード）が低評価のため、施設の修繕・改修等による品質の改善、多機能化及び建て替えの検討が必要です。
- ・いずれの施設も、災害時の避難場所等に指定されていることから、施設の再編を検討する際には、地域に必要な避難場所等の機能の確保という点について考慮する必要があります。
- ・いずれの施設も、多機能化に当たっては、児童及び生徒の安全性を確保するための対応策の検討が必要です。また、各施設の相互利用・共同利用が行われるため、それぞれの管理区分を明確にする必要があります。

再編方針

■ 再編の可能性

- ・再編手法：多機能化、集約化
- ・多機能化が可能な分類：公民館、児童クラブ

■ 再編内容

【短期】

- ・黒田小学校の普通教室棟、管理教室棟では令和2（2020）年度に長寿命化改修を実施する予定です。
- ・東小学校の管理教室棟、黒田小学校、富士見小学校及び富士宮第一中学校の屋内運動場は、耐震性能がやや劣るため、耐震化と併せた施設の長寿命化改修を効率的かつ計画的に実施します。
- ・いずれの施設も、当面は、目標耐用年数に向けて長寿命化計画に基づき適切な維持管理を実施します。

【中長期】

- ・東小学校及び黒田小学校は第3次再編計画（2036～2045年）期間中に、富士見小学校及び富士宮第一中学校は第4次再編計画（2046～2055年）期間中にそれぞれ更新時期を迎えます。いずれの施設も、更新時には「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き」を参考に、多機能化及び各施設の相互利用・共同利用を検討します。

工 消防施設

<①中央消防署>

番号	対象エリア	延べ床面積 (㎡)	運営	施設評価①	施設評価②				再編の可能性						
				課題	防災		土砂	浸水	目標 縮減 率	多機 能化	集約 化	民間 移譲	用途 変更	譲渡	除却
					本部	避難									
①	地域エリア	1,606.78	直営	課題なし	-	-	-	-	0.0%						

現状と課題

■ 施設評価結果

【施設評価①】 課題なし

【施設評価②】 -

■ 現状

- ・ 建築後 19 年が経過しています。

■ 課題等

- ・ 品質（ハード）及び機能（ソフト）ともに高評価のため、問題ありません。

再編方針

■ 再編の可能性

- ・ 再編手法：-

■ 再編内容

【短期】

- ・ 施設は、市民の安全・安心な暮らしを守る消防活動等の拠点施設として今後も維持するため、目標耐用年数に向けて長寿命化計画に基づき適切な維持管理を実施します。

【中長期】

- ・ 「富士宮市消防総合基本計画」に基づき消防体制の基盤の充実を図りつつ、適切な維持管理を実施します。

<②第5分団詰所、③第11分団詰所（貫戸）、④第11分団詰所（黒田）、
⑤第11分団詰所（星山）、⑥第12分団詰所（山本）>

番号	対象エリア	延べ床面積 (㎡)	運営	施設評価①	施設評価②					再編の可能性						
				課題	防災		土砂	浸水	目標 縮減率	多機 能化	集約 化	民間 移譲	用途 変更	譲渡	除却	
					本部	避難										
②	コミュニティエリア	117.00	直営	課題なし	-	-	-	-	0.0%		○					
③	コミュニティエリア	19.87	直営	ハード・ソフト面	-	-	-	-	0.0%		○					
④	コミュニティエリア	65.22	直営	ハード面	-	-	-	-	0.0%		○					
⑤	コミュニティエリア	101.94	直営	課題なし	-	-	-	-	0.0%		○					
⑥	コミュニティエリア	77.40	直営	ソフト面	-	-	-	-	0.0%		○					

現状と課題

■ 施設評価結果

【施設評価①】第5分団詰所、第11分団詰所（星山）：課題なし
第11分団詰所（貫戸）：ハード・ソフト面に課題あり
第11分団詰所（黒田）：ハード面に課題あり
第12分団詰所（山本）：ソフト面に課題あり

【施設評価②】－

■ 現状

- 第5分団詰所は建築後15年、第11分団詰所（貫戸）及び第11分団詰所（黒田）は建築後39年、第11分団詰所（星山）は建築後5年、第12分団詰所（山本）は建築後30年経過しています。

■ 課題等

- 第5分団詰所及び第11分団詰所（星山）は、品質（ハード）及び機能（ソフト）ともに高評価のため、問題ありません。
- 第11分団詰所（貫戸）は、品質（ハード）及び機能（ソフト）ともに低評価のため、今後の在り方を優先的に検討する必要があります。
- 第11分団詰所（黒田）は、機能（ソフト）は高評価ですが、品質（ハード）が低評価のため、施設の修繕・改修等による品質の改善、集約化及び建て替えの検討が必要です。
- 第12分団詰所（山本）は、品質（ハード）は高評価ですが、機能（ソフト）が低評価のため、維持管理・運営の効率化及び集約化の検討が必要です。
- いずれの施設も、団員の活動拠点として管轄区域に配置しており、その組織、管轄区域は規則で定めていることから、集約化を図るには組織再編、規則改正が必要となります。

再編方針

■ 再編の可能性

- 再編手法：集約化

■ 再編内容

【短期】

- 第11分団詰所（貫戸）及び第11分団詰所（黒田）は建て替えを実施予定です。
- いずれの施設も、当面は、目標耐用年数に向けて長寿命化計画に基づき適切な維持管理を実施します。

【中長期】

- いずれの施設も、人口減少に伴う団員数の減少を考慮した分団組織の再編を進める中で、規模及び配置の適正化を精査した上で、集約化等を検討します。

才 医療・保健・福祉施設

<①黒田第1児童クラブ、②黒田第2・第3児童クラブ、③ひがし第1・第2児童クラブ、
④吉美第1・第2児童クラブ>

番号	対象エリア	延べ床面積 (㎡)	運営	施設評価① 課題	施設評価②				再編の可能性							
					防災		土砂	浸水	目標 縮減 率	多機 能化	集約 化	民間 移譲	用途 変更	譲渡	除却	
					本部	避難										
①	コミュニティエリア	81.00	委託	課題なし	-	-	-	-	32.5%	○	○					
②	コミュニティエリア	264.98	委託	ソフト面	-	-	-	-	32.5%	○	○					
③	コミュニティエリア	265.00	委託	課題なし	-	-	-	-	32.5%	○	○					
④	コミュニティエリア	265.00	委託	課題なし	-	-	-	-	32.5%	○	○					

現状と課題

■ 施設評価結果

【施設評価①】黒田第1児童クラブ、ひがし第1・第2児童クラブ、
吉美第1・第2児童クラブ：課題なし
黒田第2・第3児童クラブ：ソフト面に課題あり

【施設評価②】－

■ 現状

- ・黒田第1児童クラブは建築後27年、黒田第2・第3児童クラブは建築後4年、ひがし第1・第2児童クラブ及び吉美第1・第2児童クラブは建築後2年が経過しています。
- ・いずれの施設も、運営は、民間委託により行われています。
- ・いずれの施設も、制度改正等により対象年齢がおおむね10歳未満から12歳以下に拡大されたことから、当面、利用児童数の増加が見込まれます。

■ 課題等

- ・黒田第1児童クラブ、ひがし第1・第2児童クラブ及び吉美第1・第2児童クラブは、品質（ハード）及び機能（ソフト）ともに高評価のため、問題ありません。
- ・黒田第2・第3児童クラブは、品質（ハード）は高評価ですが、機能（ソフト）が低評価のため、維持管理・運営の効率化、多機能化及び集約化による行政サービスの改善の検討が必要です。

再編方針

■ 再編の可能性

- ・再編手法：多機能化、集約化
- ・多機能化が可能な分類：地域活性化施設、小・中学校、保育園

■ 再編内容

【短期】

- ・黒田第1児童クラブは、当面は、目標耐用年数に向けて適切な維持管理を実施します。
- ・黒田第2・第3児童クラブ、ひがし第1・第2児童クラブ及び吉美第1・第2児童クラブは、当面は、目標耐用年数に向けて長寿命化計画に基づき適切な維持管理を実施します。
- ・いずれの施設も、対象年齢の拡大に伴う需要増により対応が困難な場合は、利用時間が重ならない学校の活用等を検討します。

【中長期】

- ・いずれの施設も、中長期的には利用需要の減少が見込まれることから、将来の利用状況等を考慮し、規模及び配置の適正化を精査する中で、施設の更新時には多機能化及び集約化を検討します。

カ 保育園

<①明星保育園>

番号	対象エリア	延べ床面積 (㎡)	運営	施設評価①	施設評価②				再編の可能性							
				課題	防災		土砂	浸水	目標 縮減 率	多機 能化	集約 化	民間 移譲	用途 変更	譲渡	除却	
					本部	避難										
①	コミュニティエリア	963.86	直営	課題なし	-	-	-	-	15.4%	○	○					

現状と課題

■ 施設評価結果

【施設評価①】 課題なし

【施設評価②】 -

■ 現状

- ・ 建築後 42 年が経過しています。

■ 課題等

- ・ 品質（ハード）及び機能（ソフト）ともに高評価のため、問題ありません。
- ・ 建物の更新に併せて利用需要や社会情勢等を踏まえた適正な施設配置の検討が必要です。

再編方針

■ 再編の可能性

- ・ 再編手法：多機能化、集約化
- ・ 多機能化が可能な分類：児童クラブ

■ 再編内容

【短期】

- ・ 当面は、目標耐用年数に向けて長寿命化計画に基づき適切な維持管理を実施します。

【中長期】

- ・ 第4次再編計画（2046～2055年）期間中に更新時期を迎えます。子ども・子育て支援制度の動向、民間保育施設等の整備状況及び地域の特性を勘案する中で、園児数に対する施設の規模及び配置の適正化を精査し、施設の更新時には多機能化及び集約化を検討します。

キ 市営住宅

＜①月の輪住宅、②富士見ヶ丘住宅＞

番号	対象エリア	延べ床面積 (㎡)	運営	施設評価① 課題	施設評価②				目標 縮減 率	再編の可能性					
					防災		土砂	浸水		多機 能化	集約 化	民間 移譲	用途 変更	譲渡	除却
					本部	避難									
①	その他	6,632.80	直営	課題なし	-	-	-	-	30.0%		○				
②	その他	4,888.32	直営	課題なし	-	-	-	-	30.0%		○				

現状と課題

■ 施設評価結果

【施設評価①】いずれの施設も、課題なし

【施設評価②】－

■ 現状

- ・月の輪住宅は建築後 29 年～32 年、富士見ヶ丘住宅は建築後 33 年～37 年が経過しています。
- ・月の輪住宅は平成 29（2017）年度及び令和元（2019）年度に長寿命化改修を実施しました。

■ 課題等

- ・いずれの施設も、品質（ハード）及び機能（ソフト）ともに高評価のため、問題ありません。
- ・いずれの施設も、建物の更新に併せて利用需要や社会情勢等を踏まえた適正な施設配置の検討が必要です。

再編方針

■ 再編の可能性

- ・再編手法：集約化

■ 再編内容

【短期】

- ・富士見ヶ丘住宅は、令和 2（2020）年度に長寿命化改修を実施する予定です。
- ・いずれの施設も、当面は、令和 2（2020）年度に更新する「市営住宅長寿命化計画」に基づき適切な維持管理を実施します。

【中長期】

- ・富士見ヶ丘住宅は、第 4 次再編計画（2046～2055 年）期間中に更新時期を迎えます。いずれの施設も、「市営住宅長寿命化計画」及び令和 6（2024）年度に更新する「住生活基本計画」に基づき規模及び配置の適正化を進めていきます。

ク 環境・プラント施設

<①衛生プラント>

番号	対象エリア	延べ床面積 (㎡)	運営	施設評価①	施設評価②				再編の可能性							
				課題	防災		土砂	浸水	目標 縮減 率	多機 能化	集約 化	民間 移譲	用途 変更	譲渡	除却	
					本部	避難										
①	その他	2,253.59	直営	ソフト面	-	-	-	-	30.6%		○					

現状と課題

■ 施設評価結果

【施設評価①】ソフト面に課題あり

【施設評価②】－

■ 現状

- ・ 建築後 31 年が経過しています。
- ・ し尿及び浄化槽汚泥について、施設での単独処理方式から、星山浄化センターとの連携による処理へ変更したことにより、現在休止中の設備があります。
- ・ 平成 30（2018）年度に長寿命化改修を実施しました。

■ 課題等

- ・ 品質（ハード）は高評価ですが、機能（ソフト）が低評価のため、維持管理・運営の効率化の検討が必要です。
- ・ 人口減少に伴う稼働率の変動が見込まれることから、必要性及び効率性を見極めた上で適切な維持管理を継続していく必要があります。

再編方針

■ 再編の可能性

- ・ 再編手法：集約化

■ 再編内容

【短期】

- ・ 当面は、目標耐用年数に向けて長寿命化計画に基づき適切な維持管理を実施します。

【中長期】

- ・ 星山浄化センターとの集約化に向けた検討をしていきます。

(2) 大宮中地域

ア 地域活性化施設

＜①駅前交流センター、②大富士交流センター＞

番号	対象エリア	延べ床面積 (㎡)	運営	施設評価① 課題	施設評価②				再編の可能性						
					防災		土砂	浸水	目標 縮減 率	多機 能化	集約 化	民間 移譲	用途 変更	譲渡	除却
					本部	避難									
①	全市エリア	1,441.10	指定管理	課題なし	-	○	-	-	23.0%	○	○				
②	地域エリア	1,314.09	指定管理	課題なし	○	-	-	-	20.1%	○	○				

現状と課題

■ 施設評価結果

【施設評価①】 いずれの施設も、課題なし

【施設評価②】 駅前交流センターは災害時の指定緊急避難場所、大富士交流センターは地区本部に指定されていることから、いずれの施設も、「継続利用」を基本とします。

■ 現状

- ・ 駅前交流センターは建築後6年、大富士交流センターは建築後4年が経過しています。
- ・ いずれの施設も、運営は指定管理者により行われています。

■ 課題等

- ・ いずれの施設も、品質（ハード）及び機能（ソフト）ともに高評価のため、問題ありません。
- ・ いずれの施設も、災害時の避難場所等に指定されていることから、施設の再編を検討する際には、地域に必要な避難場所等の機能の確保という点について考慮する必要があります。

再編方針

■ 再編の可能性

- ・ 再編手法：多機能化、集約化
- ・ 多機能化が可能な分類：公民館、博物館等、児童クラブ

■ 再編内容

【短期】

- ・ いずれの施設も、当面は、目標耐用年数に向けて長寿命化計画に基づき適切な維持管理を実施します。

【中長期】

- ・ 駅前交流センターは会議室が多くあるため、余剰スペースが発生した場合、他用途で使用することを検討します。
- ・ いずれの施設も、集会施設機能及び図書館機能等、同様の機能を持つ施設と重複する機能については多機能化及び集約化を検討します。

イ 社会教育施設

<①市民文化会館>

番号	対象エリア	延べ床面積 (㎡)	運営	施設評価①	施設評価②				再編の可能性							
				課題	防災		土砂	浸水	目標 縮減 率	多機 能化	集約 化	民間 移譲	用途 変更	譲渡	除却	
					本部	避難										
①	全市エリア	8,252.72	指定管理	課題なし	○	○	-	-	23.0%	○	○					

現状と課題

■ 施設評価結果

【施設評価①】 課題なし

【施設評価②】 災害時の指定緊急避難場所・指定避難所、地区本部に指定されていることから「継続利用」を基本とします。

■ 現状

- ・ 建築後 39 年が経過しています。
- ・ 建物及び特殊設備の老朽化に加えて、建物の耐震性能も劣る状況です。
- ・ 大ホールを有する社会教育系の拠点施設です。
- ・ 運営は、指定管理者により行われています。

■ 課題等

- ・ 品質（ハード）及び機能（ソフト）ともに高評価のため、問題ありません。
- ・ 指定管理者に委託していることから、施設の再編を検討するには運営方法の検討が必要です。
- ・ 現状では駐車場が不足しています。施設の再編を検討する際には、建物だけではなく駐車場を含めた規模の適正化の検討が必要です。
- ・ 災害時の避難場所等に指定されていることから、施設の再編を検討する際には、地域に必要な避難場所等の機能の確保という点について考慮する必要があります。

再編方針

■ 再編の可能性

- ・ 再編手法：多機能化、集約化
- ・ 多機能化が可能な分類：交流センター

■ 再編内容

【短期】

- ・ 災害時の地域拠点施設であり、今後も施設を維持するため、耐震化と併せた施設の改修を実施するとともに、目標耐用年数に向けて長寿命化計画に基づき適切な維持管理を実施します。

【中長期】

- ・ 第4次再編計画（2046～2055年）期間中に更新時期を迎えます。交流センターと集会施設機能の重複が見られるため、広域的な視点に立って類似施設との役割を明確化し、規模及び配置の適正化を精査する中で、施設の更新時には多機能化及び集約化を検討します。

＜②富士宮市立中央図書館＞

番号	対象エリア	延べ床面積 (㎡)	運営	施設評価①	施設評価②					再編の可能性						
				課題	防災		土砂	浸水	目標 縮減 率	多機 能化	集約 化	民間 移譲	用途 変更	譲渡	除却	
					本部	避難										
②	全市エリア	3,802.06	直営	課題なし	-	○	-	-	23.0%	○	○					

現状と課題

■ 施設評価結果

【施設評価①】課題なし

【施設評価②】災害時の指定緊急避難場所に指定されていることから「継続利用」を基本とします。

■ 現状

- ・建築後31年が経過しています。
- ・土日の利用者が比較的多く、日によっては駐車スペースの確保が難しい状況です。
- ・すべての図書館において、県内外の図書館と図書相互貸借を実施しています。

■ 課題等

- ・品質（ハード）及び機能（ソフト）ともに高評価のため、問題ありません。
- ・近接する市民文化会館との多機能化が考えられます。どちらの施設においても現状では駐車場が不足しており、多機能化を検討する際には、駐車場も含めた規模の適正化の検討が必要です。
- ・図書館機能を有する交流センターの整備が進んでおり、今後は、交流センターの整備と併せて施設の適正な規模及び配置について検討する必要があります。
- ・災害時の避難場所に指定されていることから、施設の再編を検討する際には、地域に必要な避難場所機能の確保という点について考慮する必要があります。

再編方針

■ 再編の可能性

- ・再編手法：多機能化、集約化
- ・多機能化が可能な分類：公民館

■ 再編内容

【短期】

- ・当面は、目標耐用年数に向けて長寿命化計画に基づき適切な維持管理を実施します。

【中長期】

- ・利用状況等を考慮し、規模及び配置の適正化を精査する中で、施設の更新時には多機能化を検討します。

ウ 市立病院

<①富士宮市立病院>

番号	対象エリア	延べ床面積 (㎡)	運営	施設評価①	施設評価②				再編の可能性							
				課題	防災		土砂	浸水	目標 縮減 率	多機 能化	集約 化	民間 移譲	用途 変更	譲渡	除却	
					本部	避難										
①	全市エリア	26,726.57	直営	ソフト面	-	-	-	-	30.0%							

現状と課題

■ 施設評価結果

【施設評価①】ソフト面に課題あり

【施設評価②】－

■ 現状

- ・ 建築後半年～38年が経過しています。
- ・ 現在の建物は、建築当時の医療法基準で作られているため、現在の基準に不適合な部分があることや狭隘等により、新たな部門の新設等が困難な状況となっています。
- ・ 市立病院の機能の強化・拡充を図るため、令和元（2019）年度に地域包括ケア病棟を増築しました。

■ 課題等

- ・ 品質（ハード）は高評価ですが、機能（ソフト）が低評価のため、維持管理・運営の効率化の検討が必要です。

再編方針

■ 再編の可能性

- ・ 再編手法：－

■ 再編内容

【短期】

- ・ 当面は、建物の改修等により施設を維持しつつ、目標耐用年数に向けて長寿命化計画に基づき適切な維持管理を実施します。

【中長期】

- ・ 第4次再編計画（2046～2055年）期間中に更新時期を迎えます。広域的な医療体制の在り方を踏まえて、機能の効率的な配置や他の医療機関との連携・機能分担等により適正な施設配置を検討します。

工 小・中学校

<①大宮小学校、②大富士小学校、③富士宮第二中学校、④大富士中学校>

番号	対象エリア	延べ床面積 (㎡)	運営	施設評価① 課題	施設評価②					再編の可能性						
					防災		土砂	浸水	目標 縮減 率	多機 能化	集約 化	民間 移譲	用途 変更	譲渡	除却	
					本部	避難										
①	コミュニティエリア	6,822.19	直営	課題なし	-	○	-	-	29.6%	○	○					
②	コミュニティエリア	5,786.19	直営	ハード面	-	○	-	-	29.6%	○	○					
③	地域エリア	6,822.51	直営	ハード面	○	○	-	-	37.2%	○	○					
④	地域エリア	8,597.16	直営	課題なし	-	○	-	-	37.2%	○	○					

現状と課題

■ 施設評価結果

【施設評価①】大宮小学校、大富士中学校：課題なし
大富士小学校、富士宮第二中学校：ハード面に課題あり

【施設評価②】いずれの施設も、災害時の指定緊急避難場所・指定避難所、地区本部（富士宮第二中学校が該当）に指定されていることから「継続利用」を基本とします。

■ 現状

- 大宮小学校は建築後 35 年～41 年、大富士小学校は建築後 38 年～48 年、富士宮第二中学校は建築後 36 年～57 年、大富士中学校は建築後 25 年が経過しています。
- 大宮小学校の管理教室棟及び大富士小学校の教室棟（東）では平成 29（2017）年度に長寿命化改修を実施しました。
- 大富士小学校の屋内運動場は、平成 30（2018）年度に耐震改修及び長寿命化改修を実施しました。
- いずれの施設も、児童及び生徒数が年々減少傾向にあることから、余裕教室を特別活動室や多目的教室に変更するなど、多様な教育環境に対応するための活用が図られています。

■ 課題等

- 大宮小学校及び大富士中学校は、品質（ハード）及び機能（ソフト）ともに高評価のため、問題ありません。
- 大富士小学校及び富士宮第二中学校は、機能（ソフト）は高評価ですが、品質（ハード）が低評価のため、施設の修繕・改修等による品質の改善、多機能化及び建て替えの検討が必要です。
- いずれの施設も、災害時の避難場所等に指定されていることから、施設の再編を検討する際には、地域に必要な避難場所等の機能の確保という点について考慮する必要があります。
- いずれの施設も、多機能化に当たっては、児童及び生徒の安全性を確保するための対応策の検討が必要です。また、各施設の相互利用・共同利用が行われるため、それぞれの管理区分を明確にする必要があります。

再編方針

■ 再編の可能性

- ・再編手法：多機能化、集約化
- ・多機能化が可能な分類：公民館、児童クラブ

■ 再編内容

【短期】

- ・富士宮第二中学校の教室・特別教室棟・管理・教室棟では、令和元（2019）年度～令和2（2020）年度にかけて長寿命化改修を実施予定です。
- ・いずれの施設も、当面は、目標耐用年数に向けて長寿命化計画に基づき適切な維持管理を実施します。

【中長期】

- ・富士宮第二中学校は第2次再編計画（2026～2035年）期間中、大富士小学校は第3次再編計画（2036～2045年）期間中、大宮小学校は第4次再編計画（2046～2055年）期間中にそれぞれ更新時期を迎えます。いずれの施設も、更新時には「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き」を参考に、多機能化及び各施設の相互利用・共同利用を検討します。

才 保育園

<①大富士保育園、②大宮保育園>

番号	対象エリア	延べ床面積 (㎡)	運営	施設評価① 課題	施設評価②					再編の可能性					
					防災		土砂	浸水	目標 縮減 率	多機 能化	集約 化	民間 移譲	用途 変更	譲渡	除却
					本部	避難									
①	コミュニティエリア	609.85	直営	課題なし	-	-	-	-	15.4%	○	○				
②	コミュニティエリア	1,490.93	直営	課題なし	-	-	-	-	15.4%	○	○				

現状と課題

■ 施設評価結果

【施設評価①】いずれの施設も、課題なし

【施設評価②】－

■ 現状

- ・大富士保育園は建築後 34 年、大宮保育園は建築後 12 年が経過しています。

■ 課題等

- ・いずれの施設も、品質（ハード）及び機能（ソフト）ともに高評価のため、問題ありません。
- ・いずれの施設も、建物の更新に併せて利用需要や社会情勢等を踏まえた適正な施設配置の検討が必要です。

再編方針

■ 再編の可能性

- ・再編手法：多機能化、集約化
- ・多機能化が可能な分類：児童クラブ

■ 再編内容

【短期】

- ・大富士保育園では令和 2（2020）年度に長寿命化改修を実施する予定です。
- ・いずれの施設も、当面は、目標耐用年数に向けて長寿命化計画に基づき適切な維持管理を実施します。

【中長期】

- ・大富士保育園は、第 4 次再編計画（2046～2055 年）期間中に更新時期を迎えます。いずれの施設も、子ども・子育て支援制度の動向、民間保育施設等の整備状況及び地域の特性を勘案する中で、園児数に対する施設の規模及び配置の適正化を精査し、施設の更新時には多機能化及び集約化を検討します。

力 消防施設

<①第1分団詰所、②第2分団詰所、③第3分団詰所、④第8分団詰所>

番号	対象エリア	延べ床面積 (㎡)	運営	施設評価①	施設評価②					再編の可能性						
				課題	防災		土砂	浸水	目標 縮減 率	多機 能化	集約 化	民間 移譲	用途 変更	譲渡	除却	
					本部	避難										
①	コミュニティエリア	102.80	直営	課題なし	-	-	-	-	0.0%		○					
②	コミュニティエリア	76.70	直営	課題なし	-	-	-	-	0.0%		○					
③	コミュニティエリア	102.80	直営	課題なし	-	-	-	-	0.0%		○					
④	コミュニティエリア	76.80	直営	課題なし	-	-	-	-	0.0%		○					

現状と課題

■ 施設評価結果

【施設評価①】いずれの施設も、課題なし

【施設評価②】—

■ 現状

- ・第1分団詰所は建築後23年、第2分団詰所は建築後26年、第3分団詰所は建築後16年、第8分団詰所は建築後24年が経過しています。

■ 課題等

- ・いずれの施設も、品質（ハード）及び機能（ソフト）ともに高評価のため、問題ありません。
- ・いずれの施設も、団員の活動拠点として管轄区域に配置しており、その組織、管轄区域は規則で定めていることから、集約化を図るには組織再編、規則改正が必要となります。

再編方針

■ 再編の可能性

- ・再編手法：集約化

■ 再編内容

【短期】

- ・いずれの施設も、当面は、目標耐用年数に向けて長寿命化計画に基づき適切な維持管理を実施します。

【中長期】

- ・いずれの施設も、人口減少に伴う団員数の減少を考慮した分団組織の再編を進める中で、規模及び配置の適正化を精査した上で、集約化等を検討します。

キ 医療・保健・福祉施設

＜①療育支援センター＞

番号	対象エリア	延べ床面積 (㎡)	運営	施設評価① 課題	施設評価②					再編の可能性					
					防災		土砂	浸水	目標 縮減 率	多機 能化	集約 化	民間 移譲	用途 変更	譲渡	除却
					本部	避難									
①	その他	1,061.96	直営	課題なし	-	-	-	-	15.4%	○		○			

現状と課題

■ 施設評価結果

【施設評価①】課題なし

【施設評価②】－

■ 現状

- ・ 建築後6年が経過しています。

■ 課題等

- ・ 品質（ハード）及び機能（ソフト）ともに高評価のため、問題ありません。
- ・ 他の施設への多機能化は可能ですが、機能訓練室等の特別な設備の整備が必要です。
- ・ 民間への移譲については、現在、利用者からの負担金を徴収していないため、事業を維持していくためには、民間事業者へ補助金及び委託料を支出する必要があります。

再編方針

■ 再編の可能性

- ・ 再編手法：多機能化、民間移譲
- ・ 多機能化が可能な分類：あすなろ園

■ 再編内容

【短期】

- ・ 当面は、目標耐用年数に向けて長寿命化計画に基づき適切な維持管理を実施します。

【中長期】

- ・ 利用状況等を考慮し、規模及び配置の適正化を精査する中で、施設の更新時には多機能化を検討します。

<②あすなろ園>

番号	対象エリア	延べ床面積 (㎡)	運営	施設評価①	施設評価②				再編の可能性							
				課題	防災		土砂	浸水	目標 縮減 率	多機 能化	集約 化	民間 移譲	用途 変更	譲渡	除却	
					本部	避難										
②	その他	635.79	直営	課題なし	-	-	○	-	15.4%	○						

現状と課題

■ 施設評価結果

【施設評価①】課題なし

【施設評価②】敷地の一部が土砂災害警戒区域に指定されています。

■ 現状

- ・ 建築後 20 年が経過しています。
- ・ 外壁や付帯設備に木材を多用しており、定期的な修繕周期が短い状況です。

■ 課題等

- ・ 品質（ハード）及び機能（ソフト）ともに高評価のため、問題ありません。
- ・ 敷地の一部が土砂災害警戒区域に指定されています。

再編方針

■ 再編の可能性

- ・ 再編手法：多機能化
- ・ 多機能化が可能な分類：療育支援センター

■ 再編内容

【短期】

- ・ 令和 2（2020）年度に空調設備の長寿命化改修を実施する予定です。
- ・ 当面は、目標耐用年数に向けて長寿命化計画に基づき適切な維持管理を実施します。

【中長期】

- ・ 利用状況等を考慮し、規模及び配置の適正化を精査する中で、施設の更新時には多機能化を検討します。
- ・ 敷地の一部が土砂災害警戒区域に指定されているため、施設の移転も含めて検討します。

ク 市営住宅

＜①下万野住宅、②万野住宅＞

番号	対象エリア	延べ床面積 (㎡)	運営	施設評価① 課題	施設評価②					再編の可能性					
					防災		土砂	浸水	目標 縮減 率	多機 能化	集約 化	民間 移譲	用途 変更	譲渡	除却
					本部	避難									
①	その他	945.66	直営	課題なし	-	-	-	-	30.0%		○				
②	その他	-	直営	対象外	-	-	-	-	-						

現状と課題

■ 施設評価結果

【施設評価①】下万野住宅：課題なし

【施設評価②】－

■ 現状

- 下万野住宅は建築後 24 年が経過しています。令和元（2019）年度に長寿命化改修を実施しました。
- 万野住宅は、平成 27 年（2015）度から老朽化した住宅の建て替えを行っており、令和 6（2024）年度に完了予定です。

■ 課題等

- 下万野住宅は、品質（ハード）及び機能（ソフト）ともに高評価のため、問題ありません。
- 下万野住宅は、建物の更新に併せて利用需要や社会情勢等を踏まえた適正な施設配置の検討が必要です。

再編方針

■ 再編の可能性

- 再編手法：下万野住宅は集約化

■ 再編内容

【短期】

- いずれの施設も、当面は、令和 2（2020）年度に更新する「市営住宅長寿命化計画」に基づき適切な維持管理を進めていきます。

【中長期】

- いずれの施設も、「市営住宅長寿命化計画」及び令和 6（2024）年度に更新する「住生活基本計画」に基づき規模及び配置の適正化を進めていきます。

ケ 機能停止施設

<① (旧) 中央公民館生涯学習ルーム>

番号	対象エリア	延べ床面積 (㎡)	運営	施設評価① 課題	施設評価②					再編の可能性					
					防災		土砂	浸水	目標 縮減 率	多機 能化	集約 化	民間 移譲	用途 変更	譲渡	除却
					本部	避難									
①	その他	307.00	直営	ソフト面	-	-	-	-	100.0%			○			

現状と課題

■ 施設評価結果

【施設評価①】ソフト面に課題あり

【施設評価②】—

■ 現状

- 建築後 35 年が経過しています。
- 施設は機能停止後、主に文書保存倉庫として使用していましたが、現在は新たな活用方法を検討している状況です。

■ 課題等

- 品質（ハード）は高評価ですが、機能（ソフト）が低評価のため、維持管理・運営の効率化による行政サービスの改善の検討が必要です。

再編方針

■ 再編の可能性

- 再編手法：民間移譲

■ 再編内容

【短期】

- 残存耐用年数を考慮し、民間への移譲等を検討します。

【中長期】

- —

(3) 大宮西地域

ア 社会教育施設

<①西公民館>

番号	対象エリア	延べ床面積 (㎡)	運営	施設評価①	施設評価②					再編の可能性						
				課題	防災		土砂	浸水	目標 縮減 率	多機 能化	集約 化	民間 移譲	用途 変更	譲渡	除却	
					本部	避難										
①	地域エリア	935.94	直営	ソフト面	○	-	-	○	24.9%	○						

現状と課題

■ 施設評価結果

【施設評価①】ソフト面に課題あり

【施設評価②】・災害時の地区本部に指定されていることから「継続利用」を基本とします。
・敷地全体が浸水想定区域に指定されています。

■ 現状

- ・建築後 23 年が経過しています。
- ・施設は、地域住民のため、交流、文化活動及び健康の増進等に寄与することを目的としています。

■ 課題等

- ・品質（ハード）は高評価ですが、機能（ソフト）が低評価のため、維持管理・運営の効率化及び多機能化による行政サービスの改善の検討が必要です。
- ・災害時の地区本部に指定されていることから、施設の再編を検討する際には、地域に必要な地区本部機能の確保という点について考慮する必要があります。
- ・敷地全体が河川の氾濫による浸水想定区域内にあり、浸水の深さは 0.5m～3m未満の区域に指定されています。

再編方針

■ 再編の可能性

- ・再編手法：多機能化
- ・多機能化が可能な分類：地域活性化施設、図書館、小・中学校

■ 再編内容

【短期】

- ・当面は、目標耐用年数に向けて長寿命化計画に基づき適切な維持管理を実施します。

【中長期】

- ・地域の拠点性を高めるため、多世代が一か所に集える市民交流の拠点となる施設として多機能化を検討します。
- ・敷地全体が河川の氾濫による 0.5m～3m未満の浸水想定区域に指定されているため、施設の移転も含めて検討します。

イ 小・中学校

<①貴船小学校、②西小学校、③富士宮第三中学校>

番号	対象エリア	延べ床面積 (㎡)	運営	施設評価①		施設評価②				再編の可能性						
				課題	防災		土砂	浸水	目標 縮減 率	多機 能化	集約 化	民間 移譲	用途 変更	譲渡	除却	
					本部	避難										
①	コミュニティエリア	6,244.07	直営	ハード面	-	○	-	-	31.5%	○	○					
②	コミュニティエリア	3,823.87	直営	ソフト面	-	○	-	-	31.5%	○	○					
③	地域エリア	5,577.95	直営	ハード面	-	○	-	-	39.1%	○	○					

現状と課題

■ 施設評価結果

【施設評価①】 貴船小学校、富士宮第三中学校：ハード面に課題あり
西小学校：ソフト面に課題あり

【施設評価②】 いずれの施設も、災害時の指定緊急避難場所・指定避難所に指定されていることから「継続利用」を基本とします。

■ 現状

- ・ 貴船小学校は建築後 37 年～54 年、西小学校は建築後 31 年、富士宮第三中学校は建築後 32 年～58 年が経過しています。
- ・ 富士宮第三中学校の管理教室棟・教室棟（東西）は、平成 29（2017）年度に長寿命化改修を実施しました。
- ・ いずれの施設も、児童及び生徒数が年々減少傾向にあることから、余裕教室を特別活動室や多目的教室に変更するなど、多様な教育環境に対応するための活用が図られています。

■ 課題等

- ・ 貴船小学校及び富士宮第三中学校は、機能（ソフト）は高評価ですが、品質（ハード）が低評価のため、施設の修繕・改修等による品質の改善、多機能化及び建て替えの検討が必要です。
- ・ 西小学校は、品質（ハード）は高評価ですが、機能（ソフト）が低評価のため、維持管理・運営の効率化、多機能化及び集約化の検討が必要です。
- ・ いずれの施設も、災害時の避難場所等に指定されていることから、施設の再編を検討する際には、地域に必要な避難場所等の機能の確保という点について考慮する必要があります。
- ・ いずれの施設も、多機能化に当たっては、児童及び生徒の安全性を確保するための対応策の検討が必要です。また、各施設の相互利用・共同利用が行われるため、それぞれの管理区分を明確にする必要があります。

再編方針

■ 再編の可能性

- ・ 再編手法：多機能化、集約化
- ・ 多機能化が可能な分類：公民館、児童クラブ

■ 再編内容

【短期】

- ・ いずれの施設も、当面は、目標耐用年数に向けて長寿命化計画に基づき適切な維持管理を実施します。

【中長期】

- ・ 貴船小学校は第3次再編計画（2036～2045 年）期間中に、富士宮第三中学校は第4次再編計画（2046～2055 年）期間中にそれぞれ更新時期を迎えます。いずれの施設も、更新時には「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き」を参考に、多機能化及び各施設の相互利用・共同利用を検討します。

ウ 医療・保健・福祉施設

<①なかよし西児童クラブ室>

番号	対象エリア	延べ床面積 (㎡)	運営	施設評価①	施設評価②					再編の可能性					
				課題	防災		土砂	浸水	目標 縮減率	多機 能化	集約 化	民間 移譲	用途 変更	譲渡	除却
					本部	避難									
①	コミュニティエリア	76.18	委託	課題なし	-	-	-	-	31.5%	○	○				

現状と課題

■ 施設評価結果

【施設評価①】課題なし

【施設評価②】—

■ 現状

- ・ 建築後8年が経過しています。
- ・ 運営は、民間委託により行われています。
- ・ 制度改正等により対象年齢がおおむね10歳未満から12歳以下に拡大されたことから、当面、利用児童数の増加が見込まれます。

■ 課題等

- ・ 品質（ハード）及び機能（ソフト）ともに高評価のため、問題ありません。

再編方針

■ 再編の可能性

- ・ 再編手法：多機能化、集約化
- ・ 多機能化が可能な分類：地域活性化施設、小・中学校、保育園

■ 再編内容

【短期】

- ・ 当面は、目標耐用年数に向けて適切な維持管理を実施します。
- ・ 対象年齢の拡大に伴う需要増により対応が困難な場合は、利用時間が重ならない学校の活用等を検討します。

【中長期】

- ・ 中長期的には利用需要の減少が見込まれることから、将来の利用状況等を考慮し、規模及び配置の適正化を精査する中で、施設の更新時には多機能化及び集約化を検討します。

工 消防施設

<①第4分団詰所、②第9分団詰所、③第10分団詰所（安居山）、④第10分団詰所（沼久保）>

番号	対象エリア	延べ床面積 (㎡)	運営	施設評価① 課題	施設評価②					再編の可能性					
					防災		土砂	浸水	目標 縮減 率	多機 能化	集約 化	民間 移譲	用途 変更	譲渡	除却
					本部	避難									
①	コミュニティエリア	68.77	直営	ソフト面	-	-	-	-	0.0%		○				
②	コミュニティエリア	102.80	直営	課題なし	-	-	-	-	0.0%		○				
③	コミュニティエリア	117.00	直営	課題なし	-	-	○	-	0.0%		○				
④	コミュニティエリア	64.20	直営	課題なし	-	-	-	○	0.0%		○				

現状と課題

■ 施設評価結果

【施設評価①】第4分団詰所：ソフト面に課題あり
第9分団詰所、第10分団詰所（安居山）、
第10分団詰所（沼久保）：課題なし

【施設評価②】・第10分団詰所（安居山）は、敷地全体が土砂災害警戒区域に指定されています。
・第10分団詰所（沼久保）は、敷地全体が浸水想定区域に指定されています。

■ 現状

・第4分団詰所は建築後35年、第9分団詰所は建築後14年、第10分団詰所（安居山）は建築後22年、第10分団詰所（沼久保）は建築後26年が経過しています。

■ 課題等

・第4分団詰所は、品質（ハード）は高評価ですが、機能（ソフト）が低評価のため、維持管理・運営の効率化及び集約化の検討が必要です。
・第9分団詰所、第10分団詰所（安居山）、第10分団詰所（沼久保）は、品質（ハード）及び機能（ソフト）ともに高評価のため、問題ありません。
・第10分団詰所（安居山）は、敷地全体が土砂災害警戒区域に指定されています。
・第10分団詰所（沼久保）は、敷地全体が河川の氾濫による浸水想定区域内にあり、浸水の深さは5m～10m未満の区域に指定されています。
・いずれの施設も、団員の活動拠点として管轄区域に配置しており、その組織、管轄区域は規則で定めていることから、集約化を図るには組織再編、規則改正が必要となります。

再編方針

■ 再編の可能性

・再編手法：集約化

■ 再編内容

【短期】

・いずれの施設も、当面は、目標耐用年数に向けて長寿命化計画に基づき適切な維持管理を実施します。

【中長期】

・第4分団詰所は、第4次再編計画（2046～2055年）期間中に更新時期を迎えます。いずれの施設も、人口減少に伴う団員数の減少を考慮した分団組織の再編を進める中で、規模及び配置の適正化を精査した上で、集約化等を検討します。
・第10分団詰所（安居山）は、敷地全体が土砂災害警戒区域に指定されているため、施設の移転も含めて検討します。
・第10分団詰所（沼久保）は、敷地全体が河川の氾濫による5m～10m未満の浸水想定区域に指定されているため、施設の移転も含めて検討します。

才 市営住宅

<①白尾住宅>

番号	対象エリア	延べ床面積 (㎡)	運営	施設評価① 課題	施設評価②				目標 縮減率	再編の可能性					
					防災		土砂	浸水		多機 能化	集約 化	民間 移譲	用途 変更	譲渡	除却
					本部	避難									
①	その他	9,212.07	直営	課題なし	-	-	-	-	30.0%		○				

現状と課題

■ 施設評価結果

【施設評価①】課題なし

【施設評価②】—

■ 現状

- ・ 建築後9年～22年が経過しています。

■ 課題等

- ・ 品質（ハード）及び機能（ソフト）ともに高評価のため、問題ありません。
- ・ 建物の更新に併せて利用需要や社会情勢等を踏まえた適正な施設配置の検討が必要です。

再編方針

■ 再編の可能性

- ・ 再編手法：集約化

■ 再編内容

【短期】

- ・ 当面は、令和2（2020）年度に更新する「市営住宅長寿命化計画」に基づき適切な維持管理を進めていきます。

【中長期】

- ・ 「市営住宅長寿命化計画」及び令和6（2024）年度に更新する「住生活基本計画」に基づき規模及び配置の適正化を進めていきます。

(4) 富丘地域

ア スポーツ施設

<①富士宮市民体育館、②富士宮市民プール>

番号	対象エリア	延べ床面積 (㎡)	運営	施設評価①	施設評価②					再編の可能性					
				課題	防災		土砂	浸水	目標 縮減 率	多機 能化	集約 化	民間 移譲	用途 変更	譲渡	除却
					本部	避難									
①	全市エリア	8,398.44	指定管理	課題なし	-	○	-	-	23.0%		○				
②	全市エリア	3,541.91	指定管理	ソフト面	-	-	-	-	23.0%		○				

現状と課題

■ 施設評価結果

【施設評価①】 富士宮市民体育館：課題なし
富士宮市民プール：ソフト面に課題あり

【施設評価②】 富士宮市民体育館は、災害時の指定緊急避難場所に指定されていることから「継続利用」を基本とします。

■ 現状

- ・富士宮市民体育館は建築後 30 年、富士宮市民プールは建築後 28 年が経過しています。
- ・いずれの施設も、運営は指定管理者により行われています。
- ・富士宮市民プールでは、平成 29（2017）年度に長寿命化改修を実施しました。

■ 課題等

- ・富士宮市民体育館は、品質（ハード）及び機能（ソフト）ともに高評価のため、問題ありません。
- ・富士宮市民プールは、品質（ハード）は高評価ですが、機能（ソフト）が低評価のため、維持管理・運営の効率化、多機能化及び集約化による行政サービスの改善の検討が必要です。
- ・富士宮市民体育館は、災害時の避難場所に指定されていることから、施設の再編を検討する際には、地域に必要な避難場所機能の確保という点について考慮する必要があります。

再編方針

■ 再編の可能性

- ・再編手法：集約化

■ 再編内容

【短期】

- ・富士宮市民体育館では、令和 2（2020）年度～令和 3（2021）年度にかけて長寿命化改修を実施する予定です。
- ・いずれの施設も、当面は、目標耐用年数に向けて長寿命化計画に基づき適切な維持管理を実施します。

【中長期】

- ・いずれの施設も、学校及び民間施設に類似機能があるため、広域的な視点に立って類似施設との役割を明確化し、規模及び配置の適正化を精査する中で、更新時には集約化及び民間施設の活用を検討します。

イ 医療・保健・福祉施設

<①総合福祉会館>

番号	対象エリア	延べ床面積 (㎡)	運営	施設評価①	施設評価②					再編の可能性						
				課題	防災		土砂	浸水	目標 縮減 率	多機 能化	集約 化	民間 移譲	用途 変更	譲渡	除却	
					本部	避難										
①	全市エリア	5,928.12	指定管理	課題なし	-	-	-	-	23.0%	○	○					

現状と課題

■ 施設評価結果

【施設評価①】課題なし

【施設評価②】—

■ 現状

- ・ 建築後 21 年が経過しています。
- ・ 運営は、指定管理者により行われています。

■ 課題等

- ・ 品質（ハード）及び機能（ソフト）ともに高評価のため、問題ありません。

再編方針

■ 再編の可能性

- ・ 再編手法：多機能化、集約化
- ・ 多機能化が可能な分類：保健センター・救急医療センター

■ 再編内容

【短期】

- ・ 当面は、目標耐用年数に向けて長寿命化計画に基づき適切な維持管理を実施します。

【中長期】

- ・ 利用状況等により、余剰スペース等が発生した場合は、貸付による施設の有効活用及び多機能化を検討します。

<②保健センター・救急医療センター>

番号	対象エリア	延べ床面積 (㎡)	運営	施設評価①	施設評価②				再編の可能性							
				課題	防災		土砂	浸水	目標 縮減 率	多機 能化	集約 化	民間 移譲	用途 変更	譲渡	除却	
					本部	避難										
②	全市エリア	3,171.19	直営	ソフト面	-	-	-	-	23.0%	○						

現状と課題

■ 施設評価結果

【施設評価①】ソフト面に課題あり

【施設評価②】－

■ 現状

- ・ 建築後 25 年が経過しています。
- ・ 令和元（2019）年度に長寿命化改修を実施しました。
- ・ 施設は、地域住民の健康維持及び増進等に寄与することを目的としています。

■ 課題等

- ・ 品質（ハード）は高評価ですが、機能（ソフト）が低評価のため、維持管理・運営の効率化及び多機能化による行政サービスの改善の検討が必要です。

再編方針

■ 再編の可能性

- ・ 再編手法：多機能化
- ・ 多機能化が可能な分類：総合福祉会館

■ 再編内容

【短期】

- ・ 当面は、目標耐用年数に向けて長寿命化計画に基づき適切な維持管理を実施します。

【中長期】

- ・ 利用状況等を考慮し、施設の更新時には多機能化を検討します。

ウ 社会教育施設

<①富丘公民館>

番号	対象エリア	延べ床面積 (㎡)	運営	施設評価①	施設評価②					再編の可能性						
				課題	防災		土砂	浸水	目標 縮減 率	多機 能化	集約 化	民間 移譲	用途 変更	譲渡	除却	
					本部	避難										
①	地域エリア	639.93	直営	ハード面	○	-	-	-	19.2%							○

現状と課題

■ 施設評価結果

【施設評価①】ハード面に課題あり

【施設評価②】災害時の地区本部に指定されていることから「継続利用」を基本とします。

■ 現状

- ・ 建築後 40 年が経過しています。
- ・ 耐震性能がやや劣る状況です。
- ・ 施設は、地域住民のため、交流、文化活動及び健康の増進等に寄与することを目的としています。

■ 課題等

- ・ 機能（ソフト）は高評価ですが、品質（ハード）が低評価のため、施設の修繕・改修等による品質の改善、多機能化及び建て替えの検討が必要です。
- ・ 災害時の地区本部に指定されていることから、施設の再編を検討する際には、地域に必要な地区本部機能の確保という点について考慮する必要があります。

再編方針

■ 再編の可能性

- ・ 再編手法：除却

■ 再編内容

【短期】

- ・ 富丘公民館は廃止し、建物は除却します。
- ・ 別敷地に「富丘交流センター」として建て替え予定であり、公民館機能の移転だけでなく、地域の拠点性をより高めた市民交流の拠点となる施設として、令和2（2020）年度に完成予定です。

【中長期】

- ・ —

工 小・中学校

<①富丘小学校、②富士宮第四中学校>

番号	対象エリア	延べ床面積 (㎡)	運営	施設評価① 課題	施設評価②					再編の可能性					
					防災		土砂	浸水	目標 縮減 率	多機 能化	集約 化	民間 移譲	用途 変更	譲渡	除却
					本部	避難									
①	コミュニティエリア	5,492.14	直営	ハード面	-	○	-	-	33.4%	○	○				
②	地域エリア	6,168.64	直営	ハード面	○	○	-	○	34.4%	○	○				

現状と課題

■ 施設評価結果

【施設評価①】いずれの施設も、ハード面に課題あり

【施設評価②】・いずれの施設も、災害時の指定緊急避難場所・指定避難所、地区本部（富士宮第四中学校が該当）に指定されていることから「継続利用」を基本とします。

・富士宮第四中学校は、敷地の一部が浸水想定区域に指定されています。

■ 現状

- ・富丘小学校は建築後 34 年～50 年、富士宮第四中学校は建築後 30 年～55 年が経過しています。
- ・富士宮第四中学校の屋内運動場は平成 29（2017）年度、富丘小学校の教室棟（東）は平成 30（2018）年度、管理教室棟・普通教室棟は令和元（2019）年度に長寿命化改修を実施しました。
- ・いずれの施設も、児童及び生徒数が年々減少傾向にあることから、余裕教室を特別活動室や多目的教室に変更するなど、多様な教育環境に対応するための活用が図られています。

■ 課題等

- ・いずれの施設も、機能（ソフト）は高評価ですが、品質（ハード）が低評価のため、施設の修繕・改修等による品質の改善、多機能化及び建て替えの検討が必要です。
- ・いずれの施設も、災害時の避難場所等に指定されていることから、施設の再編を検討する際には、地域に必要な避難場所等の機能の確保という点について考慮する必要があります。
- ・富士宮第四中学校は、敷地の一部が河川の氾濫による浸水想定区域内にあり、浸水の深さは 0.5m未満の区域に指定されています。
- ・いずれの施設も、多機能化に当たっては、児童及び生徒の安全性を確保するための対応策の検討が必要です。また、各施設の相互利用・共同利用が行われるため、それぞれの管理区分を明確にする必要があります。

再編方針**■ 再編の可能性**

- 再編手法：多機能化、集約化
- 多機能化が可能な分類：公民館、児童クラブ

■ 再編内容**【短期】**

- 富丘小学校では、令和2（2020）年度に機械設備の長寿命化改修を実施する予定です。
- いずれの施設も、当面は、目標耐用年数に向けて長寿命化計画に基づき適切な維持管理を実施します。

【中長期】

- 富士宮第四中学校は第2次再編計画（2026～2035年）期間中に、富丘小学校は第3次再編計画（2036～2045年）期間中にそれぞれ更新時期を迎えます。いずれの施設も、更新時には「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き」を参考に、多機能化及び各施設の相互利用・共同利用を検討します。
- 富士宮第四中学校は、敷地の一部が河川の氾濫による0.5m未満の浸水想定区域に指定されているため、施設の移転も含めて検討します。

才 消防施設

<①西消防署>

番号	対象エリア	延べ床面積 (㎡)	運営	施設評価①	施設評価②					再編の可能性						
				課題	防災		土砂	浸水	目標 縮減 率	多機 能化	集約 化	民間 移譲	用途 変更	譲渡	除却	
					本部	避難										
①	地域エリア	724.22	直営	ソフト面	-	-	-	-	0.0%							

現状と課題

■ 施設評価結果

【施設評価①】ソフト面に課題あり

【施設評価②】－

■ 現状

- ・ 建築後 25 年が経過しています。
- ・ 平成 29（2017）年度に長寿命化改修を実施しました。

■ 課題等

- ・ 品質（ハード）は高評価ですが、機能（ソフト）が低評価のため、維持管理・運営の効率化の検討が必要です。

再編方針

■ 再編の可能性

- ・ 再編手法：－

■ 再編内容

【短期】

- ・ 市民の安全・安心な暮らしを守る消防活動等の拠点施設であることから、目標耐用年数に向けて長寿命化計画に基づき適切な維持管理を実施します。

【中長期】

- ・ 「富士宮市消防総合基本計画」に基づき消防体制の基盤の充実を図りつつ、適切な維持管理を実施する中で、市民の居住環境、生活環境の変化に適応した消防庁舎の配置についても検討します。

＜②第6分団詰所（青木）、③第6分団詰所（外神）、④第6分団詰所（淀師）、⑤第7分団詰所＞

番号	対象エリア	延べ床面積 (㎡)	運営	施設評価①	施設評価②					再編の可能性						
				課題	防災		土砂	浸水	目標 縮減 率	多機 能化	集約 化	民間 移譲	用途 変更	譲渡	除却	
					本部	避難										
②	コミュニティエリア	102.80	直営	課題なし	-	-	-	○	0.0%		○					
③	コミュニティエリア	76.80	直営	課題なし	-	-	-	-	0.0%		○					
④	コミュニティエリア	102.80	直営	課題なし	-	-	-	-	0.0%		○					
⑤	コミュニティエリア	76.80	直営	ソフト面	-	-	-	-	0.0%		○					

現状と課題

■ 施設評価結果

【施設評価①】第6分団詰所（青木）、第6分団詰所（外神）、第6分団詰所（淀師）：課題なし
第7分団詰所：ソフト面に課題あり

【施設評価②】第6分団詰所（青木）は、敷地の一部が浸水想定区域に指定されています。

■ 現状

- 第6分団詰所（青木）は建築後21年、第6分団詰所（外神）は建築後25年、第6分団詰所（淀師）は建築後11年、第7分団詰所は建築後25年が経過しています。

■ 課題等

- 第6分団詰所（青木）、第6分団詰所（外神）及び第6分団詰所（淀師）は、品質（ハード）及び機能（ソフト）ともに高評価のため、問題ありません。
- 第7分団詰所は、品質（ハード）は高評価ですが、機能（ソフト）が低評価のため、維持管理・運営の効率化及び集約化の検討が必要です。
- 第6分団詰所（青木）は、敷地の一部が河川の氾濫による浸水想定区域内にあり、浸水の深さは0.5m未満の区域に指定されています。
- いずれの施設も、団員の活動拠点として管轄区域に配置しており、その組織、管轄区域は規則で定めていることから、集約化を図るには組織再編及び規則改正が必要となります。

再編方針

■ 再編の可能性

- 再編手法：集約化

■ 再編内容

【短期】

- いずれの施設も、当面は、目標耐用年数に向けて長寿命化計画に基づき適切な維持管理を実施します。

【中長期】

- いずれの施設も、人口減少に伴う団員数の減少を考慮した分団組織の再編を進める中で、規模及び配置の適正化を精査した上で、集約化等を検討します。
- 第6分団詰所（青木）は、敷地の一部が河川の氾濫による0.5m未満の浸水想定区域に指定されているため、施設の移転も含めて検討します。

カ 保育園

<①西保育園>

番号	対象エリア	延べ床面積 (㎡)	運営	施設評価① 課題	施設評価②					再編の可能性						
					防災		土砂	浸水	目標 縮減 率	多機 能化	集約 化	民間 移譲	用途 変更	譲渡	除却	
					本部	避難										
①	コミュニティエリア	893.33	直営	ハード面	-	○	-	○	15.4%	○	○					

現状と課題

■ 施設評価結果

【施設評価①】ハード面に課題あり

【施設評価②】・災害時の指定緊急避難場所に指定されていることから「継続利用」を基本とします。
・敷地の一部が浸水想定区域に指定されています。

■ 現状

・建築後 47 年が経過しています。

■ 課題等

- ・機能（ソフト）は高評価ですが、品質（ハード）が低評価のため、施設の修繕・改修等による品質の改善、多機能化及び建て替えの検討が必要です。
- ・施設は、災害時の避難場所に指定されていますが、敷地の一部が河川の氾濫による浸水想定区域内にあり、浸水想定深さは 0.5m未満の区域に指定されています。
- ・施設の再編を検討する際には、地域に必要な避難場所機能の確保という点について考慮する必要があります。
- ・建物の更新に併せて利用需要や社会情勢等を踏まえた適正な施設配置の検討が必要です。

再編方針

■ 再編の可能性

- ・再編手法：多機能化、集約化
- ・多機能化が可能な分類：児童クラブ

■ 再編内容

【短期】

- ・当面は、目標耐用年数に向けて長寿命化計画に基づき適切な維持管理を実施します。

【中長期】

- ・第3次再編計画（2036～2045年）期間中に更新時期を迎えます。子ども・子育て支援制度の動向、民間保育施設等の整備状況及び地域の特性を勘案する中で、園児数に対する施設の規模及び配置の適正化を精査し、施設の更新時には多機能化及び集約化を検討します。
- ・敷地の一部が河川の氾濫による 0.5m未満の浸水想定区域に指定されているため、施設の移転も含めて検討します。

(5) 富士根南地域

ア 社会教育施設

<①富士根南公民館>

番号	対象エリア	延べ床面積 (㎡)	運営	施設評価①	施設評価②					再編の可能性						
				課題	防災		土砂	浸水	目標 縮減 率	多機 能化	集約 化	民間 移譲	用途 変更	譲渡	除却	
					本部	避難										
①	地域エリア	653.44	直営	課題なし	○	-	-	-	18.2%	○						

現状と課題

■ 施設評価結果

【施設評価①】 課題なし

【施設評価②】 災害時の地区本部に指定されていることから「継続利用」を基本とします。

■ 現状

- ・ 建築後 30 年が経過しています。
- ・ 平成 30（2018）年度に長寿命化改修を実施しました。
- ・ 施設は、地域住民のため、交流、文化活動及び健康の増進等に寄与することを目的としています。

■ 課題等

- ・ 品質（ハード）及び機能（ソフト）ともに高評価のため、問題ありません。
- ・ 交流センターの整備と併せて施設の在り方について検討する必要があります。
- ・ 災害時の地区本部に指定されていることから、施設の再編を検討する際には、地域に必要な地区本部機能の確保という点について考慮する必要があります。

再編方針

■ 再編の可能性

- ・ 再編手法：多機能化
- ・ 多機能化が可能な分類：地域活性化施設、図書館、小・中学校

■ 再編内容

【短期】

- ・ 整備が予定されている「（仮称）富士根南交流センター」の建設計画が具体化する中で、多機能化等の施設の再編も含め、施設の在り方について検討します。

【中長期】

- ・ 地域の拠点施設として在り方を考慮した上で、施設の更新時には多機能化を検討します。

イ 小・中学校

<①富士根南小学校、②富士根南中学校>

番号	対象エリア	延べ床面積 (㎡)	運営	施設評価① 課題	施設評価②					再編の可能性					
					防災		土砂	浸水	目標 縮減 率	多機 能化	集約 化	民間 移譲	用途 変更	譲渡	除却
					本部	避難									
①	コミュニティエリア	8,122.78	直営	ハード面	-	○	-	-	37.2%	○	○				
②	地域エリア	8,130.08	直営	課題なし	-	○	-	-	37.2%	○	○				

現状と課題

■ 施設評価結果

【施設評価①】 富士根南小学校：ハード面に課題あり

富士根南中学校：課題なし

【施設評価②】 いずれの施設も、災害時の指定緊急避難場所・指定避難所に指定されていることから「継続利用」を基本とします。

■ 現状

- ・富士根南小学校は建築後 19 年～54 年、富士根南中学校は建築後 15 年～39 年が経過しています。
- ・富士根南小学校の特別教室棟（西）・教室棟（南）は平成 29（2017）年度、富士根南中学校の管理教室棟は平成 30（2018）年度、教室棟（南）は令和元（2019）年度に長寿命化改修を実施しました。
- ・いずれの施設も、児童及び生徒数が年々減少傾向にあることから、余裕教室を特別活動室や多目的教室に変更するなど、多様な教育環境に対応するための活用が図られています。

■ 課題等

- ・富士根南小学校は、機能（ソフト）は高評価ですが、品質（ハード）が低評価のため、施設の修繕・改修等による品質の改善、多機能化及び建て替えの検討が必要です。
- ・富士根南中学校は、品質（ハード）及び機能（ソフト）ともに高評価のため、問題ありません。
- ・いずれの施設も、災害時の避難場所等に指定されていることから、施設の再編を検討する際には、地域に必要な避難場所等の機能の確保という点について考慮する必要があります。
- ・いずれの施設も、多機能化に当たっては、児童及び生徒の安全性を確保するための対応策の検討が必要です。また、各施設の相互利用・共同利用が行われるため、それぞれの管理区分を明確にする必要があります。

再編方針

■ 再編の可能性

- ・再編手法：多機能化、集約化
- ・多機能化が可能な分類：公民館、児童クラブ

■ 再編内容

【短期】

- ・いずれの施設も、当面は、目標耐用年数に向けて長寿命化計画に基づき適切な維持管理を実施します。

【中長期】

- ・富士根南小学校は第 2 次再編計画（2026～2035 年）期間中に、富士根南中学校は第 4 次再編計画（2046～2055 年）期間中にそれぞれ更新時期を迎えます。いずれの施設も、更新時には「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き」を参考に、多機能化及び各施設の相互利用・共同利用を検討します。

ウ 保育園

＜①富士根保育園、②大岩明倫保育園＞

番号	対象エリア	延べ床面積 (㎡)	運営	施設評価① 課題	施設評価②					再編の可能性					
					防災		土砂	浸水	目標 縮減 率	多機 能化	集約 化	民間 移譲	用途 変更	譲渡	除却
					本部	避難									
①	コミュニティエリア	1,231.15	直営	課題なし	-	-	-	-	15.4%	○	○				
②	コミュニティエリア	953.00	直営	課題なし	-	-	-	-	15.4%	○	○				

現状と課題

■ 施設評価結果

【施設評価①】いずれの施設も、課題なし

【施設評価②】－

■ 現状

- ・富士根保育園は建築後6年、大岩明倫保育園は建築後43年が経過しています。
- ・大岩明倫保育園では、令和元（2019）年度に長寿命化改修を実施しました。

■ 課題等

- ・いずれの施設も、品質（ハード）及び機能（ソフト）ともに高評価のため、問題ありません。
- ・いずれの施設も、建物の更新に併せて利用需要や社会情勢等を踏まえた適正な施設配置の検討が必要です。

再編方針

■ 再編の可能性

- ・再編手法：多機能化、集約化
- ・多機能化が可能な分類：児童クラブ

■ 再編内容

【短期】

- ・いずれの施設も、当面は、目標耐用年数に向けて長寿命化計画に基づき適切な維持管理を実施します。

【中長期】

- ・大岩明倫保育園は、第4次再編計画（2046～2055年）期間中に更新時期を迎えます。いずれの施設も、子ども・子育て支援制度の動向、民間保育施設等の整備状況及び地域の特性を勘案する中で、園児数に対する施設の規模及び配置の適正化を精査し、施設の更新時には多機能化及び集約化を検討します。

工 消防施設

<①第 12 分団詰所（小泉）、②第 13 分団詰所、③第 14 分団詰所（小泉）、
④第 14 分団詰所（大岩）>

番号	対象エリア	延べ床面積 (㎡)	運営	施設評価①	施設評価②					再編の可能性					
				課題	防災		土砂	浸水	目標 縮減 率	多機 能化	集約 化	民間 移譲	用途 変更	譲渡	除却
					本部	避難									
①	コミュニティエリア	117.00	直営	課題なし	-	-	-	-	0.0%		○				
②	コミュニティエリア	102.80	直営	課題なし	-	-	-	-	0.0%		○				
③	コミュニティエリア	76.70	直営	課題なし	-	-	-	-	0.0%		○				
④	コミュニティエリア	101.94	直営	課題なし	-	-	-	-	0.0%		○				

現状と課題

■ 施設評価結果

【施設評価①】いずれの施設も、課題なし

【施設評価②】－

■ 現状

- ・第 12 分団詰所（小泉）は建築後 19 年、第 13 分団詰所は建築後 13 年、第 14 分団詰所（大岩）は建築後 7 年、第 14 分団詰所（小泉）は建築後 31 年が経過しています。

■ 課題等

- ・いずれの施設も、品質（ハード）及び機能（ソフト）ともに高評価のため、問題ありません。
- ・いずれの施設も、団員の活動拠点として管轄区域に配置しており、その組織、管轄区域は規則で定めていることから、集約化を図るには組織再編、規則改正が必要となります。

再編方針

■ 再編の可能性

- ・再編手法：集約化

■ 再編内容

【短期】

- ・いずれの施設も、当面は、目標耐用年数に向けて長寿命化計画に基づき適切な維持管理を実施します。

【中長期】

- ・いずれの施設も、人口減少に伴う団員数の減少を考慮した分団組織の再編を進める中で、規模及び配置の適正化を精査した上で、集約化等を検討します。

才 市営住宅

<①小泉住宅、②上小泉住宅、③大岩住宅>

番号	対象エリア	延べ床面積 (㎡)	運営	施設評価① 課題	施設評価②					再編の可能性						
					防災		土砂	浸水	目標 縮減 率	多機 能化	集約 化	民間 移譲	用途 変更	譲渡	除却	
					本部	避難										
①	その他	863.59	直営	課題なし	-	-	-	-	30.0%		○					
②	その他	626.61	直営	課題なし	-	-	-	-	30.0%		○					
③	その他	980.60	直営	ハード・ソフト面	-	-	○	-	30.0%		○					

現状と課題

■ 施設評価結果

【施設評価①】小泉住宅、上小泉住宅：課題なし
大岩住宅：ハード・ソフト面に課題あり

【施設評価②】大岩住宅は、敷地の一部が土砂災害警戒区域に指定されています。

■ 現状

- 小泉住宅は建築後 27 年、上小泉住宅は建築後 26 年、大岩住宅は建築後 54 年が経過しています。
- 小泉住宅及び上小泉住宅では平成 30（2018）年度に長寿命化改修を実施しました。

■ 課題等

- 小泉住宅及び上小泉住宅は、品質（ハード）及び機能（ソフト）ともに高評価のため、問題ありません。
- 大岩住宅は、品質（ハード）及び機能（ソフト）ともに低評価のため、施設の廃止、建物の解体及び跡地の売却の検討が必要です。
- 大岩住宅は、敷地の一部が土砂災害警戒区域に指定されています。
- いずれの施設も、建物の更新に併せて利用需要や社会情勢等を踏まえた適正な施設配置の検討が必要です。

再編方針

■ 再編の可能性

- 再編手法：集約化

■ 再編内容

【短期】

- いずれの施設も、当面は、令和 2（2020）年度に更新する「市営住宅長寿命化計画」に基づき適切な維持管理を進めていきます。

【中長期】

- 大岩住宅は、第 2 次再編計画（2026～2035 年）期間中に更新時期を迎えます。いずれの施設も、「市営住宅長寿命化計画」及び令和 6（2024）年度に更新する「住生活基本計画」に基づき規模及び配置の適正化を進めていきます。
- 大岩住宅は、敷地の一部が土砂災害警戒区域に指定されているため、施設の移転も含めて検討します。

(6) 富士根北地域

ア その他

<①富士山環境交流プラザ>

番号	対象エリア	延べ床面積 (㎡)	運営	施設評価①	施設評価②					再編の可能性						
				課題	防災		土砂	浸水	目標 縮減 率	多機 能化	集約 化	民間 移譲	用途 変更	譲渡	除却	
					本部	避難										
①	全市エリア	441.41	直営	ソフト面	-	-	-	-	23.0%							

現状と課題

■ 施設評価結果

【施設評価①】ソフト面に課題あり

【施設評価②】—

■ 現状

- ・ 建築後 10 年が経過しています。

■ 課題等

- ・ 品質（ハード）は高評価ですが、機能（ソフト）が低評価のため、維持管理・運営の効率化による行政サービスの改善の検討が必要です。

再編方針

■ 再編の可能性

- ・ 再編手法：—

■ 再編内容

【短期】

- ・ 当面は、目標耐用年数に向けて長寿命化計画に基づき適切な維持管理を実施します。

【中長期】

- ・ 子ども・子育て世代向けの施設整備を充実させるとともに、指定管理者による運営の可能性について検討します。

イ 社会教育施設

<①富士根北公民館>

番号	対象エリア	延べ床面積 (㎡)	運営	施設評価①	施設評価②				再編の可能性							
				課題	防災		土砂	浸水	目標 縮減 率	多機 能化	集約 化	民間 移譲	用途 変更	譲渡	除却	
					本部	避難										
①	地域エリア	604.28	直営	課題なし	○	-	-	-	25.8%	○						

現状と課題

■ 施設評価結果

【施設評価①】課題なし

【施設評価②】災害時の地区本部に指定されていることから「継続利用」を基本とします。

■ 現状

- 建築後 35 年が経過しています。
- 施設は、地域住民のため、交流、文化活動、健康の増進等に寄与することを目的としています。

■ 課題等

- 品質（ハード）及び機能（ソフト）ともに高評価のため、問題ありません。
- 災害時の地区本部に指定されていることから、施設の再編を検討する際には、地域に必要な地区本部機能の確保という点について考慮する必要があります。

再編方針

■ 再編の可能性

- 再編手法：多機能化
- 多機能化が可能な分類：地域活性化施設、図書館、小・中学校

■ 再編内容

【短期】

- 当面は、目標耐用年数に向けて長寿命化計画に基づき適切な維持管理を実施します。

【中長期】

- 第4次再編計画（2046～2055年）期間中に更新時期を迎えます。地域の拠点性を高めるため、多世代が一か所に集える市民交流の拠点となる施設として多機能化を検討します。

ウ 小・中学校

<①富士根北小学校、②富士根北小学校栗倉分校、③富士根北中学校>

番号	対象エリア	延べ床面積 (㎡)	運営	施設評価①	施設評価②				再編の可能性							
				課題	防災		土砂	浸水	目標 縮減 率	多機 能化	集約 化	民間 移譲	用途 変更	譲渡	除却	
					本部	避難										
①	コミュニティエリア	3,476.03	直営	課題なし	-	○	-	-	22.0%	○	○					
②	コミュニティエリア	744.00	直営	ソフト面	-	○	-	-	22.0%	○	○					
③	地域エリア	3,583.25	直営	ハード・ソフト面	-	○	-	-	30.6%	○	○					

現状と課題

■ 施設評価結果

【施設評価①】 富士根北小学校：課題なし

富士根北小学校栗倉分校：ソフト面に課題あり

富士根北中学校：ハード・ソフト面に課題あり

【施設評価②】 いずれの施設も、災害時の指定緊急避難場所・指定避難所に指定されていることから「継続利用」を基本とします。

■ 現状

- ・富士根北小学校は建築後 34 年～54 年、富士根北小学校栗倉分校は建築後 33 年、富士根北中学校は建築後 22 年～38 年が経過しています。
- ・富士根北小学校の屋内運動場は平成 29（2017）年度、富士根北中学校の管理教室棟及び特別教室棟は平成 30（2018）年度に長寿命化改修を実施しました。
- ・富士根北中学校の屋内運動場は、平成 29（2017）年度に耐震改修及び長寿命化改修を実施しました。
- ・いずれの施設も、児童及び生徒数が年々減少傾向にあることから、余裕教室を特別活動室や多目的教室に変更するなど、多様な教育環境に対応するための活用が図られています。

■ 課題等

- ・富士根北小学校は、品質（ハード）及び機能（ソフト）ともに高評価のため、問題ありません。
- ・富士根北小学校栗倉分校は、品質（ハード）は高評価ですが、機能（ソフト）が低評価のため、維持管理・運営の効率化、多機能化及び集約化の検討が必要です。
- ・富士根北中学校は、品質（ハード）及び機能（ソフト）ともに低評価のため、今後の在り方を優先的に検討する必要があります。
- ・いずれの施設も、災害時の避難場所等に指定されていることから、施設の再編を検討する際には、地域に必要な避難場所等の機能の確保という点について考慮する必要があります。
- ・いずれの施設も、多機能化に当たっては、児童及び生徒の安全性を確保するための対応策の検討が必要です。また、各施設の相互利用・共同利用が行われるため、それぞれの管理区分を明確にする必要があります。

再編方針**■ 再編の可能性**

- 再編手法：多機能化、集約化
- 多機能化が可能な分類：公民館、児童クラブ

■ 再編内容**【短期】**

- いずれの施設も、当面は、目標耐用年数に向けて長寿命化計画に基づき適切な維持管理を実施します。

【中長期】

- 富士根北小学校及び富士根北中学校は、第4次再編計画（2046～2055年）期間中にそれぞれ更新時期を迎えます。いずれの施設も、更新時には「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き」を参考に、多機能化及び各施設の相互利用・共同利用を検討します。

工 保育園

<①栗倉保育園>

番号	対象エリア	延べ床面積 (㎡)	運営	施設評価①	施設評価②				再編の可能性						
				課題	防災		土砂	浸水	目標 縮減 率	多機 能化	集約 化	民間 移譲	用途 変更	譲渡	除却
					本部	避難									
①	コミュニティエリア	604.62	直営	課題なし	-	-	-	-	15.4%	○	○				

現状と課題

■ 施設評価結果

【施設評価①】課題なし

【施設評価②】—

■ 現状

- ・ 建築後 42 年が経過しています。

■ 課題等

- ・ 品質（ハード）及び機能（ソフト）ともに高評価のため、問題ありません。
- ・ 建物の更新に併せて利用需要や社会情勢等を踏まえた適正な施設配置の検討が必要です。

再編方針

■ 再編の可能性

- ・ 再編手法：多機能化、集約化
- ・ 多機能化が可能な分類：児童クラブ

■ 再編内容

【短期】

- ・ 当面は、目標耐用年数に向けて長寿命化計画に基づき適切な維持管理を実施します。

【中長期】

- ・ 第4次再編計画（2046～2055年）期間中に更新時期を迎えます。子ども・子育て支援制度の動向、民間保育施設等の整備状況及び地域の特性を勘案する中で、園児数に対する施設の規模及び配置の適正化を精査し、施設の更新時には多機能化及び集約化を検討します。

才 消防施設

<①中央消防署東分署>

番号	対象エリア	延べ床面積 (㎡)	運営	施設評価①		施設評価②				再編の可能性						
				課題	防災		土砂	浸水	目標 縮減 率	多機 能化	集約 化	民間 移譲	用途 変更	譲渡	除却	
					本部	避難										
①	地域エリア	293.37	直営	ソフト面	-	-	-	-	0.0%							

現状と課題

■ 施設評価結果

【施設評価①】ソフト面に課題あり

【施設評価②】—

■ 現状

- ・ 建築後 23 年が経過しています。

■ 課題等

- ・ 品質（ハード）は高評価ですが、機能（ソフト）が低評価のため、維持管理・運営の効率化の検討が必要です。

再編方針

■ 再編の可能性

- ・ 再編手法：—

■ 再編内容

【短期】

- ・ 当面は、目標耐用年数に向けて長寿命化計画に基づき適切な維持管理を実施します。

【中長期】

- ・ 「富士宮市消防総合基本計画」に基づき消防体制の基盤の充実を図りつつ、適切な維持管理を実施します。

<②第 15 分団詰所（二又）、③第 15 分団詰所（村山）、④第 15 分団詰所（神成）>

番号	対象エリア	延べ床面積 (㎡)	運営	施設評価①	施設評価②					再編の可能性						
				課題	防災		土砂	浸水	目標 縮減 率	多機 能化	集約 化	民間 移譲	用途 変更	譲渡	除却	
					本部	避難										
②	コミュニティエリア	102.80	直営	課題なし	-	-	-	-	0.0%		○					
③	コミュニティエリア	60.27	直営	ハード・ソフト面	-	-	-	-	0.0%		○					
④	コミュニティエリア	101.94	直営	課題なし	-	-	-	-	0.0%		○					

現状と課題

■ 施設評価結果

【施設評価①】 第 15 分団詰所（二又）、第 15 分団詰所（神成）：課題なし
第 15 分団詰所（村山）：ハード・ソフト面に課題あり

【施設評価②】 —

■ 現状

- 第 15 分団詰所（二又）は建築後 9 年、第 15 分団詰所（村山）は建築後 38 年、第 15 分団詰所（神成）は建築後 3 年が経過しています。

■ 課題等

- 第 15 分団詰所（二又）及び第 15 分団詰所（神成）は、品質（ハード）及び機能（ソフト）ともに高評価のため、問題ありません。
- 第 15 分団詰所（村山）は、品質（ハード）及び機能（ソフト）ともに低評価のため、今後の在り方を優先的に検討する必要があります。
- いずれの施設も、団員の活動拠点として管轄区域に配置しており、その組織、管轄区域は規則で定めていることから、集約化を図るには組織再編、規則改正が必要となります。

再編方針

■ 再編の可能性

- 再編手法：集約化

■ 再編内容

【短期】

- いずれの施設も、当面は、目標耐用年数に向けて長寿命化計画に基づき適切な維持管理を実施します。

【中長期】

- 第 15 分団詰所（村山）は第 4 次再編計画（2046～2055 年）期間中に更新時期を迎えます。いずれの施設も、人口減少に伴う団員数の減少を考慮した分団組織の再編を進める中で、規模及び配置の適正化を精査した上で、集約化等を検討します。

カ 市営住宅

<①栗倉住宅>

番号	対象エリア	延べ床面積 (㎡)	運営	施設評価① 課題	施設評価②					再編の可能性					
					防災		土砂	浸水	目標 縮減 率	多機 能化	集約 化	民間 移譲	用途 変更	譲渡	除却
					本部	避難									
①	その他	13,241.18	直営	ソフト面	-	-	-	-	30.0%		○				

現状と課題

■ 施設評価結果

【施設評価①】ソフト面に課題あり

【施設評価②】—

■ 現状

- ・ 建築後 38 年～46 年が経過しています。
- ・ 平成 29（2017）年度～平成 30（2018）年度に長寿命化改修を実施しました。

■ 課題等

- ・ 品質（ハード）は高評価ですが、機能（ソフト）が低評価のため、維持管理・運営の効率化及び多機能化による行政サービスの改善の検討が必要です。
- ・ 建物の更新に併せて利用需要や社会情勢等を踏まえた適正な施設配置の検討が必要です。

再編方針

■ 再編の可能性

- ・ 再編手法：集約化

■ 再編内容

【短期】

- ・ 令和 2（2020）年度に長寿命化改修を実施する予定です。
- ・ 当面は、令和 2（2020）年度に更新する「市営住宅長寿命化計画」に基づき適切な維持管理を進めていきます。

【中長期】

- ・ 第 3 次再編計画（2036～2045 年）期間中に更新時期を迎えます。「市営住宅長寿命化計画」及び令和 6（2024）年度に更新する「住生活基本計画」に基づき規模及び配置の適正化を進めていきます。

(7) 北山地域

ア 観光・産業施設

<①富士山天母の湯>

番号	対象エリア	延べ床面積 (㎡)	運営	施設評価①	施設評価②					再編の可能性					
				課題	防災		土砂	浸水	目標 縮減 率	多機 能化	集約 化	民間 移譲	用途 変更	譲渡	除却
					本部	避難									
①	広域エリア	995.89	指定管理	ソフト面	-	-	-	-	30.0%			○			

現状と課題

■ 施設評価結果

【施設評価①】ソフト面に課題あり

【施設評価②】—

■ 現状

- ・ 建築後 21 年が経過しています。
- ・ 平成 29 (2017) 年度に長寿命化改修を実施しました。
- ・ 運営は、指定管理者により行われています。

■ 課題等

- ・ 品質 (ハード) は高評価ですが、機能 (ソフト) が低評価のため、維持管理・運営の効率化及び多機能化による行政サービスの改善の検討が必要です。

再編方針

■ 再編の可能性

- ・ 再編手法：民間移譲

■ 再編内容

【短期】

- ・ 当面は、目標耐用年数に向けて長寿命化計画に基づき適切な維持管理を実施します。

【中長期】

- ・ 施設の劣化状況、利用状況及び地域の実情を考慮する中で、民間への移譲も含め検討します。

イ 小・中学校

<①山宮小学校、②北山小学校、③北山中学校>

番号	対象エリア	延べ床面積 (㎡)	運営	施設評価① 課題	施設評価②					再編の可能性						
					防災		土砂	浸水	目標 縮減 率	多機 能化	集約 化	民間 移譲	用途 変更	譲渡	除却	
					本部	避難										
①	コミュニティエリア	3,433.55	直営	ソフト面	-	○	-	-	25.8%	○	○					
②	コミュニティエリア	3,569.35	直営	ソフト面	-	○	-	-	25.8%	○	○					
③	地域エリア	4,055.28	直営	ハード・ソフト面	-	○	-	-	30.6%	○	○					

現状と課題

■ 施設評価結果

【施設評価①】 山宮小学校、北山小学校：ソフト面に課題あり
北山中学校：ハード・ソフト面に課題あり

【施設評価②】 いずれの施設も、災害時の指定緊急避難場所・指定避難所に指定されていることから「継続利用」を基本とします。

■ 現状

- 山宮小学校は建築後 37 年～44 年、北山小学校は建築後 32 年～35 年、北山中学校は建築後 27 年～55 年が経過しています。
- 山宮小学校の普通教室・特別教室棟は平成 29（2017）年度、管理教室棟及び教室棟は平成 30（2018）年度に長寿命化改修を実施しました。
- 北山小学校の管理教室棟は、令和元（2019）年度に長寿命化改修を実施しました。
- 北山中学校の教室棟・管理教室棟は、令和元（2019）年度に耐震改修及び長寿命化改修を実施しました。
- いずれの施設も、児童及び生徒数が年々減少傾向にあることから、余裕教室を特別活動室や多目的教室に変更するなど、多様な教育環境に対応するための活用が図られています。

■ 課題等

- 山宮小学校及び北山小学校は、品質（ハード）は高評価ですが、機能（ソフト）が低評価のため、維持管理・運営の効率化、多機能化及び集約化の検討が必要です。
- 北山中学校は、品質（ハード）及び機能（ソフト）ともに低評価のため、今後の在り方を優先的に検討する必要があります。
- いずれの施設も、災害時の避難場所等に指定されていることから、施設の再編を検討する際には、地域に必要な避難場所等の機能の確保という点について考慮する必要があります。
- いずれの施設も、多機能化に当たっては、児童及び生徒の安全性を確保するための対応策の検討が必要です。また、各施設の相互利用・共同利用が行われるため、それぞれの管理区分を明確にする必要があります。

再編方針

■ 再編の可能性

- 再編手法：多機能化、集約化
- 多機能化が可能な分類：公民館、児童クラブ、出張所

■ 再編内容

【短期】

- いずれの施設も、当面は、目標耐用年数に向けて長寿命化計画に基づき適切な維持管理を実施します。
- 北山中学校の教室棟（西）では、令和2（2020）年度に長寿命化改修を実施する予定です。

【中長期】

- 山宮小学校は第3次再編計画（2036～2045年）期間中に、北山小学校及び北山中学校は第4次再編計画（2046～2055年）期間中にそれぞれ更新時期を迎えます。いずれの施設も、更新時には「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き」を参考に、多機能化及び各施設の相互利用・共同利用を検討します。

ウ 庁舎施設

<①北山出張所>

番号	対象エリア	延べ床面積 (㎡)	運営	施設評価① 課題	施設評価②					再編の可能性						
					防災		土砂	浸水	目標 縮減 率	多機 能化	集約 化	民間 移譲	用途 変更	譲渡	除却	
					本部	避難										
①	地域エリア	659.18	直営	ハード面	○	○	-	-	24.9%	○						

現状と課題

■ 施設評価結果

【施設評価①】ハード面に課題あり

【施設評価②】災害時の指定緊急避難場所、地区本部に指定されていることから「継続利用」を基本とします。

■ 現状

- ・ 建築後 39 年が経過しています。
- ・ 耐震性能がやや劣る状況です。

■ 課題等

- ・ 機能（ソフト）は高評価ですが、品質（ハード）が低評価のため、施設の修繕・改修等による品質の改善、多機能化及び建て替えの検討が必要です。
- ・ 災害時の避難場所等に指定されていることから、施設の再編を検討する際には、地域に必要な避難場所等の機能の確保という点について考慮する必要があります。

再編方針

■ 再編の可能性

- ・ 再編手法：多機能化
- ・ 多機能化が可能な分類：公民館、小・中学校

■ 再編内容

【短期】

- ・ 令和 2（2020）年度に耐震補強及び長寿命化改修を実施する予定です。
- ・ 当面は、目標耐用年数に向けて長寿命化計画に基づき適切な維持管理を実施します。
- ・ 余剰スペースが発生した場合は、貸付け等施設の有効活用を検討します。

【中長期】

- ・ 第 4 次再編計画（2046～2055 年）期間中に更新時期を迎えます。地域の拠点施設であることを考慮する中で、施設の更新時には多機能化を検討します。

工 医療・保健・福祉施設

<①山宮児童クラブ、②北山児童クラブ>

番号	対象エリア	延べ床面積 (㎡)	運営	施設評価①	施設評価②					再編の可能性						
				課題	防災		土砂	浸水	目標 縮減 率	多機 能化	集約 化	民間 移譲	用途 変更	譲渡	除却	
					本部	避難										
①	コミュニティエリア	39.00	委託	ハード・ソフト面	-	-	-	-	25.8%	○	○					
②	コミュニティエリア	96.88	委託	課題なし	-	-	-	-	25.8%	○	○					

現状と課題

■ 施設評価結果

【施設評価①】 山宮児童クラブ：ハード・ソフト面に課題あり
北山児童クラブ：課題なし

【施設評価②】 —

■ 現状

- 山宮児童クラブは建築後41年、北山児童クラブは建築後7年が経過しています。
- いずれの施設も、制度改正等により対象年齢がおおむね10歳未満から12歳以下に拡大されたことから、当面、利用児童数の増加が見込まれます。
- いずれの施設も、運営は、民間委託により行われています。

■ 課題等

- 山宮児童クラブは、品質（ハード）及び機能（ソフト）ともに低評価のため、建物の解体及び跡地の売却の検討が必要です。
- 北山児童クラブは、品質（ハード）及び機能（ソフト）ともに高評価のため、問題ありません。

再編方針

■ 再編の可能性

- 再編手法：多機能化、集約化
- 多機能化が可能な分類：地域活性化施設、小・中学校、保育園

■ 再編内容

【短期】

- 山宮児童クラブは、当面は、建物の改修等により施設を維持します。
- 北山児童クラブは、当面は、目標耐用年数に向けて適切な維持管理を実施します。
- いずれの施設も、対象年齢の拡大に伴う需要増により対応が困難な場合は、利用時間が重ならない学校の活用等を検討します。

【中長期】

- 山宮児童クラブは、第4次再編計画（2046～2055年）期間中に更新時期を迎えます。いずれの施設も、中長期的には利用需要の減少が見込まれることから、将来の利用状況等を考慮し、規模及び配置の適正化を精査する中で、施設の更新時には多機能化及び集約化を検討します。

才 保育園

<①山宮保育園、②北山保育園>

番号	対象エリア	延べ床面積 (㎡)	運営	施設評価① 課題	施設評価②					再編の可能性					
					防災		土砂	浸水	目標 縮減 率	多機 能化	集約 化	民間 移譲	用途 変更	譲渡	除却
					本部	避難									
①	コミュニティエリア	589.15	直営	課題なし	-	-	-	-	15.4%	○	○				
②	コミュニティエリア	868.05	直営	課題なし	-	-	-	-	15.4%	○	○				

現状と課題

■ 施設評価結果

【施設評価①】いずれの施設も、課題なし

【施設評価②】—

■ 現状

- 山宮保育園は建築後37年、北山保育園は建築後39年が経過しています。
- 山宮保育園、北山保育園では平成29（2017）年度に長寿命化改修を実施しました。

■ 課題等

- いずれの施設も、品質（ハード）及び機能（ソフト）ともに高評価のため、問題ありません。
- いずれの施設も、建物の更新に併せて利用需要や社会情勢等を踏まえた適正な施設配置の検討が必要です。

再編方針

■ 再編の可能性

- 再編手法：多機能化、集約化
- 多機能化が可能な分類：児童クラブ

■ 再編内容

【短期】

- いずれの施設も、当面は、目標耐用年数に向けて長寿命化計画に基づき適切な維持管理を実施します。

【中長期】

- いずれの施設も、第4次再編計画（2046～2055年）期間中にそれぞれ更新時期を迎えます。子ども・子育て支援制度の動向、民間保育施設等の整備状況及び地域の特性を勘案する中で、園児数に対する施設の規模及び配置の適正化を精査し、施設の更新時には多機能化及び集約化を検討します。

カ 消防施設

<①第 16 分団詰所、②第 17 分団詰所（上組）>

番号	対象エリア	延べ床面積 (㎡)	運営	施設評価① 課題	施設評価②					再編の可能性					
					防災		土砂	浸水	目標 縮減 率	多機 能化	集約 化	民間 移譲	用途 変更	譲渡	除却
					本部	避難									
①	コミュニティエリア	77.63	直営	課題なし	-	-	-	-	0.0%		○				
②	コミュニティエリア	120.00	直営	課題なし	-	-	-	-	0.0%		○				

現状と課題

■ 施設評価結果

【施設評価①】いずれの施設も、課題なし

【施設評価②】—

■ 現状

- ・第 16 分団詰所は建築後 37 年、第 17 分団詰所（上組）は建築後 35 年が経過しています。

■ 課題等

- ・いずれの施設も、品質（ハード）及び機能（ソフト）ともに高評価のため、問題ありません。
- ・いずれの施設も、団員の活動拠点として管轄区域に配置しており、その組織、管轄区域は規則で定めていることから、集約化を図るには組織再編、規則改正が必要となります。

再編方針

■ 再編の可能性

- ・再編手法：集約化

■ 再編内容

【短期】

- ・いずれの施設も、当面は、目標耐用年数に向けて長寿命化計画に基づき適切な維持管理を実施します。

【中長期】

- ・いずれの施設も、第 4 次再編計画（2046～2055 年）期間中にそれぞれ更新時期を迎えます。人口減少に伴う団員数の減少を考慮した分団組織の再編を進める中で、規模及び配置の適正化を精査した上で、集約化等を検討します。

キ その他学校施設

＜①市立学校給食センター＞

番号	対象エリア	延べ床面積 (㎡)	運営	施設評価①	施設評価②					再編の可能性					
				課題	防災		土砂	浸水	目標 縮減 率	多機 能化	集約 化	民間 移譲	用途 変更	譲渡	除却
					本部	避難									
①	その他	4,777.88	直営 (一部委託)	課題なし	-	-	-	-	35.3%						

現状と課題

■ 施設評価結果

【施設評価①】 課題なし

【施設評価②】 —

■ 現状

- ・ 建築後3年が経過しています。
- ・ 調理及び配送業務は、民間委託により行われています。

■ 課題等

- ・ 品質（ハード）及び機能（ソフト）ともに高評価のため、問題ありません。
- ・ 学校給食衛生管理基準に基づく徹底した衛生管理が必要な施設であるため、常に不特定の人が利用する施設（機能）との多機能化を行うことは現実的ではありません。

再編方針

■ 再編の可能性

- ・ 再編手法：—

■ 再編内容

【短期】

- ・ 当面は、目標耐用年数に向けて長寿命化計画に基づき適切な維持管理を実施します。

【中長期】

- ・ 利用需要に応じたサービスの在り方を検討する中で、施設の更新時には適正な規模による建て替え等を検討します。

ク 環境・プラント施設

<①富士宮聖苑>

番号	対象エリア	延べ床面積 (㎡)	運営	施設評価①	施設評価②					再編の可能性						
				課題	防災		土砂	浸水	目標 縮減 率	多機 能化	集約 化	民間 移譲	用途 変更	譲渡	除却	
					本部	避難										
①	その他	1,672.40	指定管理	ソフト面	-	-	-	-	23.0%							

現状と課題

■ 施設評価結果

【施設評価①】ソフト面に課題あり

【施設評価②】—

■ 現状

- 建築後 38 年が経過しています。
- 火葬棟については、耐震性能がやや劣る状況ですが、施設の特殊な形状及び性質上、耐震補強が困難な状況です。
- 運営は、指定管理者により行われています。

■ 課題等

- 品質（ハード）は高評価ですが、機能（ソフト）が低評価のため、維持管理・運営の効率化の検討が必要です。

再編方針

■ 再編の可能性

- 再編手法：—

■ 再編内容

【短期】

- 安全性の向上、省エネルギー型の設備の採用等環境負荷の少ない設備の導入及びニーズの反映を図る中で、目標耐用年数に向けて長寿命化計画及び修繕計画に基づき適切な維持管理を実施します。
- 火葬棟は、耐震補強方法の検討と併せて、施設の改修を効率的かつ計画的に実施します。

【中長期】

- 第4次再編計画（2046～2055年）期間中に更新時期を迎えます。指定管理者により運営されており、管理運営方法を見直す中で、施設の更新時には、利用状況等を考慮し、施設の在り方を検討します。

<②清掃センター、③鞍骨沢最終処分場>

番号	対象エリア	延べ床面積 (㎡)	運営	施設評価① 課題	施設評価②					再編の可能性					
					防災		土砂	浸水	目標 縮減 率	多機 能化	集約 化	民間 移譲	用途 変更	譲渡	除却
					本部	避難									
②	その他	8,997.68	直営	ハード面	-	-	-	-	23.0%						
③	その他	1,089.10	委託	課題なし	-	-	-	-	23.0%						

現状と課題

■ 施設評価結果

【施設評価①】 清掃センター：ハード面に課題あり
鞍骨沢最終処分場：課題なし

【施設評価②】 —

■ 現状

- ・清掃センターは建築後 25 年～45 年、鞍骨沢最終処分場は建築後 22 年が経過しています。
- ・清掃センターの工場棟は、平成 30（2018）年度～令和元（2019）年度に長寿命化改修を実施しました。
- ・鞍骨沢最終処分場は、焼却灰を一部リサイクルすることで延命化を図っています。

■ 課題等

- ・清掃センターは、機能（ソフト）は高評価ですが、品質（ハード）が低評価のため、施設の修繕・改修等による品質の改善及び建て替えの検討が必要です。
- ・鞍骨沢最終処分場は、品質（ハード）及び機能（ソフト）ともに高評価のため、問題ありません。

再編方針

■ 再編の可能性

- ・再編手法：—

■ 再編内容

【短期】

- ・清掃センターは、設備の更新を図りながら、目標耐用年数に向けて長寿命化計画に基づき適切な維持管理を実施します。また、耐震性能が劣っている棟については、耐震補強方法の検討と併せて、施設の改修を効率的かつ計画的に実施するとともに、旧管理棟は解体を検討します。
- ・鞍骨沢最終処分場は、当面は、目標耐用年数に向けて長寿命化計画に基づき適切な維持管理を実施します。

【中長期】

- ・いずれの施設も、利用状況等を考慮し、安全性の向上、省エネルギー型の設備の採用等環境負荷の少ない設備の導入を検討します。
- ・清掃センターの一部施設は、第4次再編計画（2046～2055年）期間中に更新時期を迎えます。施設の更新時には、利用状況、施設の在り方等を考慮し、建て替えを効率的かつ計画的に実施します。

(8) 上野地域

ア 小・中学校

<①上野小学校、②上野中学校>

番号	対象エリア	延べ床面積 (㎡)	運営	施設評価①	施設評価②					再編の可能性						
				課題	防災		土砂	浸水	目標 縮減 率	多機 能化	集約 化	民間 移譲	用途 変更	譲渡	除却	
					本部	避難										
①	コミュニティエリア	4,446.14	直営	課題なし	-	○	-	-	42.0%	○	○					
②	地域エリア	3,652.12	直営	課題なし	-	○	-	-	52.5%	○	○					

現状と課題

■ 施設評価結果

【施設評価①】 いずれの施設も、課題なし

【施設評価②】 いずれの施設も、災害時の指定緊急避難場所・指定避難所に指定されていることから「継続利用」を基本とします。

■ 現状

- ・上野小学校は建築後 10 年～46 年、上野中学校は建築後 33 年～41 年が経過しています。
- ・上野中学校の屋内運動場は、平成 29（2017）年度に長寿命化改修を実施しました。
- ・いずれの施設も、児童及び生徒数が年々減少傾向にあることから、余裕教室を特別活動室や多目的教室に変更するなど、多様な教育環境に対応するための活用が図られています。

■ 課題等

- ・いずれの施設も、品質（ハード）及び機能（ソフト）ともに高評価のため、問題ありません。
- ・いずれの施設も、災害時の避難場所等に指定されていることから、施設の再編を検討する際には、地域に必要な避難場所等の機能の確保という点について考慮する必要があります。
- ・いずれの施設も、多機能化に当たっては、児童及び生徒の安全性を確保するための対応策の検討が必要です。また、各施設の相互利用・共同利用が行われるため、それぞれの管理区分を明確にする必要があります。

再編方針

■ 再編の可能性

- ・再編手法：多機能化、集約化
- ・多機能化が可能な分類：公民館、児童クラブ、出張所

■ 再編内容

【短期】

- ・いずれの施設も、当面は、目標耐用年数に向けて長寿命化計画に基づき適切な維持管理を実施します。

【中長期】

- ・上野小学校の屋内運動場は、第 3 次再編計画（2036～2045 年）期間中に更新時期を迎えます。学校再編の進展等を考慮する中で、施設を現在の場所で維持する場合は、教室棟は築年数が浅いことから、屋内運動場の更新時には教室棟を残して建て替えることを検討します。
- ・上野中学校は第 4 次再編計画（2046～2055 年）期間中に更新時期を迎えます。
- ・いずれの施設も、施設の更新時には「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き」を参考に、多機能化及び各施設の相互利用・共同利用を検討します。

イ 庁舎施設

<①上野出張所>

番号	対象エリア	延べ床面積 (㎡)	運営	施設評価① 課題	施設評価②					再編の可能性						
					防災		土砂	浸水	目標 縮減 率	多機 能化	集約 化	民間 移譲	用途 変更	譲渡	除却	
					本部	避難										
①	地域エリア	1,058.33	直営	ソフト面	○	○	-	-	29.6%	○						

現状と課題

■ 施設評価結果

【施設評価①】ソフト面に課題あり

【施設評価②】災害時の指定緊急避難場所、地区本部に指定されていることから「継続利用」を基本とします。

■ 現状

- ・ 建築後 23 年が経過しています。
- ・ 令和元（2019）年度に長寿命化改修を実施しました。

■ 課題等

- ・ 品質（ハード）は高評価ですが、機能（ソフト）が低評価のため、維持管理・運営の効率化及び多機能化による行政サービスの改善の検討が必要です。
- ・ 災害時の避難場所等に指定されていることから、施設の再編を検討する際には、地域に必要な避難場所等の機能の確保という点について考慮する必要があります。

再編方針

■ 再編の可能性

- ・ 再編手法：多機能化
- ・ 多機能化が可能な分類：公民館、小・中学校

■ 再編内容

【短期】

- ・ 当面は、目標耐用年数に向けて長寿命化計画に基づき適切な維持管理を実施します。

【中長期】

- ・ 地域の拠点施設であることを考慮する中で、施設の更新時には多機能化を検討します。

ウ 消防施設

<①西消防署上野分署>

番号	対象エリア	延べ床面積 (㎡)	運営	施設評価①	施設評価②					再編の可能性						
				課題	防災		土砂	浸水	目標 縮減 率	多機 能化	集約 化	民間 移譲	用途 変更	譲渡	除却	
					本部	避難										
①	地域エリア	340.27	直営	ソフト面	-	-	-	-	0.0%		○					

現状と課題

■ 施設評価結果

【施設評価①】ソフト面に課題あり

【施設評価②】—

■ 現状

- 建築後 15 年が経過しています。
- 平成 29 (2017) 年度に長寿命化改修を実施しました。

■ 課題等

- 品質 (ハード) は高評価ですが、機能 (ソフト) が低評価のため、維持管理・運営の効率化及び集約化の検討が必要です。

再編方針

■ 再編の可能性

- 再編手法：集約化

■ 再編内容

【短期】

- 当面は、目標耐用年数に向けて長寿命化計画に基づき適切な維持管理を実施します。

【中長期】

- 「富士宮市消防総合基本計画」に基づき配置の適正化を精査した上で、消防庁舎の適正配置について検討します。

<②第18分団詰所（馬見塚）、③第18分団詰所（旧第18・19分団統合詰所）、
④旧第19分団詰所（精進川）、⑤第19分団詰所（妙蓮寺）、⑥第19分団詰所>

番号	対象エリア	延べ床面積 (㎡)	運営	施設評価①		施設評価②				再編の可能性						
				課題	防災		土砂	浸水	目標 縮減 率	多機 能化	集約 化	民間 移譲	用途 変更	譲渡	除却	
					本部	避難										
②	コミュニティエリア	52.30	直営	課題なし	-	-	-	-	0.0%		○					
③	コミュニティエリア	177.84	直営	対象外	-	-	-	-	0.0%		○					
④	コミュニティエリア	52.30	直営	課題なし	-	-	-	-	0.0%		○					
⑤	コミュニティエリア	52.31	直営	ハード面	-	-	-	-	0.0%		○					
⑥	コミュニティエリア	165.02	直営	課題なし	-	-	-	-	0.0%		○					

現状と課題

■ 施設評価結果

【施設評価①】第18分団詰所（馬見塚）、旧第19分団詰所（精進川）、
第19分団詰所：課題なし
第19分団詰所（妙蓮寺）：ハード面に課題あり

【施設評価②】—

■ 現状

- 第18分団詰所（馬見塚）は建築後28年、第18分団詰所は建築後40年、旧第19分団詰所（精進川）は建築後33年、第19分団詰所（妙蓮寺）は建築後39年、第19分団詰所は建築後1年が経過しています。

■ 課題等

- 第18分団詰所（馬見塚）、旧第19分団詰所（精進川）、第19分団詰所は、品質（ハード）及び機能（ソフト）ともに高評価のため、問題ありません。
- 第19分団詰所（妙蓮寺）は、機能（ソフト）は高評価ですが、品質（ハード）が低評価のため、施設の修繕・改修等による品質の改善、多機能化及び建て替えの検討が必要です。
- いずれの施設も、団員の活動拠点として管轄区域に配置しており、その組織、管轄区域は規則で定めていることから、集約化を図るには組織再編、規則改正が必要となります。

再編方針

■ 再編の可能性

- 再編手法：集約化

■ 再編内容

【短期】

- 令和2（2020）年度に第18分団詰所の建て替えの実施に伴い、第18分団詰所（馬見塚）との集約を図ります。また、第19分団詰所（妙蓮寺）の建て替えを実施予定です。
- 第18分団詰所（馬見塚）及び旧第19分団詰所（精進川）は、水防倉庫として使用する予定です。

【中長期】

- いずれの施設も、人口減少に伴う団員数の減少を考慮した分団組織の再編を進める中で、規模及び配置の適正化を精査した上で、集約化等を検討します。

工 医療・保健・福祉施設

<①上野児童クラブ>

番号	対象エリア	延べ床面積 (㎡)	運営	施設評価①		施設評価②				再編の可能性						
				課題	防災		土砂	浸水	目標 縮減 率	多機 能化	集約 化	民間 移譲	用途 変更	譲渡	除却	
					本部	避難										
①	コミュニティエリア	149.06	委託	ソフト面	-	-	-	-	42.0%	○	○					

現状と課題

■ 施設評価結果

【施設評価①】ソフト面に課題あり

【施設評価②】—

■ 現状

- 建築後1年が経過しています。
- 制度改正等により対象年齢がおおむね10歳未満から12歳以下に拡大されたことから、当面、利用児童数の増加が見込まれます。
- 運営は、民間委託により行われています。

■ 課題等

- 品質（ハード）は高評価ですが、機能（ソフト）が低評価のため、維持管理・運営の効率化、多機能化及び集約化による行政サービスの改善の検討が必要です。

再編方針

■ 再編の可能性

- 再編手法：多機能化、集約化
- 多機能化が可能な分類：地域活性化施設、小・中学校、保育園

■ 再編内容

【短期】

- 当面は、目標耐用年数に向けて適切な維持管理を実施します。
- 対象年齢の拡大に伴う需要増により対応が困難な場合は、利用時間が重ならない学校の活用等を検討します。

【中長期】

- 中長期的には利用需要の減少が見込まれることから、将来の利用状況等を考慮し、規模及び配置の適正化を精査する中で、施設の更新時には多機能化及び集約化を検討します。

<②長生園>

番号	対象エリア	延べ床面積 (㎡)	運営	施設評価①		施設評価②				再編の可能性					
				課題	防災		土砂	浸水	目標 縮減 率	多機 能化	集約 化	民間 移譲	用途 変更	譲渡	除却
					本部	避難									
②	その他	1,841.23	指定管理	ソフト面	-	-	-	-	0.1%			○			

現状と課題

■ 施設評価結果

【施設評価①】ソフト面に課題あり

【施設評価②】—

■ 現状

- ・ 建築後 32 年が経過しています。
- ・ 運営は、指定管理者により行われています。

■ 課題等

- ・ 品質（ハード）は高評価ですが、機能（ソフト）が低評価のため、維持管理・運営の効率化及び多機能化による行政サービスの改善の検討が必要です。

再編方針

■ 再編の可能性

- ・ 再編手法：民間移譲

■ 再編内容

【短期】

- ・ 当面は、目標耐用年数に向けて長寿命化計画に基づき適切な維持管理を実施します。

【中長期】

- ・ 令和元（2019）年度から指定管理者により運営されており、管理運営方法を見直す中で、民間等への移譲を検討します。

(9) 上井出地域

ア 観光・産業施設

<①白系の滝観光案内所、②道の駅朝霧高原>

番号	対象エリア	延べ床面積 (㎡)	運営	施設評価①	施設評価②				再編の可能性						
				課題	防災		土砂	浸水	目標 縮減 率	多機 能化	集約 化	民間 移譲	用途 変更	譲渡	除却
					本部	避難									
①	広域エリア	218.61	直営	課題なし	-	-	-	-	30.0%						
②	広域エリア	697.72	委託	課題なし	-	-	-	-	30.0%						

現状と課題

■ 施設評価結果

【施設評価①】いずれの施設も、課題なし

【施設評価②】—

■ 現状

- ・白系の滝観光案内所は建築後7年、道の駅朝霧高原は建築後20年が経過しています。
- ・道の駅朝霧高原は、平成30(2018)年度に長寿命化改修を実施しました。

■ 課題等

- ・いずれの施設も、品質(ハード)及び機能(ソフト)ともに高評価のため、問題ありません。

再編方針

■ 再編の可能性

- ・再編手法：—

■ 再編内容

【短期】

- ・いずれの施設も、当面は、目標耐用年数に向けて長寿命化計画に基づき適切な維持管理を実施します。

【中長期】

- ・いずれの施設も、利用状況等を考慮する中で、施設の更新時には規模縮減を図りつつ建て替えを検討します。

イ 社会教育施設

＜①富士宮市立西富士図書館＞

番号	対象エリア	延べ床面積 (㎡)	運営	施設評価①	施設評価②				再編の可能性							
				課題	防災		土砂	浸水	目標 縮減 率	多機 能化	集約 化	民間 移譲	用途 変更	譲渡	除却	
					本部	避難										
①	地域エリア	622.55	直営	ソフト面	-	-	-	-	28.7%	○	○					

現状と課題

■ 施設評価結果

【施設評価①】ソフト面に課題あり

【施設評価②】—

■ 現状

- ・ 建築後 27 年が経過しています。
- ・ 県内外の図書館と図書相互貸借を実施しています。

■ 課題等

- ・ 品質（ハード）は高評価ですが、機能（ソフト）が低評価のため、維持管理・運営の効率化、多機能化及び集約化による行政サービスの改善の検討が必要です。

再編方針

■ 再編の可能性

- ・ 再編手法：多機能化、集約化
- ・ 多機能化が可能な分類：公民館

■ 再編内容

【短期】

- ・ 当面は、目標耐用年数に向けて長寿命化計画に基づき適切な維持管理を実施します。

【中長期】

- ・ 利用状況等を考慮し、規模及び配置の適正化並びに利便性を高める管理運営方法を精査する中で、施設の更新時には多機能化及び集約化を検討します。

ウ 小・中学校

<①上井出小学校、②人六小学校、③井之頭小学校、④井之頭小学校根原分校、
⑤井之頭中学校、⑥西富士中学校>

番号	対象エリア	延べ床面積 (㎡)	運営	施設評価①	施設評価②					再編の可能性						
				課題	防災		土砂	浸水	目標 縮減 率	多機 能化	集約 化	民間 移譲	用途 変更	譲渡	除却	
					本部	避難										
①	コミュニティエリア	2,625.59	直営	ソフト面	-	○	-	-	32.5%	○	○					
②	コミュニティエリア	1,942.85	直営	ソフト面	-	○	-	-	32.5%	○	○					
③	コミュニティエリア	2,114.60	直営	ハード・ソフト面	○	○	-	-	32.5%	○	○					
④	コミュニティエリア	480.00	直営	ハード面	-	○	-	-	32.5%							
⑤	地域エリア	2,160.15	直営	ハード・ソフト面	-	○	-	-	37.2%	○	○					
⑥	地域エリア	4,593.35	直営	ハード・ソフト面	-	○	-	-	37.2%	○	○					

現状と課題

■ 施設評価結果

【施設評価①】 上井出小学校、人六小学校：ソフト面に課題あり

井之頭小学校根原分校：ハード面に課題あり

井之頭小学校、井之頭中学校、西富士中学校：ハード・ソフト面に課題あり

【施設評価②】 いずれの施設も、災害時の指定緊急避難場所・指定避難所又は地区本部（井之頭小学校が該当）に指定されていることから「継続利用」を基本とします。

■ 現状

- 上井出小学校は建築後41年～42年、人六小学校は建築後26年～62年、井之頭小学校は建築後36年～50年、井之頭小学校根原分校は建築後42年、井之頭中学校は建築後41年～42年、西富士中学校は建築後7年～53年が経過しています。
- 井之頭小学校の屋内運動場、井之頭中学校の普通教室・管理棟は耐震性能がやや劣る状況です。
- いずれの施設も、児童及び生徒数が年々減少傾向にあることから、余裕教室を特別活動室や多目的教室に変更するなど、多様な教育環境に対応するための活用が図られています。

■ 課題等

- 上井出小学校及び人六小学校は、品質（ハード）は高評価ですが、機能（ソフト）が低評価のため、維持管理・運営の効率化、多機能化及び集約化の検討が必要です。
- 井之頭小学校根原分校は、機能（ソフト）は高評価ですが、品質（ハード）が低評価のため、施設の修繕・改修等による品質の改善の検討が必要です。
- 井之頭小学校、井之頭中学校及び西富士中学校は、品質（ハード）及び機能（ソフト）ともに低評価のため、今後の在り方を優先的に検討する必要があります。
- いずれの施設も、災害時の避難場所等に指定されていることから、施設の再編を検討する際には、地域に必要な避難場所等の機能の確保という点について考慮する必要があります。
- いずれの施設も、多機能化に当たっては、児童及び生徒の安全性を確保するための対応策の検討が必要です。また、各施設の相互利用・共同利用が行われるため、それぞれの管理区分を明確にする必要があります。

再編方針**■ 再編の可能性**

- 再編手法：上井出小学校、人穴小学校、井之頭小学校、井之頭中学校及び西富士中学校は多機能化、集約化
- 多機能化が可能な分類：上井出小学校、人穴小学校、井之頭小学校、井之頭中学校及び西富士中学校は公民館、児童クラブ、出張所

■ 再編内容**【短期】**

- 上井出小学校、人穴小学校、井之頭小学校、井之頭中学校及び西富士中学校は、当面は、目標耐用年数に向けて長寿命化計画に基づき適切な維持管理を実施します。
- 井之頭小学校根原分校は、当面は、目標耐用年数に向けて適切な維持管理を実施します。
- 井之頭小学校の屋内運動場及び井之頭中学校の校舎は、耐震化と併せた施設の長寿命化改修を効率的かつ計画的に実施します。

【中長期】

- 井之頭小学校及び西富士中学校は第3次再編計画（2036～2045年）期間中に、上井出小学校、人穴小学校及び井之頭中学校は、第4次再編計画（2046～2055年）期間中にそれぞれ更新時期を迎えます。いずれの施設も、更新時には「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き」を参考に、多機能化及び各施設の相互利用・共同利用を検討します。
- 井之頭小学校根原分校は、平成19（2007）年4月から休校中であるため、今後の施設の在り方を検討します。

工 消防施設

<①西消防署北分署>

番号	対象エリア	延べ床面積 (㎡)	運営	施設評価①	施設評価②					再編の可能性						
				課題	防災		土砂	浸水	目標 縮減 率	多機 能化	集約 化	民間 移譲	用途 変更	譲渡	除却	
					本部	避難										
①	地域エリア	853.87	直営	課題なし	-	-	-	-	0.0%							

現状と課題

■ 施設評価結果

【施設評価①】 課題なし

【施設評価②】 ー

■ 現状

- ・ 建築後4年が経過しています。

■ 課題等

- ・ 品質（ハード）及び機能（ソフト）ともに高評価のため、問題ありません。

再編方針

■ 再編の可能性

- ・ 再編手法：ー

■ 再編内容

【短期】

- ・ 地域の防災拠点として今後も維持するため、目標耐用年数に向けて長寿命化計画に基づき適切な維持管理を実施します。

【中長期】

- ・ 「富士宮市消防総合基本計画」に基づき消防体制の基盤の充実を図りつつ、適切な維持管理を実施します。

<②第20分団詰所（人穴）、③第20分団詰所（上井出）、④第21分団詰所（麓）、
⑤第21分団詰所（猪之頭）>

番号	対象エリア	延べ床面積 (㎡)	運営	施設評価① 課題	施設評価②				再編の可能性						
					防災		土砂	浸水	目標 縮減 率	多機 能化	集約 化	民間 移譲	用途 変更	譲渡	除却
					本部	避難									
②	コミュニティエリア	52.30	直営	ソフト面	-	-	-	-	0.0%		○				
③	コミュニティエリア	162.10	直営	課題なし	-	-	-	-	0.0%		○				
④	コミュニティエリア	19.87	直営	ハード・ソフト面	-	-	-	-	0.0%		○				
⑤	コミュニティエリア	146.44	直営	課題なし	-	-	-	-	0.0%		○				

現状と課題

■ 施設評価結果

【施設評価①】 第20分団詰所（人穴）：ソフト面に課題あり
第20分団詰所（上井出）、第21分団詰所（猪之頭）：課題なし
第21分団詰所（麓）：ハード・ソフト面に課題あり

【施設評価②】 —

■ 現状

- 第20分団詰所（人穴）は建築後34年、第20分団詰所（上井出）は建築後36年、第21分団詰所（麓）は建築後34年、第21分団詰所（猪之頭）は建築後37年が経過しています。
- 第20分団詰所（上井出）は、令和元（2019）年度に長寿命化改修を実施しました。

■ 課題等

- 第20分団詰所（人穴）は、品質（ハード）は高評価ですが、機能（ソフト）が低評価のため、維持管理・運営の効率化及び集約化の検討が必要です。
- 第20分団詰所（上井出）及び第21分団詰所（猪之頭）は、品質（ハード）及び機能（ソフト）ともに高評価のため、問題ありません。
- 第21分団詰所（麓）は、品質（ハード）及び機能（ソフト）ともに低評価のため、今後の在り方を優先的に検討する必要があります。
- いずれの施設も、団員の活動拠点として管轄区域に配置しており、その組織、管轄区域は規則で定めていることから、集約化を図るには組織再編及び規則改正が必要となります。

再編方針

■ 再編の可能性

- 再編手法：集約化

■ 再編内容

【短期】

- いずれの施設も、当面は、目標耐用年数に向けて長寿命化計画に基づき適切な維持管理を実施します。

【中長期】

- いずれの施設も、第4次再編計画（2046～2055年）期間中にそれぞれ更新時期を迎えます。人口減少に伴う団員数の減少を考慮した分団組織の再編を進める中で、規模及び配置の適正化を精査した上で、集約化等を検討します。

才 医療・保健・福祉施設

<①上井出児童クラブ>

番号	対象エリア	延べ床面積 (㎡)	運営	施設評価①	施設評価②					再編の可能性						
				課題	防災		土砂	浸水	目標 縮減 率	多機 能化	集約 化	民間 移譲	用途 変更	譲渡	除却	
					本部	避難										
①	コミュニティエリア	63.00	委託	ハード面	-	-	-	-	32.5%	○	○					

現状と課題

■ 施設評価結果

【施設評価①】ハード面に課題あり

【施設評価②】—

■ 現状

- ・ 建築後 41 年が経過しています。
- ・ 制度改正等により対象年齢がおおむね 10 歳未満から 12 歳以下に拡大されたことから、当面、利用児童数の増加が見込まれます。
- ・ 運営は、民間委託により行われています。

■ 課題等

- ・ 機能（ソフト）は高評価ですが、品質（ハード）が低評価のため、施設の修繕・改修等による品質の改善、多機能化及び建て替えの検討が必要です。

再編方針

■ 再編の可能性

- ・ 再編手法：多機能化、集約化
- ・ 多機能化が可能な分類：地域活性化施設、小・中学校、保育園

■ 再編内容

【短期】

- ・ 当面は、目標耐用年数に向けて適切な維持管理を実施します。
- ・ 対象年齢の拡大に伴う需要増により対応が困難な場合は、利用時間が重ならない学校の活用等を検討します。

【中長期】

- ・ 第4次再編計画（2046～2055年）期間中に更新時期を迎えます。中長期的には利用需要の減少が見込まれることから、将来の利用状況等を考慮し、規模及び配置の適正化を精査する中で、施設の更新時には多機能化及び集約化を検討します。

カ 保育園

<①上井出保育園、②井之頭保育園>

番号	対象エリア	延べ床面積 (㎡)	運営	施設評価① 課題	施設評価②					再編の可能性					
					防災		土砂	浸水	目標 縮減 率	多機 能化	集約 化	民間 移譲	用途 変更	譲渡	除却
					本部	避難									
①	コミュニティエリア	842.24	直営	ソフト面	-	-	-	-	15.4%	○	○				
②	コミュニティエリア	420.31	直営	ソフト面	-	-	-	-	15.4%	○	○				

現状と課題

■ 施設評価結果

【施設評価①】いずれの施設も、ソフト面に課題あり

【施設評価②】—

■ 現状

- ・上井出保育園は建築後 39 年、井之頭保育園は建築後 36 年が経過しています。
- ・井之頭保育園は、平成 30（2018）年度に長寿命化改修を実施しました。

■ 課題等

- ・いずれの施設も、品質（ハード）は高評価ですが、機能（ソフト）が低評価のため、維持管理・運営の効率化及び集約化による行政サービスの改善の検討が必要です。
- ・いずれの施設も、建物の更新に併せて利用需要や社会情勢等を踏まえた適正な施設配置の検討が必要です。

再編方針

■ 再編の可能性

- ・再編手法：多機能化、集約化
- ・多機能化が可能な分類：児童クラブ

■ 再編内容

【短期】

- ・いずれの施設も、当面は、目標耐用年数に向けて長寿命化計画に基づき適切な維持管理を実施します。

【中長期】

- ・いずれの施設も、第4次再編計画（2046～2055年）期間中にそれぞれ更新時期を迎えます。子ども・子育て支援制度の影響、民間保育施設等の整備状況及び地域の特性を勘案する中で、園児数に対する施設の規模及び配置の適正化を精査し、施設の更新時には多機能化及び集約化を検討します。

キ 機能停止施設

<①田貫湖キャンプ場（湖畔荘）>

番号	対象エリア	延べ床面積 (㎡)	運営	施設評価①	施設評価②				再編の可能性							
				課題	防災		土砂	浸水	目標 縮減 率	多機 能化	集約 化	民間 移譲	用途 変更	譲渡	除却	
					本部	避難										
①	その他	483.88	指定管理	対象外	-	-	○	-	100.0%							○

現状と課題

■ 施設評価結果

【施設評価①】—

【施設評価②】敷地全体が土砂災害警戒区域に指定されています。

■ 現状

- ・ 建築後 41 年が経過しています。
- ・ 耐震性能が劣る状況です。

■ 課題等

- ・ 敷地全体が土砂災害警戒区域に指定されています。

再編方針

■ 再編の可能性

- ・ 再編手法：除却

■ 再編内容

【短期】

- ・ 用途を廃止し、建物は除却します。

【中長期】

- ・ —

(10) 白糸地域

ア その他

<①白糸自然公園>

番号	対象エリア	延べ床面積 (㎡)	運営	施設評価①	施設評価②					再編の可能性						
				課題	防災		土砂	浸水	目標 縮減 率	多機 能化	集約 化	民間 移譲	用途 変更	譲渡	除却	
					本部	避難										
①	全市エリア	1,101.51	委託	課題なし	-	-	-	-	30.0%	○						

現状と課題

■ 施設評価結果

【施設評価①】課題なし

【施設評価②】—

■ 現状

- ・ 建築後 30 年～38 年が経過しています。
- ・ 平成 27 (2015) 年度に白糸ふれあいホールの一部改修を行っています。
- ・ 運営は、民間委託により行われています。

■ 課題等

- ・ 品質 (ハード) 及び機能 (ソフト) とともに高評価のため、問題ありません。
- ・ 都市公園法による都市公園として管理運営することを目指しているため、多機能化を検討する際には、同法に適合する施設である必要があります。

再編方針

■ 再編の可能性

- ・ 再編手法：多機能化

■ 再編内容

【短期】

- ・ 当面は、目標耐用年数に向けて長寿命化計画に基づき適切な維持管理を実施します。

【中長期】

- ・ 利用状況等を考慮し、規模及び配置の適正化を精査する中で、施設の更新時には多機能化を検討します。

イ 庁舎施設

<①白系出張所>

番号	対象エリア	延べ床面積 (㎡)	運営	施設評価①	施設評価②					再編の可能性						
				課題	防災		土砂	浸水	目標 縮減 率	多機 能化	集約 化	民間 移譲	用途 変更	譲渡	除却	
					本部	避難										
①	地域エリア	1,066.65	直営	対象外	○	-	-	-	31.5%							

現状と課題

■ 施設評価結果

【施設評価①】—

【施設評価②】災害時の地区本部に指定されていることから「継続利用」を基本とします。

■ 現状

- 建築後 51 年が経過しています。
- 耐震性能が劣る状況です。

■ 課題等

- —

再編方針

■ 再編の可能性

- 再編手法：—

■ 再編内容

【短期】

- 令和 2（2020）年度に建て替えを実施する予定です。

【中長期】

- 施設・機能を維持する中で、目標耐用年数に向けて長寿命化計画に基づき適切な維持管理を実施していきます。

ウ 小・中学校

<①白糸小学校>

番号	対象エリア	延べ床面積 (㎡)	運営	施設評価①	施設評価②				再編の可能性							
				課題	防災		土砂	浸水	目標 縮減 率	多機 能化	集約 化	民間 移譲	用途 変更	譲渡	除却	
					本部	避難										
①	コミュニティエリア	3,407.04	直営	ハード・ソフト面	-	○	-	-	34.4%	○	○					

現状と課題

■ 施設評価結果

【施設評価①】ハード・ソフト面に課題あり

【施設評価②】災害時の指定緊急避難場所・指定避難所に指定されていることから「継続利用」を基本とします。

■ 現状

- ・ 建築後 29 年～48 年が経過しています。
- ・ 屋内運動場は、平成 30（2018）年度に長寿命化改修を実施しました。
- ・ 児童数が年々減少傾向にあることから、余裕教室を特別活動室や多目的教室に変更するなど、多様な教育環境に対応するための活用が図られています。

■ 課題等

- ・ 品質（ハード）及び機能（ソフト）ともに低評価のため、今後の在り方を優先的に検討する必要があります。
- ・ 災害時の避難場所等に指定されていることから、施設の再編を検討する際には、地域に必要な避難場所等の機能の確保という点について考慮する必要があります。
- ・ 多機能化に当たっては、児童の安全性を確保するための対応策の検討が必要です。また、各施設の相互利用・共同利用が行われるため、それぞれの管理区分を明確にする必要があります。

再編方針

■ 再編の可能性

- ・ 再編手法：多機能化、集約化
- ・ 多機能化が可能な分類：公民館、児童クラブ、出張所

■ 再編内容

【短期】

- ・ 白糸小学校の管理教室棟では、令和 2（2020）年度に長寿命化改修を実施する予定です。
- ・ 当面は、目標耐用年数に向けて長寿命化計画に基づき適切な維持管理を実施します。

【中長期】

- ・ 第 3 次再編計画（2036～2045 年）期間中に更新時期を迎えます。施設の更新時には「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き」を参考に、多機能化及び各施設の相互利用・共同利用を検討します。

工 医療・保健・福祉施設

<①白糸児童クラブ>

番号	対象エリア	延べ床面積 (㎡)	運営	施設評価①	施設評価②					再編の可能性						
				課題	防災		土砂	浸水	目標 縮減 率	多機 能化	集約 化	民間 移譲	用途 変更	譲渡	除却	
					本部	避難										
①	コミュニティエリア	47.00	委託	ハード面	-	-	-	-	34.4%	○	○					

現状と課題

■ 施設評価結果

【施設評価①】ハード面に課題あり

【施設評価②】—

■ 現状

- ・ 建築後 62 年が経過しています。
- ・ 制度改正等により対象年齢がおおむね 10 歳未満から 12 歳以下に拡大されたことから、当面は利用児童数の増加が見込まれます。
- ・ 運営は、民間委託により行われています。

■ 課題等

- ・ 機能（ソフト）は高評価ですが、品質（ハード）が低評価のため、施設の修繕・改修等による品質の改善、多機能化及び建て替えの検討が必要です。

再編方針

■ 再編の可能性

- ・ 再編手法：多機能化、集約化
- ・ 多機能化が可能な分類：地域活性化施設、小・中学校、保育園

■ 再編内容

【短期】

- ・ 当面は、目標耐用年数に向けて適切な維持管理を実施します。
- ・ 対象年齢の拡大に伴う需要増により対応が困難な場合は、利用時間が重ならない学校の活用等を検討します。

【中長期】

- ・ 第 2 次再編計画（2026～2035 年）期間中に更新時期を迎えます。中長期的には利用需要の減少が見込まれることから、将来の利用状況等を考慮し、規模及び配置の適正化を精査する中で、施設の更新時には多機能化及び集約化を検討します。

才 保育園

<①白系保育園>

番号	対象エリア	延べ床面積 (㎡)	運営	施設評価①	施設評価②					再編の可能性						
				課題	防災		土砂	浸水	目標 縮減 率	多機 能化	集約 化	民間 移譲	用途 変更	譲渡	除却	
					本部	避難										
①	コミュニティエリア	643.82	直営	ソフト面	-	-	-	-	15.4%	○	○					

現状と課題

■ 施設評価結果

【施設評価①】ソフト面に課題あり

【施設評価②】—

■ 現状

- 建築後 36 年が経過しています。

■ 課題等

- 品質（ハード）は高評価ですが、機能（ソフト）が低評価のため、維持管理・運営の効率化、多機能化及び集約化による行政サービスの改善の検討が必要です。
- 建物の更新に併せて利用需要や社会情勢等を踏まえた適正な施設配置の検討が必要です。

再編方針

■ 再編の可能性

- 再編手法：多機能化、集約化
- 多機能化が可能な分類：児童クラブ

■ 再編内容

【短期】

- 当面は、目標耐用年数に向けて長寿命化計画に基づき適切な維持管理を実施します。

【中長期】

- 第4次再編計画（2046～2055年）期間中に更新時期を迎えます。子ども・子育て支援制度の影響、民間保育施設等の整備状況及び地域の特性を勘案する中で、園児数に対する施設の規模及び配置の適正化を精査し、施設の更新時には周辺施設の多機能化及び集約化を検討します。

カ 消防施設

<①第 22 分団詰所（原）>

番号	対象エリア	延べ床面積 (㎡)	運営	施設評価①	施設評価②					再編の可能性						
				課題	防災		土砂	浸水	目標 縮減 率	多機 能化	集約 化	民間 移譲	用途 変更	譲渡	除却	
					本部	避難										
①	コミュニティエリア	145.50	直営	課題なし	-	-	-	-	0.0%		○					

現状と課題

■ 施設評価結果

【施設評価①】課題なし

【施設評価②】—

■ 現状

- ・ 建築後 32 年が経過しています。

■ 課題等

- ・ 品質（ハード）及び機能（ソフト）ともに高評価のため、問題ありません。
- ・ 消防団の詰所は、団員の活動拠点として管轄区域に配置しており、その組織、管轄区域は規則で定めていることから、集約化を図るには組織再編、規則改正が必要となります。

再編方針

■ 再編の可能性

- ・ 再編手法：集約化

■ 再編内容

【短期】

- ・ 当面は、目標耐用年数に向けて長寿命化計画に基づき適切な維持管理を実施していきます。

【中長期】

- ・ 人口減少に伴う団員数の減少を考慮した分団組織の再編を進める中で、規模及び配置の適正化を精査した上で、集約化等を検討します。

キ 機能停止施設

<① (旧) 白糸老人憩の家>

番号	対象エリア	延べ床面積 (㎡)	運営	施設評価①	施設評価②				再編の可能性							
				課題	防災		土砂	浸水	目標 縮減 率	多機 能化	集約 化	民間 移譲	用途 変更	譲渡	除却	
					本部	避難										
①	その他	317.26	直営	対象外	-	-	-	-	100.0%							○

現状と課題

■ 施設評価結果

【施設評価①】—

【施設評価②】—

■ 現状

- ・ 建築後 40 年が経過しています。
- ・ 建物は使用休止しています。

■ 課題等

- ・ —

再編方針

■ 再編の可能性

- ・ 再編手法：除却

■ 再編内容

【短期】

- ・ 令和3（2021）年度に建物は除却します。

【中長期】

- ・ —

(11) 芝川地域

ア 観光・産業施設

<①新稲子川温泉ユ－・トリオ>

番号	対象エリア	延べ床面積 (㎡)	運営	施設評価①	施設評価②					再編の可能性					
				課題	防災		土砂	浸水	目標 縮減 率	多機 能化	集約 化	民間 移譲	用途 変更	譲渡	除却
					本部	避難									
①	広域エリア	1,645.12	指定管理	ソフト面	-	-	-	-	30.0%		○				

現状と課題

■ 施設評価結果

【施設評価①】ソフト面に課題あり

【施設評価②】－

■ 現状

- ・ 建築後3年～27年が経過しています。
- ・ 運営は、指定管理者により行われています。

■ 課題等

- ・ 品質（ハード）は高評価ですが、機能（ソフト）が低評価のため、維持管理・運営の効率化及び集約化による行政サービスの改善の検討が必要です。

再編方針

■ 再編の可能性

- ・ 再編手法：集約化

■ 再編内容

【短期】

- ・ 当面は、目標耐用年数に向けて長寿命化計画に基づき適切な維持管理を実施します。

【中長期】

- ・ 利用需要に応じたサービスの在り方を検討するとともに、施設の更新時には集約化を検討します。

イ 社会教育施設

＜①芝川公民館、②芝川公民館内房分館、③柚野公民館＞

番号	対象エリア	延べ床面積 (㎡)	運営	施設評価①		施設評価②				再編の可能性						
				課題	防災		土砂	浸水	目標 縮減 率	多機 能化	集約 化	民間 移譲	用途 変更	譲渡	除却	
					本部	避難										
①	地域エリア	2,245.82	直営	ソフト面	-	○	-	-	32.5%	○						
②	地域エリア	343.84	直営	ソフト面	-	-	-	○	32.5%			○				
③	地域エリア	609.09	直営	ソフト面	-	-	○	-	32.5%	○						

現状と課題

■ 施設評価結果

【施設評価①】いずれの施設も、ソフト面に課題あり

【施設評価②】・芝川公民館は、災害時の指定緊急避難場所に指定されていることから「継続利用」を基本とします。

- ・芝川公民館内房分館は、敷地全体が浸水想定区域に指定されています。
- ・柚野公民館は、敷地全体が土砂災害警戒区域にあります。

■ 現状

- ・芝川公民館は建築後 15 年、芝川公民館内房分館は建築後 39 年、柚野公民館は建築後 35 年～46 年が経過しています。
- ・芝川公民館内房分館では平成 30（2018）年度、柚野公民館では令和元（2019）年度に長寿命化改修を実施しました。
- ・芝川公民館内房分館は、比較的広い範囲に住民が分布する芝川地域の特性を考慮し、地域コミュニティの核となる芝川公民館を補完する施設として設けられています。
- ・いずれの施設も、地域住民のため、交流、文化活動及び健康の増進等に寄与することを目的としています。

■ 課題等

- ・いずれの施設も、品質（ハード）は高評価ですが、機能（ソフト）が低評価のため、維持管理・運営の効率化及び多機能化による行政サービスの改善の検討が必要です。
- ・芝川公民館内房分館は、敷地全体が河川の氾濫による浸水想定区域内にあり、浸水の深さは3m～10m未満の区域に指定されています。
- ・柚野公民館は、敷地全体が土砂災害警戒区域に指定されています。

再編方針

■ 再編の可能性

- ・再編手法：芝川公民館、柚野公民館は多機能化、芝川公民館内房分館は民間移譲
- ・多機能化が可能な分類：芝川公民館、柚野公民館は地域活性化施設、図書館、小・中学校、出張所

■ 再編内容

【短期】

- ・いずれの施設も、当面は、目標耐用年数に向けて長寿命化計画に基づき適切な維持管理を実施します。

【中長期】

- ・芝川公民館内房分館は第4次再編計画（2046～2055年）期間中に、柚野公民館は第3次再編計画（2036～2045年）期間中にそれぞれ更新時期を迎えます。
- ・芝川公民館及び柚野公民館は、地域の拠点性を高めるため、多世代が一か所に集える市民交流の拠点となる施設として多機能化を検討します。
- ・芝川公民館内房分館は、地域コミュニティ形成の場として、地元や地域団体等への移譲等を検討します。また、敷地全体が河川の氾濫による3m～10m未満の浸水想定区域に指定されているため、施設の移転も含めて検討します。
- ・柚野公民館は、敷地全体が土砂災害警戒区域に指定されているため、施設の移転も含めて検討します。

<④埋蔵文化財センター、⑤郷土資料館内房収蔵庫>

番号	対象エリア	延べ床面積 (㎡)	運営	施設評価①	施設評価②					再編の可能性						
				課題	防災		土砂	浸水	目標 縮減 率	多機 能化	集約 化	民間 移譲	用途 変更	譲渡	除却	
					本部	避難										
④	全市エリア	1,372.85	直営	課題なし	-	-	-	○	30.0%	○						
⑤	全市エリア	253.90	直営	ハード面	-	-	-	○	30.0%							○

現状と課題

■ 施設評価結果

【施設評価①】埋蔵文化財センター：課題なし
郷土資料館内房収蔵庫：ハード面に課題あり

【施設評価②】いずれの施設も、敷地全体が浸水想定区域に指定されています。

■ 現状

- 埋蔵文化財センターは建築後 25 年、郷土資料館内房収蔵庫は建築後 39 年が経過しています。
- 郷土資料館内房収蔵庫は、機能については埋蔵文化財センターに移しており、現在は使用されていません。

■ 課題等

- 埋蔵文化財センターは、品質（ハード）及び機能（ソフト）ともに高評価のため、問題ありません。
- 郷土資料館内房収蔵庫は、機能（ソフト）は高評価ですが、品質（ハード）が低評価のため、施設の修繕・改修等による品質の改善、多機能化及び建て替えの検討が必要です。
- いずれの施設も、敷地全体が河川の氾濫による浸水想定区域内にあり、埋蔵文化財センターの浸水の深さは5m～10m未満、郷土資料館内房収蔵庫の浸水の深さは3m～10m未満の区域に指定されています。

再編方針

■ 再編の可能性

- 再編手法：埋蔵文化財センターは多機能化、郷土資料館内房収蔵庫は除却
- 多機能化が可能な分類：埋蔵文化財センターは地域活性化施設

■ 再編内容

【短期】

- 埋蔵文化財センターは、当面は、目標耐用年数に向けて長寿命化計画に基づき適切な維持管理を実施します。
- 郷土資料館内房収蔵庫は、現在は使用されていないため、建物の除却を検討します。

【中長期】

- 埋蔵文化財センターは、敷地全体が河川の氾濫による5m～10m未満の浸水想定区域に指定されているため、施設の移転も含めて検討します。

ウ スポーツ施設

<①B&G 海洋センター>

番号	対象エリア	延べ床面積 (㎡)	運営	施設評価①		施設評価②				再編の可能性						
				課題	防災		土砂	浸水	目標 縮減 率	多機 能化	集約 化	民間 移譲	用途 変更	譲渡	除却	
					本部	避難										
①	全市エリア	1,716.17	指定管理	ソフト面	○	○	-	-	23.0%		○					

現状と課題

■ 施設評価結果

【施設評価①】ソフト面に課題あり

【施設評価②】災害時の指定緊急避難場所・指定避難所、地区本部に指定されていることから「継続利用」を基本とします。

■ 現状

- ・ 建築後 33 年が経過しています。
- ・ 運営は、指定管理者により行われています。

■ 課題等

- ・ 品質（ハード）は高評価ですが、機能（ソフト）が低評価のため、維持管理・運営の効率化及び集約化による行政サービスの改善の検討が必要です。
- ・ 災害時の避難場所等に指定されていることから、施設の再編を検討する際には、地域に必要な避難場所等の機能の確保という点について考慮する必要があります。

再編方針

■ 再編の可能性

- ・ 再編手法：集約化

■ 再編内容

【短期】

- ・ 当面は、目標耐用年数に向けて長寿命化計画に基づき適切な維持管理を実施します。

【中長期】

- ・ 利用需要に応じたサービスの在り方を検討するとともに、施設の更新時には集約化を検討します。

工 地域活性化施設

<①柚野の里活性化施設>

番号	対象エリア	延べ床面積 (㎡)	運営	施設評価①	施設評価②					再編の可能性						
				課題	防災		土砂	浸水	目標 縮減 率	多機 能化	集約 化	民間 移譲	用途 変更	譲渡	除却	
					本部	避難										
①	地域エリア	236.64	指定管理	課題なし	-	-	-	-	32.5%	○						

現状と課題

■ 施設評価結果

【施設評価①】課題なし

【施設評価②】—

■ 現状

- ・ 建築後8年が経過しています。
- ・ 運営は、指定管理者により行われています。

■ 課題等

- ・ 品質（ハード）及び機能（ソフト）ともに高評価のため、問題ありません。
- ・ 静岡県による「柚野の里地区」整備事業の拠点施設として整備され、県からの移譲を受けた施設です。そのため、施設の再編を検討する場合は、耐用年数及び利用目的に制約があることを考慮する必要があります。

再編方針

■ 再編の可能性

- ・ 再編手法：多機能化
- ・ 多機能化が可能な分類：公民館、博物館等

■ 再編内容

【短期】

- ・ 当面は、目標耐用年数に向けて長寿命化計画に基づき適切な維持管理を実施します。

【中長期】

- ・ 利用状況等を考慮し、規模及び配置の適正化を精査する中で、施設の更新時には多機能化を検討します。

才 小・中学校

<①芝富小学校、②内房小学校、③稲子小学校、④柚野小学校、⑤柚野中学校、⑥芝川中学校>

番号	対象エリア	延べ床面積 (㎡)	運営	施設評価①		施設評価②				再編の可能性						
				課題	防災		土砂	浸水	目標 縮減 率	多機 能化	集約 化	民間 移譲	用途 変更	譲渡	除却	
					本部	避難										
①	コミュニティエリア	4,648.33	直営	ソフト面	-	○	○	-	40.1%	○	○					
②	コミュニティエリア	2,381.17	直営	ハード・ソフト面	○	○	○	○	40.1%	○	○					
③	コミュニティエリア	1,405.92	直営	ソフト面	○	○	○	-	40.1%	○	○					
④	コミュニティエリア	2,887.65	直営	課題なし	○	○	○	-	40.1%	○	○					
⑤	地域エリア	2,620.61	直営	ソフト面	-	○	○	-	43.9%	○	○					
⑥	地域エリア	6,564.10	直営	ハード面	-	○	○	-	43.9%	○	○					

現状と課題

■ 施設評価結果

【施設評価①】 芝富小学校、稲子小学校、柚野中学校：ソフト面に課題あり
 内房小学校：ハード・ソフト面に課題あり
 柚野小学校：課題なし
 芝川中学校：ハード面に課題あり

【施設評価②】・芝富小学校、内房小学校、稲子小学校、柚野中学校及び芝川中学校は、敷地の一部が土砂災害警戒区域に指定され、柚野小学校は、敷地全体が土砂災害警戒区域に指定されています。
 ・内房小学校は、敷地全体が浸水想定区域に指定されています。

■ 現状

- ・芝富小学校は建築後 36 年～45 年、内房小学校は建築後 38 年～46 年、稲子小学校は建築後 36 年～39 年、柚野小学校は建築後 32～37 年、柚野中学校は建築後 33 年～42 年、芝川中学校は建築後 14 年～54 年が経過しています。
- ・芝富小学校の教室棟、稲子小学校の普通教室棟（東/西）及び柚野中学校の屋内運動場は、平成 30（2018）年度に長寿命化改修を実施しました。
- ・いずれの施設も、児童及び生徒数が年々減少傾向にあることから、余裕教室を特別活動室や多目的教室に変更するなど、多様な教育環境に対応するための活用が図られています。

■ 課題等

- ・芝富小学校、稲子小学校及び柚野中学校は、品質（ハード）は高評価ですが、機能（ソフト）が低評価のため、維持管理・運営の効率化、多機能化及び集約化の検討が必要です。
- ・内房小学校は、品質（ハード）及び機能（ソフト）ともに低評価のため、今後の在り方を優先的に検討する必要があります。
- ・柚野小学校は、品質（ハード）及び機能（ソフト）ともに高評価のため、問題ありません。
- ・芝川中学校は、機能（ソフト）は高評価ですが、品質（ハード）が低評価のため、施設の修繕・改修等による品質の改善、多機能化及び建て替えの検討が必要です。
- ・芝富小学校、内房小学校、稲子小学校、柚野中学校及び芝川中学校は、敷地の一部が土砂災害警戒区域に指定され、柚野小学校は、敷地全体が土砂災害警戒区域に指定されています。
- ・内房小学校は、敷地全体が河川の氾濫による浸水想定区域内にあり、浸水の深さは 0.5m～5m未満の区域に指定されています。
- ・いずれの施設も、多機能化に当たっては、児童及び生徒の安全性を確保するための対応策の検討が必要です。また、各施設の相互利用・共同利用が行われるため、それぞれの管理区分を明確にする必要があります。

再編方針

■ 再編の可能性

- 再編手法：多機能化、集約化
- 多機能化が可能な分類：公民館、児童クラブ、出張所

■ 再編内容

【短期】

- 芝川中学校は、令和5～6（2023～2024）年度に建て替えを実施する予定です。
- 芝川中学校は、敷地の一部が土砂災害警戒区域に指定されているため、施設の配置について検討します。
- いずれの施設も、当面は、目標耐用年数に向けて長寿命化計画に基づき適切な維持管理を実施します。

【中長期】

- 芝富小学校及び内房小学校は第3次再編計画（2036～2045年）期間中に、稲子小学校、柚野小学校及び柚野中学校は第4次再編計画（2046～2055年）期間中にそれぞれ更新時期を迎えます。いずれの施設も、更新時には「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き」を参考に、多機能化及び各施設の相互利用・共同利用を検討します。
- 芝富小学校、稲子小学校、柚野中学校及び芝川中学校は、敷地の一部が土砂災害警戒区域に指定されているため、施設の移転も含めて検討します。
- 柚野小学校は、敷地全体が土砂災害警戒区域に指定されているため、施設の移転も含めて検討します。
- 内房小学校は、敷地の一部が土砂災害警戒区域に指定されており、また、敷地全体が河川の氾濫による0.5m～5m未満の浸水想定区域に指定されているため、施設の移転も含めて検討します。

力 庁舎施設

<①芝川出張所>

番号	対象エリア	延べ床面積 (㎡)	運営	施設評価①	施設評価②					再編の可能性						
				課題	防災		土砂	浸水	目標 縮減 率	多機 能化	集約 化	民間 移譲	用途 変更	譲渡	除却	
					本部	避難										
①	地域エリア	2,760.58	直営	課題なし	○	-	○	○	32.5%	○						

現状と課題

■ 施設評価結果

【施設評価①】 課題なし

【施設評価②】 ・災害時の地区本部に指定されていることから「継続利用」を基本とします。
 ・敷地の一部が土砂災害警戒区域に指定されています。
 ・敷地全体が浸水想定区域に指定されています。

■ 現状

- ・建築後 32 年が経過しています。
- ・富士宮市立芝川図書館が併設されています。
- ・平成 30（2018）年度に長寿命化改修を実施しました。

■ 課題等

- ・品質（ハード）及び機能（ソフト）ともに高評価のため、問題ありません。
- ・災害時の地区本部に指定されていることから、施設の再編を検討する際には、地域に必要な地区本部機能の確保という点について考慮する必要があります。
- ・敷地の一部が土砂災害警戒区域に指定されています。
- ・敷地全体が河川の氾濫による浸水想定区域内にあり、浸水の深さは 0.5m～10m未満の区域に指定されています。

再編方針

■ 再編の可能性

- ・再編手法：多機能化
- ・多機能化が可能な分類：公民館、小・中学校

■ 再編内容

【短期】

- ・当面は、目標耐用年数に向けて長寿命化計画に基づき適切な維持管理を実施します。

【中長期】

- ・敷地の一部が土砂災害警戒区域に指定されており、また、敷地全体が河川の氾濫による 0.5 m～10m未満の浸水想定区域に指定されているため、施設の移転も含めて検討します。

キ 消防施設

<①中央消防署芝川分署、②芝川分署水防倉庫>

番号	対象エリア	延べ床面積 (㎡)	運営	施設評価①	施設評価②					再編の可能性						
				課題	防災		土砂	浸水	目標 縮減 率	多機 能化	集約 化	民間 移譲	用途 変更	譲渡	除却	
					本部	避難										
①	地域エリア	462.85	直営	課題なし	-	-	-	○	0.0%		○					
②	地域エリア	196.05	直営	課題なし	-	-	-	○	0.0%		○					

現状と課題

■ 施設評価結果

【施設評価①】いずれの施設も、課題なし

【施設評価②】いずれの施設も、敷地全体が浸水想定区域に指定されています。

■ 現状

- 中央消防署芝川分署は建築後 28 年、芝川分署水防倉庫は建築後 25 年が経過しています。

■ 課題等

- いずれの施設も、品質（ハード）及び機能（ソフト）ともに高評価のため、問題ありません。
- いずれの施設も、敷地全体が河川の氾濫による浸水想定区域内にあり、浸水の深さは 5m～10m 未満の区域に指定されています。

再編方針

■ 再編の可能性

- 再編手法：集約化

■ 再編内容

【短期】

- いずれの施設も、当面は、目標耐用年数に向けて長寿命化計画に基づき適切な維持管理を実施します。

【中長期】

- 中央消防署芝川分署は、「富士宮市消防総合基本計画」に基づき配置の適正化を精査した上で、災害時の活動拠点としての機能性及び活動環境を考慮し消防庁舎の移転及び管轄区域について検討します。
- いずれの施設も、敷地全体が河川の氾濫による 5m～10m 未満の浸水想定区域に指定されているため、施設の移転も含めて検討します。

＜③第23分団詰所、④第24分団詰所、⑤第25分団詰所、⑥第26分団詰所、
⑦第27分団詰所、⑧第28分団詰所＞

番号	対象エリア	延べ床面積 (㎡)	運営	施設評価①	施設評価②					再編の可能性						
				課題	防災		土砂	浸水	目標 縮減率	多機 能化	集約 化	民間 移譲	用途 変更	譲渡	除却	
					本部	避難										
③	コミュニティエリア	76.58	直営	ソフト面	-	-	○	-	0.0%		○					
④	コミュニティエリア	79.18	直営	ソフト面	-	-	○	-	0.0%		○					
⑤	コミュニティエリア	77.40	直営	ソフト面	-	-	-	○	0.0%		○					
⑥	コミュニティエリア	79.29	直営	課題なし	-	-	○	-	0.0%		○					
⑦	コミュニティエリア	77.40	直営	ソフト面	-	-	-	-	0.0%		○					
⑧	コミュニティエリア	77.40	直営	ソフト面	-	-	-	-	0.0%		○					

現状と課題

■ 施設評価結果

【施設評価①】第23分団詰所、第24分団詰所、第25分団詰所、第27分団詰所、
第28分団詰所：ソフト面に課題あり
第26分団詰所：課題なし

【施設評価②】・第23分団詰所、第24分団詰所及び第26分団詰所は、敷地全体が土砂災害
警戒区域に指定されています。
・第25分団詰所は、敷地全体が浸水想定区域に指定されています。

■ 現状

・第23分団詰所は建築後14年、第24分団詰所は建築後19年、第25分団詰所は建築後
34年、第26分団詰所は建築後21年、第27分団詰所は建築後15年、第28分団詰所
は建築後14年が経過しています。

■ 課題等

・第23分団詰所、第24分団詰所、第25分団詰所、第27分団詰所及び第28分団詰所は、
品質（ハード）は高評価ですが、機能（ソフト）が低評価のため、維持管理・運営の効率化
及び集約化の検討が必要です。
・第26分団詰所は、品質（ハード）及び機能（ソフト）ともに高評価のため、問題ありませ
ん。
・いずれの施設も、団員の活動拠点として管轄区域に配置しており、その組織、管轄区域は規
則で定めていることから、集約化を図るには組織再編、規則改正が必要となります。
・第23分団詰所、第24分団詰所及び第26分団詰所は、敷地全体が土砂災害警戒区域に指
定されています。
・第25分団詰所は、敷地全体が河川の氾濫による浸水想定区域内にあり、浸水の深さは0.5
m～3m未満の区域に指定されています。

再編方針

■ 再編の可能性

- ・再編手法：集約化

■ 再編内容

【短期】

- ・いずれの施設も、当面は、目標耐用年数に向けて長寿命化計画に基づき適切な維持管理を実施していきます。

【中長期】

- ・第 25 分団詰所は、第 4 次再編計画（2046～2055 年）期間中に更新時期を迎えます。いずれの施設も、人口減少に伴う団員数の減少を考慮した分団組織の再編を進める中で、規模及び配置の適正化を精査した上で、集約化等を検討します。
- ・第 23 分団詰所、第 24 分団詰所及び第 26 分団詰所は、敷地全体が土砂災害警戒区域に指定されているため、施設の移転も含めて検討します。
- ・第 25 分団詰所は、敷地全体が河川の氾濫による 0.5m～3m 未満の浸水想定区域に指定されているため、施設の移転も含めて検討します。

ク 医療・保健・福祉施設

<①たけの子児童クラブ、②やまびこ児童クラブ、③ゆのっ子児童クラブ>

番号	対象エリア	延べ床面積 (㎡)	運営	施設評価①	施設評価②					再編の可能性						
				課題	防災		土砂	浸水	目標 縮減 率	多機 能化	集約 化	民間 移譲	用途 変更	譲渡	除却	
					本部	避難										
①	コミュニティエリア	53.00	委託	ハード・ソフト面	-	-	-	○	40.1%	○	○					
②	コミュニティエリア	79.92	委託	課題なし	-	-	-	-	40.1%	○	○					
③	コミュニティエリア	53.00	委託	ハード面	-	-	○	-	40.1%	○	○					

現状と課題

■ 施設評価結果

- 【施設評価①】 たけの子児童クラブ：ハード・ソフト面に課題あり
やまびこ児童クラブ：課題なし
ゆのっ子児童クラブ：ハード面に課題あり

- 【施設評価②】 ・たけの子児童クラブは、敷地全体が浸水想定区域に指定されています。
・ゆのっ子児童クラブは、敷地全体が土砂災害警戒区域に指定されています。

■ 現状

- ・たけの子児童クラブは建築後 38 年、やまびこ児童クラブは建築後 19 年、ゆのっ子児童クラブは建築後 42 年が経過しています。
- ・いずれの施設も、制度改正等により対象年齢がおおむね 10 歳未満から 12 歳以下に拡大されたことから、当面、利用児童数の増加が見込まれます。
- ・いずれの施設も、運営は民間委託により行われています。

■ 課題等

- ・たけの子児童クラブは、品質（ハード）及び機能（ソフト）ともに低評価のため、建物の解体の検討が必要です。
- ・やまびこ児童クラブは、品質（ハード）及び機能（ソフト）ともに高評価のため、問題ありません。
- ・ゆのっ子児童クラブは、機能（ソフト）は高評価ですが、品質（ハード）が低評価のため、施設の修繕・改修等による品質の改善、多機能化及び建て替えの検討が必要です。
- ・たけの子児童クラブは、敷地全体が河川の氾濫による浸水想定区域内にあり、浸水の深さは 0.5m～3m 未満の区域に指定されています。
- ・ゆのっ子児童クラブは、敷地全体が土砂災害警戒区域に指定されています。

再編方針

■ 再編の可能性

- 再編手法：多機能化、集約化
- 多機能化が可能な分類：地域活性化施設、公民館、小・中学校、保育園

■ 再編内容

【短期】

- やまびこ児童クラブ及びゆのっ子児童クラブは、当面は、目標耐用年数に向けて適切な維持管理を実施します。
- たけの子児童クラブは、当面は、建物の改修等により施設を維持します。
- いずれの施設も、対象年齢の拡大に伴う需要増により対応が困難な場合は、利用時間が重ならない学校の活用等を検討します。

【中長期】

- たけの子児童クラブ及びゆのっ子児童クラブは、第4次再編計画（2046～2055年）期間中にそれぞれ更新時期を迎えます。いずれの施設も、中長期的には利用需要の減少が見込まれることから、将来の利用状況等を考慮し、規模及び配置の適正化を精査する中で、施設の更新時には多機能化及び集約化を検討します。
- たけの子児童クラブは、敷地全体が河川の氾濫による0.5m～3m未満の浸水想定区域に指定されているため、施設の移転も含めて検討します。
- ゆのっ子児童クラブは、敷地全体が土砂災害警戒区域に指定されているため、施設の移転も含めて検討します。

ケ 保育園

<① 柚野保育園>

番号	対象エリア	延べ床面積 (㎡)	運営	施設評価① 課題	施設評価②					再編の可能性						
					防災		土砂	浸水	目標 縮減 率	多機 能化	集約 化	民間 移譲	用途 変更	譲渡	除却	
					本部	避難										
①	コミュニティエリア	578.06	直営	ソフト面	-	-	-	-	15.4%	○	○					

現状と課題

■ 施設評価結果

【施設評価①】ソフト面に課題あり

【施設評価②】—

■ 現状

- ・ 建築後 35 年が経過しています。
- ・ 平成 29 (2017) 年度に長寿命化改修を実施しました。

■ 課題等

- ・ 品質 (ハード) は高評価ですが、機能 (ソフト) が低評価のため、維持管理・運営の効率化、多機能化及び集約化による行政サービスの改善の検討が必要です。
- ・ 建物の更新に併せて利用需要や社会情勢等を踏まえた適正な施設配置の検討が必要です。

再編方針

■ 再編の可能性

- ・ 再編手法：多機能化、集約化
- ・ 多機能化が可能な分類：児童クラブ

■ 再編内容

【短期】

- ・ 当面は、目標耐用年数に向けて長寿命化計画に基づき適切な維持管理を実施します。

【中長期】

- ・ 第4次再編計画 (2046~2055 年) 期間中に更新時期を迎えます。子ども・子育て支援制度の影響、民間保育施設等の整備状況及び地域の特性を勘案する中で、園児数に対する施設の規模及び配置の適正化を精査し、施設の更新時には多機能化及び集約化を検討します。

コ 機能停止施設

<① (旧) 芝川中央公民館、② (旧) 芝川会館分室 (旧庁舎) >

番号	対象エリア	延べ床面積 (㎡)	運営	施設評価①	施設評価②					再編の可能性						
				課題	防災		土砂	浸水	目標 縮減 率	多機 能化	集約 化	民間 移譲	用途 変更	譲渡	除却	
					本部	避難										
①	その他	1,262.73	直営	ハード・ソフト面	-	-	-	-	100.0%							○
②	その他	184.36	直営	ハード・ソフト面	-	-	-	-	100.0%							○

現状と課題

■ 施設評価結果

【施設評価①】いずれの施設も、ハード・ソフト面に課題あり

【施設評価②】—

■ 現状

- ・(旧) 芝川中央公民館は建築後 47 年、(旧) 芝川会館分室 (旧庁舎) は建築後 41 年が経過しています。
- ・いずれの施設も、使用休止しています。

■ 課題等

- ・いずれの施設も、品質 (ハード) 及び機能 (ソフト) とともに低評価のため、施設の廃止、建物の解体及び跡地の売却の検討が必要です。

再編方針

■ 再編の可能性

- ・再編手法：除却

■ 再編内容

【短期】

- ・いずれの施設も、除却することを検討します。

【中長期】

- ・—

表 19 施設別再編計画ロードマップ（大宮東地域）

対象エリア	施設名称	延べ床面積 (㎡)	第1次 2020～2025	第2次 2026～2035	第3次 2036～2045	第4次 2046～2055
全市エリア	市役所	21,547.89	長寿命化改修を実施	空きスペースが発生した場合は、多機能化を検討		
地域エリア	南部公民館	601.95	長寿命化改修を実施	更新 多機能化		
地域エリア	富士宮第一中学校	6,084.94	屋内運動場の耐震化及び長寿命化改修を実施	更新 多機能化、集約化		
地域エリア	中央消防署	1,606.78		「富士宮市消防総合基本計画」に基づく消防体制基盤の充実		
コミュニティエリア	東小学校	4,801.52	校舎の耐震化及び長寿命化改修を実施	更新 多機能化、集約化		
コミュニティエリア	黒田小学校	5,611.27	校舎の長寿命化改修並びに屋内運動場の耐震化及び長寿命化改修を実施	更新 多機能化、集約化		
コミュニティエリア	富士見小学校	4,633.46	屋内運動場の耐震化及び長寿命化改修を実施	更新 多機能化、集約化		
コミュニティエリア	黒田第1児童クラブ	81.00				
コミュニティエリア	黒田第2・第3児童クラブ	264.98				
コミュニティエリア	ひがし第1・第2児童クラブ	265.00				
コミュニティエリア	吉美第1・第2児童クラブ	265.00				
コミュニティエリア	明星保育園	963.86		更新 多機能化、集約化		
コミュニティエリア	第5分団詰所	117.00				
コミュニティエリア	第11分団詰所(貫戸)	19.87	更新 建て替え	規模及び配置の適正化を精査した上で、集約化等 を検討		
コミュニティエリア	第11分団詰所(黒田)	65.22	更新 建て替え			
コミュニティエリア	第11分団詰所(星山)	101.94				
コミュニティエリア	第12分団詰所(山本)	77.40				
その他	月の輪住宅	6,632.80		「市営住宅長寿命化計画」等に基づき規模及び配置の適正化を検討		
その他	富士見ヶ丘住宅	4,888.32	長寿命化改修を実施	更新 「市営住宅長寿命化計画」等に基づき規模及び配置の適正化を検討		
その他	衛生プラント	2,253.59		「星山浄化センター」等の集約化に向けた検討		

凡例) 適切な維持管理の実施： →

第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

資料編

表 20 施設別再編計画ロードマップ（大宮中地域）

対象エリア	施設名称	延べ床面積 (㎡)	第1次 2020～2025	第2次 2026～2035	第3次 2036～2045	第4次 2046～2055
全市エリア	駅前交流センター	1,441.10				・余剰スペースが発生した場合、他用途使用を検討 ・多機能化、集約化を検討
全市エリア	市民文化会館	8,252.72	耐震改修、長寿命化改修を実施			更新 多機能化、集約化
全市エリア	富士宮市立中央図書館	3,802.06				
全市エリア	富士宮市立病院	26,726.57				更新 他医療機関との連携・機能分担等による配置の適正化
地域エリア	大富士交流センター	1,314.09				多機能化、集約化を検討
地域エリア	富士宮第二中学校	6,822.51	校舎の長寿命化改修を実施	更新 多機能化、集約化		
地域エリア	大富士中学校	8,597.16				
コミュニティエリア	大宮小学校	6,822.19				更新 多機能化、集約化
コミュニティエリア	大富士小学校	5,786.19			更新 多機能化、集約化	
コミュニティエリア	大宮保育園	1,490.93				
コミュニティエリア	大富士保育園	609.85	長寿命化改修を実施			更新 多機能化、集約化
コミュニティエリア	第1分団詰所	102.80				
コミュニティエリア	第2分団詰所	76.70				
コミュニティエリア	第3分団詰所	102.80				
コミュニティエリア	第8分団詰所	76.80				
その他	療育支援センター	1,061.96				
その他	あすなる園	635.79	空調設備の長寿命化改修を実施			敷地の一部が土砂災害警戒区域内のため、施設の移転も含め検討
その他	下万野住宅	945.66				「市営住宅長寿命化計画」等に基づき規模及び配置の適正化を検討
その他	万野住宅	-	更新 老朽化した施設の建て替えを実施			「市営住宅長寿命化計画」等に基づき規模及び配置の適正化を検討
その他	(旧)中央公民館 生涯学習ルーム	307.00	民間移譲を検討			

凡例) 適切な維持管理の実施： →

表 21 施設別再編計画ロードマップ（大宮西地域）

対象エリア	施設名称	延べ床面積 (㎡)	第1次 2020～2025	第2次 2026～2035	第3次 2036～2045	第4次 2046～2055
地域エリア	西公民館	935.94				敷地全体が浸水想定区域内(浸水の深さ0.5m～3m未満)のため、施設の移転も含め検討
地域エリア	富士宮第三中学校	5,577.95				更新 多機能化、集約化
コミュニティ エリア	貴船小学校	6,244.07			更新 多機能化、集約化	
コミュニティ エリア	西小学校	3,823.87				
コミュニティ エリア	なかよし西児童クラブ室	76.18				
コミュニティ エリア	第4分団詰所	68.77				更新 集約化
コミュニティ エリア	第9分団詰所	102.80				規模及び配置の適正化を精査した上で、集約化等を検討
コミュニティ エリア	第10分団詰所(安居山)	117.00				敷地全体が土砂災害警戒区域内のため、施設の移転も含め検討 規模及び配置の適正化を精査した上で、集約化等を検討
コミュニティ エリア	第10分団詰所(沼久保)	64.20				敷地全体が浸水想定区域内(浸水の深さ5m～10m未満)のため、施設の移転も含め検討 規模及び配置の適正化を精査した上で、集約化等を検討
その他	白尾住宅	9,212.07				「市営住宅長寿命化計画」等に基づき規模及び配置の適正化を検討

凡例) 適切な維持管理の実施: →

表 22 施設別再編計画ロードマップ（富丘地域）

対象エリア	施設名称	延べ床面積 (㎡)	第1次 2020～2025	第2次 2026～2035	第3次 2036～2045	第4次 2046～2055
全市エリア	富士宮市民体育館	8,398.44	長寿命化改修を実施			
全市エリア	富士宮市民プール	3,541.91				
全市エリア	総合福祉会館	5,928.12				余剰スペースが発生した場合、施設の有効活用等を検討
全市エリア	保健センター・ 救急医療センター	3,171.19				
地域エリア	富丘公民館	639.93				別敷地に「富丘交流センター」として建て替えるため、当該施設は廃止し、建物は除却
地域エリア	富士宮第四中学校	6,168.64		更新 多機能化、集約化		敷地の一部が浸水想定区域内(浸水の深さ0.5m未満)のため、施設の移転も含め検討
地域エリア	西消防署	724.22				「富士宮市消防総合基本計画」に基づき施設の配置を検討
コミュニティ エリア	富丘小学校	5,492.14	機械設備の長寿命化改修を実施		更新 多機能化、集約化	
コミュニティ エリア	西保育園	893.33			更新 多機能化、集約化	
コミュニティ エリア	第6分団詰所(青木)	102.80				敷地の一部が浸水想定区域内(浸水の深さ0.5m未満)のため、施設の移転も含め検討
コミュニティ エリア	第6分団詰所(外神)	76.80				
コミュニティ エリア	第6分団詰所(淀師)	102.80				規模及び配置の適正化を精査した上で、集約化等を検討
コミュニティ エリア	第7分団詰所	76.80				

表 23 施設別再編計画ロードマップ（富士根南地域）

対象エリア	施設名称	延べ床面積 (㎡)	第1次 2020～2025	第2次 2026～2035	第3次 2036～2045	第4次 2046～2055
地域エリア	富士根南公民館	653.44	「(仮称)富士根南交流センター」の整備に合わせて、施設の在り方を検討			
地域エリア	富士根南中学校	8,130.08				更新 多機能化、集約化
コミュニティ エリア	富士根南小学校	8,122.78		更新 多機能化、集約化		
コミュニティ エリア	富士根保育園	1,231.15				
コミュニティ エリア	大岩明倫保育園	953.00				更新 多機能化、集約化
コミュニティ エリア	第12分団詰所(小泉)	117.00		規模及び配置の適正化を精査した上で、集約化等を検討		
コミュニティ エリア	第13分団詰所	102.80				
コミュニティ エリア	第14分団詰所(小泉)	76.70				
コミュニティ エリア	第14分団詰所(大岩)	101.94				
その他	小泉住宅	863.59		「市営住宅長寿命化計画」等に基づき規模及び配置の適正化を検討		
その他	上小泉住宅	626.61		「市営住宅長寿命化計画」等に基づき規模及び配置の適正化を検討		
その他	大岩住宅	980.60		更新	「市営住宅長寿命化計画」等に基づき規模及び配置の適正化を検討 敷地の一部が土砂災害警戒区域内のため、施設の移転も含め検討	

凡例) 適切な維持管理の実施： →

表 24 施設別再編計画ロードマップ（富士根北地域）

対象エリア	施設名称	延べ床面積 (㎡)	第1次 2020～2025	第2次 2026～2035	第3次 2036～2045	第4次 2046～2055
全市エリア	富士山環境交流プラザ	441.41		指定管理者による運営の可能性を検討		
地域エリア	富士根北公民館	604.28				更新 多機能化
地域エリア	富士根北中学校	3,583.25				更新 多機能化、集約化
地域エリア	中央消防署東分署	293.37		「富士宮市消防総合基本計画」に基づく消防体制基盤の充実		
コミュニティ エリア	富士根北小学校	3,476.03				更新 多機能化、集約化
コミュニティ エリア	富士根北小学校粟倉分校	744.00				
コミュニティ エリア	粟倉保育園	604.62				更新 多機能化、集約化
コミュニティ エリア	第15分団詰所(二又)	102.80		規模及び配置の適正化を精査した上で、集約化等を検討		
コミュニティ エリア	第15分団詰所(村山)	60.27				
コミュニティ エリア	第15分団詰所(神成)	101.94				
その他	粟倉住宅	13,241.18	長寿命化改修を実施		更新	「市営住宅長寿命化計画」等に基づき規模及び配置の適正化を検討

凡例) 適切な維持管理の実施： →

表 25 施設別再編計画ロードマップ（北山地域）

対象エリア	施設名称	延べ床面積 (㎡)	第1次 2020～2025	第2次 2026～2035	第3次 2036～2045	第4次 2046～2055
広域エリア	富士山天母の湯	995.89		民間への移譲も含め検討		
地域エリア	北山中学校	4,055.28	校舎の長寿命化 改修を実施			更新 多機能化、集約化
地域エリア	北山出張所	659.18	耐震補強及び長寿 命化改修を実施			更新 多機能化
コミュニティ エリア	山宮小学校	3,433.55			更新 多機能化、集約化	
コミュニティ エリア	北山小学校	3,569.35				更新 多機能化、集約化
コミュニティ エリア	山宮児童クラブ	39.00				更新 多機能化、集約化
コミュニティ エリア	北山児童クラブ	96.88				
コミュニティ エリア	山宮保育園	589.15				更新 多機能化、集約化
コミュニティ エリア	北山保育園	868.05				更新 多機能化、集約化
コミュニティ エリア	第16分団詰所	77.63		規模及び配置の適正化を精査 した上で、集約化等を検討		更新 集約化
コミュニティ エリア	第17分団詰所(上組)	120.00				更新 集約化
その他	市立学校給食センター	4,777.88				
その他	富士宮聖苑	1,672.40	火葬棟は耐震補 強方法の検討			更新 利用状況等を考 慮し、施設の在り 方を検討
その他	清掃センター	8,997.68	耐震補強方法の 検討、旧管理棟 の解体を検討			更新 利用状況等を考 慮し、建て替えを 効率的に実施
その他	鞍骨沢最終処分場	1,089.10				

凡例) 適切な維持管理の実施: →

第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

資料編

表 26 施設別再編計画ロードマップ（上野地域）

対象エリア	施設名称	延べ床面積 (㎡)	第1次 2020～2025	第2次 2026～2035	第3次 2036～2045	第4次 2046～2055
地域エリア	上野中学校	3,652.12				更新 多機能化、集約化
地域エリア	上野出張所	1,058.33				
地域エリア	西消防署上野分署	340.27		「富士宮市消防総合基本計画」に基づき施設の配置を 検討		
コミュニティ エリア	上野小学校	4,446.14			更新 屋内運動場の建 て替えを検討	
コミュニティ エリア	上野児童クラブ	149.06				
コミュニティ エリア	第18分団詰所(馬見塚)	52.30	第18分団詰所へ 集約	建物は水防倉庫として使用		
コミュニティ エリア	第18分団詰所 (旧第18・19分団詰所)	177.84	更新 建て替え	規模及び配置の適正化を精査した上で、集約化等を 検討		
コミュニティ エリア	旧第19分団詰所(精進川)	52.30		建物は水防倉庫として使用		
コミュニティ エリア	第19分団詰所(妙蓮寺)	52.31	更新 建て替え	規模及び配置の適正化を精査した上で、集約化等を 検討		
コミュニティ エリア	第19分団詰所	165.02				
その他	長生園	1,841.23		管理運営方法の検討		

凡例) 適切な維持管理の実施: →

表 27 施設別再編計画ロードマップ（上井出地域）

対象エリア	施設名称	延べ床面積 (㎡)	第1次 2020～2025	第2次 2026～2035	第3次 2036～2045	第4次 2046～2055
広域エリア	白糸の滝観光案内所	218.61				
広域エリア	道の駅朝霧高原	697.72				
地域エリア	富士宮市立西富士図書館	622.55				
地域エリア	西富士中学校	4,593.35			更新 多機能化、集約化	
地域エリア	井之頭中学校	2,160.15	校舎の耐震化及び長寿命化改修を実施			更新 多機能化、集約化
地域エリア	西消防署北分署	853.87		「富士宮市消防総合基本計画」に基づく消防体制基盤の充実		
コミュニティエリア	上井出小学校	2,625.59				更新 多機能化、集約化
コミュニティエリア	人穴小学校	1,942.85				更新 多機能化、集約化
コミュニティエリア	井之頭小学校	2,114.60	屋内運動場の耐震化及び長寿命化改修を実施		更新 多機能化、集約化	
コミュニティエリア	井之頭小学校根原分校	480.00		今後の施設の在り方を検討		
コミュニティエリア	上井出児童クラブ	63.00				更新 多機能化、集約化
コミュニティエリア	上井出保育園	842.24				更新 多機能化、集約化
コミュニティエリア	井之頭保育園	420.31				更新 多機能化、集約化
コミュニティエリア	第20分団詰所(人穴)	52.30				更新 集約化
コミュニティエリア	第20分団詰所(上井出)	162.10				更新 集約化
コミュニティエリア	第21分団詰所(麓)	19.87				更新 集約化
コミュニティエリア	第21分団詰所(猪之頭)	146.44				更新 集約化
その他	田貫湖キャンプ場(湖畔荘)	483.88	施設を廃止し、建物は除却			

凡例) 適切な維持管理の実施： →

第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

資料編

表 28 施設別再編計画ロードマップ（白糸地域）

対象エリア	施設名称	延べ床面積 (㎡)	第1次 2020～2025	第2次 2026～2035	第3次 2036～2045	第4次 2046～2055
全市エリア	白糸自然公園	1,101.51				
地域エリア	白糸出張所	1,066.65	更新 建て替え			
コミュニティ エリア	白糸小学校	3,407.04	校舎の長寿命化 改修を実施		更新 多機能化、集約化	
コミュニティ エリア	白糸児童クラブ	47.00		更新 多機能化、集約化		
コミュニティ エリア	白糸保育園	643.82				更新 多機能化、集約化
コミュニティ エリア	第22分団詰所(原)	145.50		規模及び配置の適正化を精査した上で、集約化等を検討		
その他	(旧)白糸老人憩の家	317.26	除却			

凡例) 適切な維持管理の実施: →

表 29 施設別再編計画ロードマップ（芝川地域 1/2）

対象エリア	施設名称	延べ床面積 (㎡)	第1次 2020～2025	第2次 2026～2035	第3次 2036～2045	第4次 2046～2055
広域エリア	新稲子川温泉ユー・トリオ	1,645.12				
全市エリア	埋蔵文化財センター	1,372.85		敷地全体が浸水想定区域内(浸水の深さ5m～10m未満)のため、施設の移転も含め検討		
全市エリア	郷土資料館内房収蔵庫	253.90	除却を検討			
全市エリア	B&G海洋センター	1,716.17				
地域エリア	柚野の里活性化施設	236.64				
地域エリア	芝川公民館	2,245.82				
地域エリア	柚野公民館	609.09			更新 多機能化	
地域エリア	芝川公民館内房分館	343.84		敷地全体が土砂災害警戒区域内のため、施設の移転も含め検討		更新
地域エリア	芝川中学校	6,564.10	更新 建て替え 配置の検討			
地域エリア	柚野中学校	2,620.61				更新 多機能化、集約化
地域エリア	芝川出張所	2,760.58		敷地の一部が土砂災害警戒区域内及び敷地全体が浸水想定区域内(浸水の深さ0.5m～10m未満)のため、施設の移転も含め検討		
地域エリア	中央消防署芝川分署	462.85		「富士宮市消防総合基本計画」に基づき施設の移転及び管轄区域を検討 敷地全体が浸水想定区域内(浸水の深さ5m～10m未満)のため、施設の移転も含め検討		
地域エリア	芝川分署水防倉庫	196.05		敷地全体が浸水想定区域内(浸水の深さ5m～10m未満)のため、施設の移転も含め検討		

凡例) 適切な維持管理の実施: →

表 29 施設別再編計画ロードマップ（芝川地域 2/2）

対象エリア	施設名称	延べ床面積 (㎡)	第1次 2020～2025	第2次 2026～2035	第3次 2036～2045	第4次 2046～2055
コミュニティ エリア	芝富小学校	4,648.33			更新 多機能化、集約化	
				敷地の一部が土砂災害警戒区域内のため、施設の移転も含め検討		
コミュニティ エリア	内房小学校	2,381.17			更新 多機能化、集約化	
				敷地の一部が土砂災害警戒区域内及び敷地全体が浸水想定区域内(浸水の深さ0.5m～5m未満)のため、施設の移転も含め検討		
コミュニティ エリア	稲子小学校	1,405.92				更新 多機能化、集約化
				敷地の一部が土砂災害警戒区域内のため、施設の移転も含め検討		
コミュニティ エリア	柚野小学校	2,887.65				更新 多機能化、集約化
				敷地全体が土砂災害警戒区域内のため、施設の移転も含め検討		
コミュニティ エリア	たけの子児童クラブ	53.00				更新 多機能化、集約化
				敷地全体が浸水想定区域内(浸水の深さ0.5m～3m未満)のため、施設の移転も含め検討		
コミュニティ エリア	やまびこ児童クラブ	79.92				
コミュニティ エリア	ゆのっ子児童クラブ	53.00				更新 多機能化、集約化
				敷地全体が土砂災害警戒区域内のため、施設の移転も含め検討		
コミュニティ エリア	柚野保育園	578.06				更新 多機能化、集約化
コミュニティ エリア	第23分団詰所	76.58				
				規模及び配置の適正化を精査した上で、集約化等を検討 敷地全体が土砂災害警戒区域内のため、施設の移転も含め検討		
コミュニティ エリア	第24分団詰所	79.18				
				規模及び配置の適正化を精査した上で、集約化等を検討		
コミュニティ エリア	第25分団詰所	77.40				更新 集約化
				敷地全体が浸水想定区域内(浸水の深さ0.5m～3m未満)のため、施設の移転も含め検討 規模及び配置の適正化を精査した上で、集約化等を検討 敷地全体が土砂災害警戒区域内のため、施設の移転も含め検討		
コミュニティ エリア	第26分団詰所	79.29				
				規模及び配置の適正化を精査した上で、集約化等を検討		
コミュニティ エリア	第27分団詰所	77.40				
				規模及び配置の適正化を精査した上で、集約化等を検討		
コミュニティ エリア	第28分団詰所	77.40				
				規模及び配置の適正化を精査した上で、集約化等を検討		
その他	(旧)芝川中央公民館	1,262.73				
その他	(旧)芝川会館分室 (旧庁舎)	184.36	除却を検討			

凡例) 適切な維持管理の実施: →

第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

資料編

第5章 今後の取組方針

1 計画の取組体制

(1) 全庁的な取組体制

再編計画の庁内の取組体制として、行政改革推進本部の下部組織である資産活用検討部会及び公共施設再編専門部会を活用し、公共施設の再編に関する具体的事項の企画立案、関係部局との連絡調整等を行います。

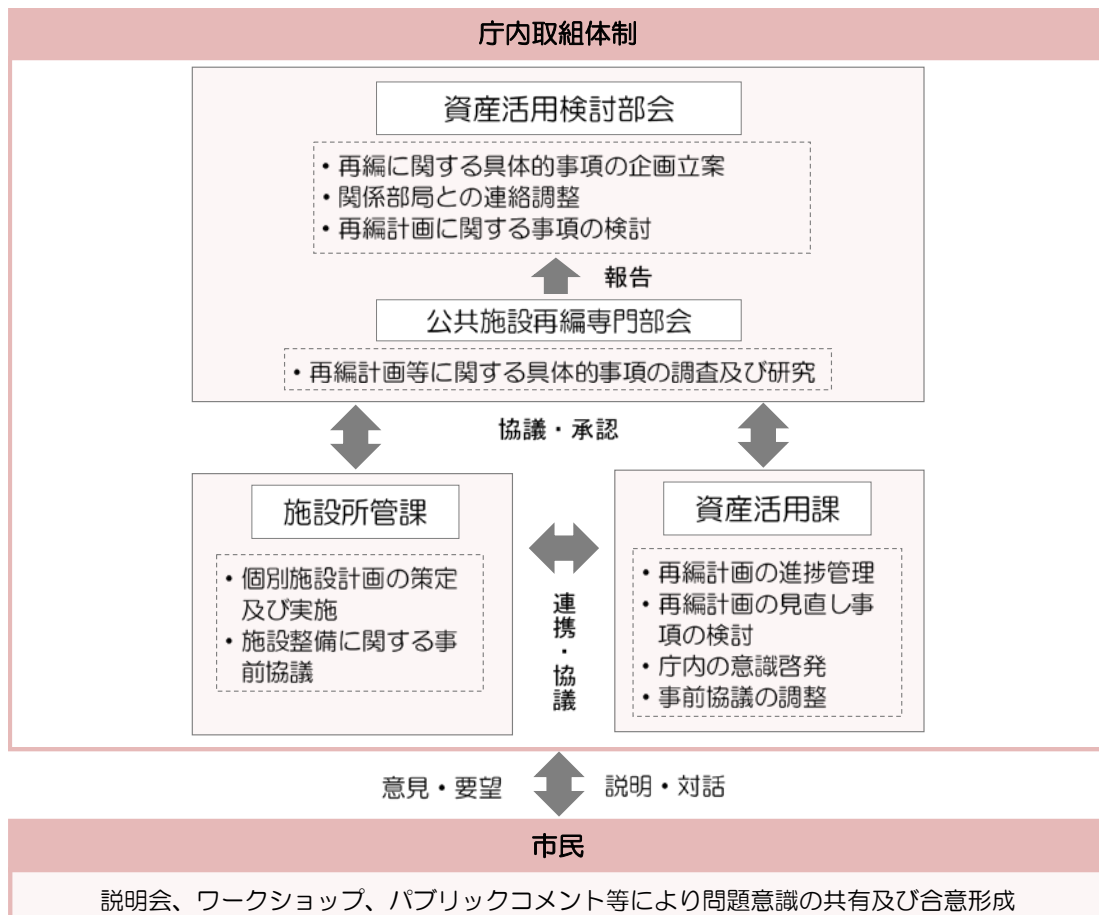
また、再編計画の推進に当たっては、資産活用課が主管課となり、施設所管課と連携を図りながら、再編計画の進捗管理・見直し事項の検討、庁内の意識啓発等を行います。

(2) 市民との連携

公共施設の再編は、市民生活との関わりが深いことから、公共施設に関する市民ニーズの把握に努めるとともに、公共施設の現状と今後の課題について、市民への情報提供を積極的に行うことで問題意識の共有を図り、市民と共に議論を重ねて取り組みます。

なお、再編計画の策定に当たっては、市民アンケート及び市民ワークショップを実施しました。結果は資料編に掲載しています。

図 11 計画の取組体制



(3) 情報管理

公共建築物の情報の一元管理と、全庁的な情報共有が可能となるシステムとして既に「富士宮市公共建築物管理システム」を導入しています。

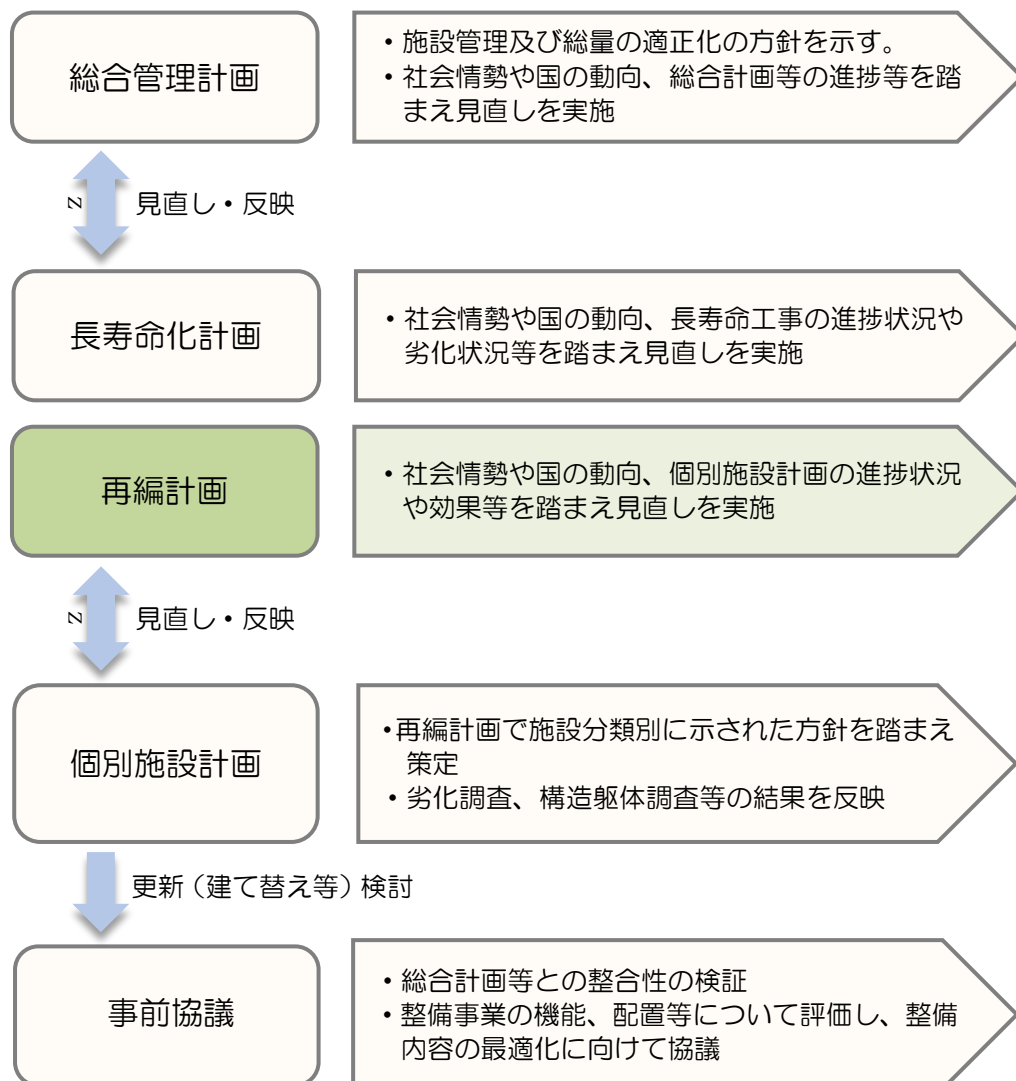
本システムには、公共建築物に関する基本データが登録されていますが、今後、再編を検討する際に必要となるデータ及びシステム機能の充実を検討します。

また、固定資産の評価額等といった資産情報については、別途導入している固定資産台帳管理システム等を併せて活用します。

(4) 個別施設計画の策定

施設分類別に示された再編方針を踏まえ、各個別施設について、短期及び中長期における更新、長寿命化等の実行計画となる個別施設計画を策定します。なお、個別施設計画は、再編計画の方針、考え方等と整合を図りつつ、劣化調査、構造躯体調査等による結果を反映します。

図 12 再編計画の全体像

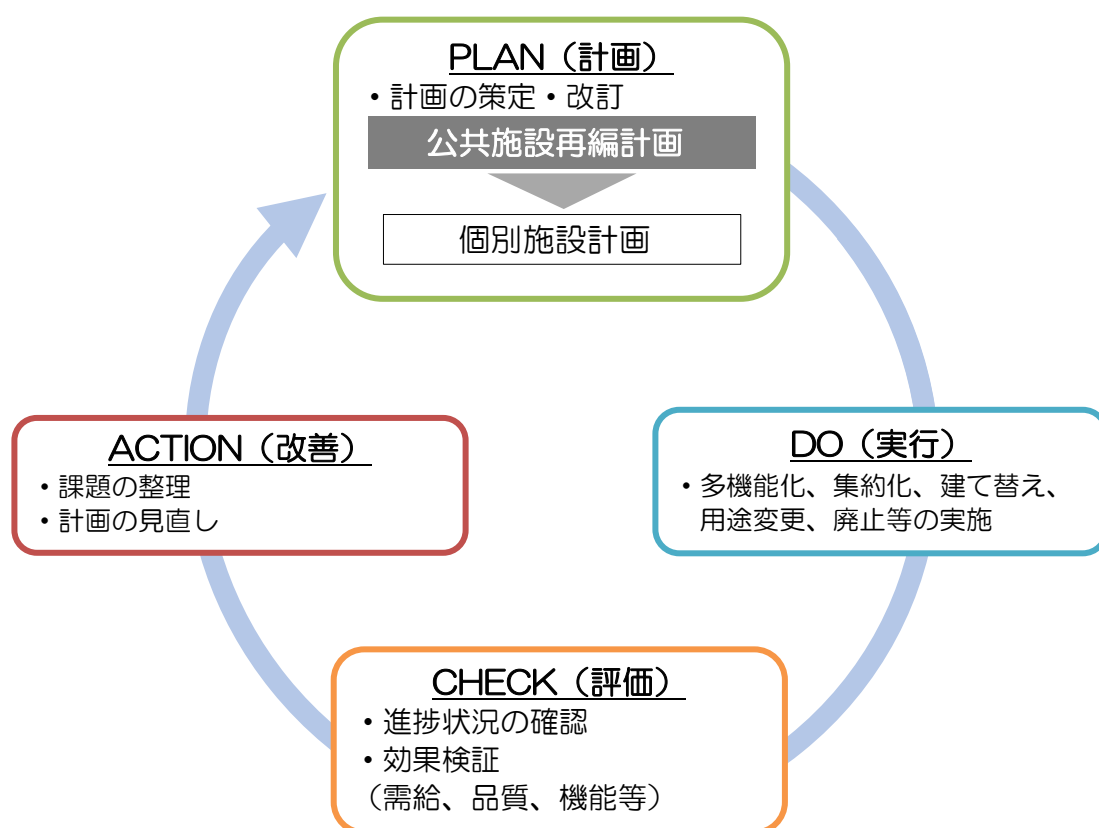


2 フォローアップの実施

再編計画は、図 13 のとおり PDCA (Plan-Do-Check-Action) サイクル※の手法に基づいた進捗管理を実施し、継続的かつ着実に進めます。

※ Plan (計画)、Do (実行)、Check (評価)、Action (改善) の4段階のプロセスを循環させ、業務を継続的に改善していくマネジメント手法の1つ

図 13 再編計画の PDCA サイクル



3 計画の定期的な見直し

最上位計画である「総合計画」の改訂に併せて、再編計画の見直しを行います。(P12 図4参照)
また、市民ニーズ、社会情勢等の変化により、必要に応じて柔軟に再編計画の見直しを検討します。

4 事前協議制度の導入

施設所管課が施設整備の検討を進めるに当たっては、施設所管課と資産活用課が事前に協議を行い、総合計画、総合管理計画及び再編計画との整合性を検証するとともに、整備事業の機能、配置等について一定の評価を行い、公共施設の整備内容の最適化を図る仕組みを構築します。
